

Chapter1 工業簿記の基礎

Section1 工業簿記とは

—基本問題— 1-1

(2) 工業簿記は、製造活動を記録・計算することに特徴がある。

Section2 原価

—基本問題— 1-2

製造原価、販売費および一般管理費の分類は、原則として、次のように理解しよう。

工場で発生する原価 → 製造原価

営業所で発生する原価 → 販売費

本社で発生する原価 → 一般管理費

⑤と⑩は、それぞれ異常な状態を原因とするものと利益剰余金に課する項目であり、非原価項目である。

—基本問題— 1-3

とくに製造原価の内訳について、しっかりと理解すること。

—基本問題— 1-4

- ① 製造直接費＝直接材料費＋直接労務費＋直接経費
 $=580,000 \text{ 円} + 420,000 \text{ 円} + 200,000 \text{ 円} = 1,200,000 \text{ 円}$
- ② 製造間接費＝間接材料費＋間接労務費＋間接経費
 $=170,000 \text{ 円} + 260,000 \text{ 円} + 320,000 \text{ 円} = 750,000 \text{ 円}$
- ③ 製造原価＝製造直接費＋製造間接費
 $=1,200,000 \text{ 円} + 750,000 \text{ 円} = 1,950,000 \text{ 円}$
- ④ 営業費＝販売費＋一般管理費
 $=150,000 \text{ 円} + 300,000 \text{ 円} = 450,000 \text{ 円}$
- ⑤ 総原価＝製造原価＋販売費
 $=1,950,000 \text{ 円} + 450,000 \text{ 円} = 2,400,000 \text{ 円}$
- ⑥ 販売価格＝総原価 × (1＋利益率)
 $=2,400,000 \text{ 円} \times (1+0.2) = 2,880,000 \text{ 円}$

◆検定対策問題◆ 1.

製造原価の内訳の材料費、労務費および経費の区分については、Chapter3～5で改めて詳しく学習する。

③と⑤は、経営目的に関連しないものであり、非原価項目である。

◆検定対策問題◆ 2.

製品の製造原価＝直接材料費＋直接労務費＋直接経費＋製造間接費の配賦額

製品Aの製造原価＝32,000円＋25,000円＋5,000円＋48,000円＝110,000円

製品Bの製造原価＝38,000円＋39,000円＋4,000円＋32,000円＝113,000円

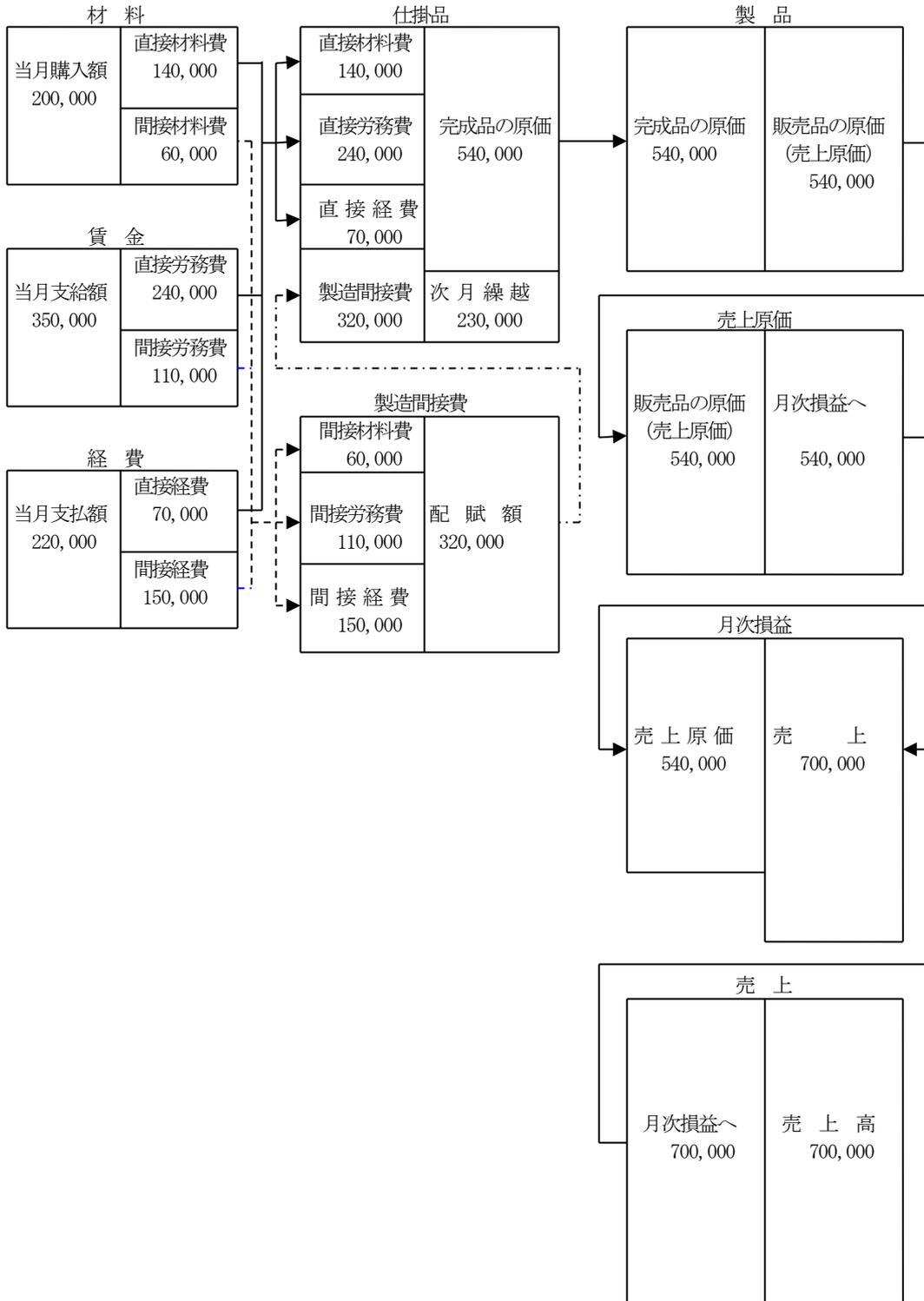
Chapter2 工業簿記のしくみ

Section 2 工業簿記の勘定体系

—基本問題— 2-1

工業簿記における一連の取引の基本的な仕訳パターンを理解しよう。

勘定連絡図を示せば、次のとおりである。



—基本問題— 2-2

仕訳から元帳転記において、相手勘定が複数ある場合、「諸口」と記入することもある。問題により、各自判断すること。

◆検定対策問題◆ 1.

(1) 材料勘定の記入

①前月繰越の金額=92,000円(合計額) -80,000円(仕入高) =12000円

②仕掛品および製造間接費の金額は、仕掛品勘定および製造間接費勘定の材料の金額である。

(2) 経費勘定の記入

製造間接費の金額=48,000円(合計額) -6,000円(仕掛品の金額) =42,000円

(3) 製造間接費の記入

①経費の金額は、(2)で算定した製造間接費の金額と同額である。

②賃金の金額=74,000円(合計額) -18,000円(材料の金額) -42,000円(①の金額)
=14,000円

(4) 賃金勘定の記入

①製造間接費の金額は、(3)で算定した賃金の金額と同額である。

②仕掛品の金額=68,000円(合計額) -14,000円(①の金額) =54,000円

(5) 仕掛品勘定の記入

①賃金の金額は、(4)で算定した仕掛品の金額と同額である。

②経費の金額は、経費勘定の仕掛品の金額と同額である。

③製造間接費の金額は、製造間接費勘定の仕掛品の金額と同額である。

④合計額=10,000円+65,000円+54,000円+6,000円+74,000円=209,000円

⑤次月繰越の金額=209,000円-160,000円(製品の金額) =49,000円

◆検定対策問題◆ 2.

① 材料勘定の製造間接費の金額は貸借の差額として計算する。

$640円 + 2,440円 - (2,200円 + 480円) = 400円$

② 賃金勘定の貸方は、仕掛品と製造間接費の金額が記入されるが、製造間接費勘定と仕掛品勘定の賃金の金額を記入すればよい

③ 製造間接費勘定の材料の金額は①から400円となる。

これにより、貸方の金額は、880円(=400円+280円+200円)になる。

また、製造間接費の貸方の金額は、〈資料〉4から、 $2,200円 \times 40\% = 800円$ でも計算できる。

④ 仕掛品勘定の材料の金額は材料勘定の仕掛品の金額が、また製造間接費の金額は③で算定した880円が入る。仕掛品勘定の貸方の空欄には製品勘定が入るが、その金額は貸借の差額として、次のように計算される。

$480円 + 2,200円 + 1,160円 + 880円 - 1,440円 = 3,280円$

⑤ 製品勘定の借方には④で計算した仕掛品の金額3280円が入る。それにより、製品勘定の貸方には売上原価勘定が入るが、その金額は貸借の差額として次のように計算される。

$960円 + 3,280円 - 240円 = 4,000円$

⑥ 売上勘定の金額は〈資料〉2から次のように計算される。

$4,000円 \times (1 + 0.2) = 4,800円$

⑦ 売掛金勘定の借方には、売上勘定が入り、金額は⑥で計算した4,800円である。

Chapter3 材料費の計算と記帳

Section2 材料の購入原価の計算

—基本問題— 3—1

$$(1) \text{ 単位原価} : \frac{250,000 \text{ 円 (購入代価)} + 5,000 \text{ 円 (外部材料副費)}}{500 \text{ kg}} = @510 \text{ 円}$$

(2) 内部材料副費の予定配賦率を算定し、(1)の単位原価に加算する。

$$\text{予定配賦率} : \frac{336,000 \text{ 円}}{48,000 \text{ kg}} = @7 \text{ 円}$$

$$\text{単位原価} : @510 \text{ 円} + @7 \text{ 円} = @517 \text{ 円}$$

—基本問題— 3—2

$$(1) \text{ 材料の購入原価} : \frac{500 \text{ kg} \times @620 \text{ 円}}{\text{購入代価}} + \frac{4,000 \text{ 円}}{\text{引取運賃}} = 314,000 \text{ 円}$$

(2) 材料の返品に関する処理は、商業簿記の商品の値引・返品と同様である。

—基本問題— 3—3

$$(1) \text{ 材料の購入原価} : 400 \text{ kg} \times @450 \text{ 円} + 62,000 \text{ 円} + 3,600 \text{ 円} = 245,600 \text{ 円}$$

$$(2) \text{ 材料副費配賦差異} : \frac{3,600 \text{ 円}}{\text{予定配賦額}} - \frac{4,100 \text{ 円}}{\text{実際発生額}} = -500 \text{ 円 (不利差異)}$$

Section3 材料消費額の計算と記帳

—基本問題— 3—4

$$\text{直接材料費} : 500 \text{ 個} \times @600 \text{ 円} = 300,000 \text{ 円}$$

$$\text{間接材料費} : 150 \text{ 個} \times @600 \text{ 円} = 90,000 \text{ 円}$$

製造指図書番号が記載されているものは、直接材料費である。

製造指図書番号が記載されていないものが、間接材料費である。

—基本問題— 3—5

棚卸計算法では、次の計算式により材料消費数量を求め、材料消費額を算定する。

$$\text{材料消費数量} = \text{月初棚卸数量} + \text{当月受入数量} - \text{月末実地棚卸数量}$$

$$\text{材料費} : (300 \text{ 個} + 500 \text{ 個} - 180 \text{ 個}) \times @300 \text{ 円} = 186,000 \text{ 円}$$

—基本問題— 3-6

- ① 移動平均法による加重平均単価の計算

4日の材料購入時点での加重平均単価は、次のように算定する。

$$\text{加重平均単価} = \frac{60,000 \text{ 円} + 96,000 \text{ 円}}{200 \text{ kg} + 300 \text{ kg}} = 312 \text{ 円}$$

14日の払出分が直接材料費、29日の払出分が間接材料費である。

- ② 先入先出法による材料費の計算

直接材料費 (14日の払出分) : $200 \text{ kg} \times @300 \text{ 円} + 100 \text{ kg} \times @320 \text{ 円} = 92,000 \text{ 円}$

間接材料費 (27日の払出分) : $200 \text{ kg} \times @320 \text{ 円} + 100 \text{ kg} \times @318 \text{ 円} = 95,800 \text{ 円}$

—基本問題— 3-7

6/7 材料購入原価 : $70 \text{ 個} \times @920 \text{ 円} + 1,400 \text{ 円} = 65,800 \text{ 円}$

材料購入単価 : $65,800 \text{ 円} \div 70 \text{ 個} = @940 \text{ 円}$

14 先入先出法であるため、払出材料 60 個のうち 50 個は前期繰越分、残り 10 個は 7 日購入分で計算する。

$$50 \text{ 個} \times @900 \text{ 円} + 10 \text{ 個} \times @940 \text{ 円} = 54,400 \text{ 円}$$

19 払出材料は、7 日購入分で計算する。

$$30 \text{ 個} \times @940 \text{ 円} = 28,200 \text{ 円}$$

30 払出材料のうち 30 個は 7 日購入分、残り 30 個は 25 日購入分で計算する。

$$30 \text{ 個} \times @940 \text{ 円} + 30 \text{ 個} \times @910 \text{ 円} = 55,500 \text{ 円}$$

—基本問題— 3-8

- (1) 予定消費価格による材料費の計算

ケース① : $120 \text{ kg} \times @400 \text{ 円} \text{ (予定消費価格)} = 48,000 \text{ 円}$

ケース② : $120 \text{ kg} \times @430 \text{ 円} \text{ (予定消費価格)} = 51,600 \text{ 円}$

- (2) 材料消費価格差異の計算

- ① 実際消費価格による材料費の計算

実際消費価格による材料費 : $80 \text{ kg} \times @400 \text{ 円} + 40 \text{ kg} \times @420 \text{ 円} = 48,800 \text{ 円}$

- ② 差異の計算

材料消費価格差異 = 予定消費価格による材料費 - 実際消費価格による材料費

ケース① : $48,000 \text{ 円} - 48,800 \text{ 円} = -800 \text{ 円}$ (不利差異)

ケース② : $51,600 \text{ 円} - 48,800 \text{ 円} = 2,800 \text{ 円}$ (有利差異)

—基本問題— 3-9

- (3) 材料消費額は予定価格 (@640 円) を用い、仕掛品勘定と製造間接費勘定に振り替える。

直接材料費 (製造指図書 No. 41) : $500 \text{ kg} \times @640 \text{ 円} = 320,000 \text{ 円}$ → 仕掛品勘定

製造間接費 (間接材料) : $300 \text{ kg} \times @640 \text{ 円} = 192,000 \text{ 円}$ → 製造間接費勘定

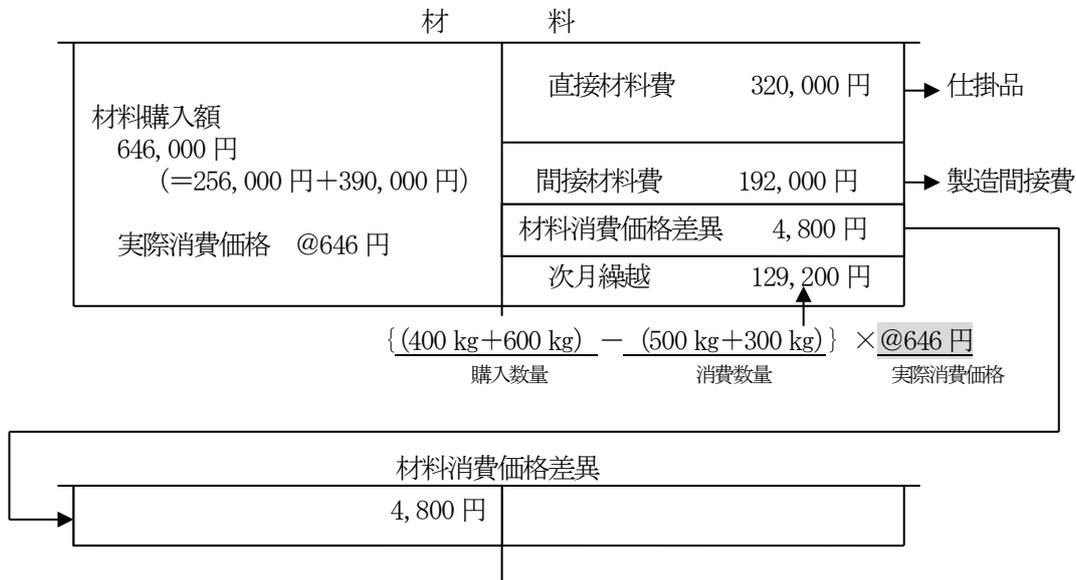
- (4) 実際消費額を計算し、予定消費額との差額を把握する。

- ① 総平均法による実際消費価格の計算

$$\text{実際消費価格} = \frac{256,000 \text{ 円} + 390,000 \text{ 円}}{400 \text{ kg} + 600 \text{ kg}} = @646 \text{ 円}$$

② 材料消費価格差異の計算

$$\begin{aligned} \text{材料消費価格差異} &= \frac{(500 \text{ kg} + 300 \text{ kg}) \times @640 \text{ 円}}{\text{予定消費価格による材料費}} - \frac{(500 \text{ kg} + 300 \text{ kg}) \times @646 \text{ 円}}{\text{実際消費価格による材料費}} \\ &= -4,800 \text{ 円 (借方差異)} \end{aligned}$$



◆検定対策問題◆ 1.

本問を解くためには、取引の日付ごとの仕訳を行うとよい。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
7/2	材 料	2,400,000	買 掛 金	2,400,000
6	材 料	3,150,000	買 掛 金	3,150,000
9	仕 掛 品	5,550,000	材 料	5,550,000
10	材 料	255,000	現 金	255,000
14	材 料	2,250,000	買 掛 金	2,250,000
18	仕 掛 品	1,950,000	材 料	1,950,000
20	材 料	165,000	買 掛 金	165,000
26	材 料	5,175,000	現 金	5,175,000
27	仕 掛 品	5,415,000	材 料	5,415,000
31	製 造 間 接 費	375,000	材 料	375,000

この仕訳に基づき、各金額を計算する。

①仕入高：借方の材料勘定の合計額

$$2,400,000 \text{ 円} + 3,150,000 \text{ 円} + 255,000 \text{ 円} + 2,250,000 \text{ 円} + 165,000 \text{ 円} + 5,175,000 \text{ 円} = 13,395,000 \text{ 円}$$

②消費高：貸方の材料勘定の金額

$$5,550,000 \text{ 円} + 1,950,000 \text{ 円} + 5,415,000 \text{ 円} + 375,000 \text{ 円} = 13,290,000 \text{ 円}$$

③原価差異：借方（貸方）合計額から消費高と月末有高を差し引き、差額として算定。

$$14,745,000 \text{ 円} - (13,290,000 \text{ 円} + 1,080,000 \text{ 円}) = 375,000 \text{ 円}$$

消費高のうち、借方「仕掛品」（主要材料と部品の払出高）の金額（12,915,000 円＝5,550,000 円＋1,950,000 円＋5,415,000 円）が直接材料費であり、借方「製造間接費」（消耗品の消費高）の金額（375,000 円）が間接材料費である。

Section4 材料の管理

—基本問題— 3-10

棚卸減耗費の計算

$$(800 \text{ 個} - 785 \text{ 個}) \times @420 \text{ 円} = 6,300 \text{ 円}$$

なお、棚卸減耗費勘定を設定している場合は、次のように記帳される。

借方科目	金額	貸方科目	金額
棚卸減耗費	6,300	材料	6,300
製造間接費	6,300	棚卸減耗費	6,300

◆検定対策問題◆ 2.

問1

(1) 材料購入原価＝購入代価＋内部材料副費予定配賦額＋引取費用

$$\text{購入代価} : 300 \text{ 個} \times @8,000 \text{ 円} = 2,400,000 \text{ 円}$$

$$\text{内部材料副費予定配賦額} : 2,400,000 \text{ 円} \times 5\% = 120,000 \text{ 円}$$

$$\text{引取費用} : 60,000 \text{ 円}$$

$$\text{材料購入原価} : 2,400,000 \text{ 円} + 120,000 \text{ 円} + 60,000 \text{ 円} = 2,580,000 \text{ 円}$$

$$(\text{購入単価} = 2,580,000 \text{ 円} \div 300 \text{ 個} = @8,600 \text{ 円})$$

(2) 問2の解説の中で説明する。

問2

材料勘定の各項目の計算は、次のとおりである。

① 月初有高：160,000円（6月1日の繰越高）

② 当月仕入高：

4日仕入高：問1で計算済み

10日仕入高：

$$\text{購入代価} : 700 \text{ 個} \times @7,600 \text{ 円} = 5,320,000 \text{ 円}$$

$$\text{内部材料副費予定配賦額} : 5,320,000 \text{ 円} \times 5\% = 266,000 \text{ 円}$$

$$\text{引取費用} : 154,000 \text{ 円}$$

$$\text{材料購入原価} : 5,320,000 \text{ 円} + 266,000 \text{ 円} + 154,000 \text{ 円} = 5,740,000 \text{ 円}$$

$$(\text{購入単価} = 5,740,000 \text{ 円} \div 700 \text{ 個} = @8,200 \text{ 円})$$

$$\text{仕入高} : 2,580,000 \text{ 円} + 5,740,000 \text{ 円} = 8,320,000 \text{ 円}$$

③ 当月消費高：先入先出法で計算

$$8 \text{ 日消費高} : 160,000 \text{ 円} (20 \text{ 個}) + 220 \text{ 個} \times @8,600 \text{ 円} = 2,052,000 \text{ 円}$$

$$15 \text{ 日消費高} : 80 \text{ 個} \times @8,600 \text{ 円} + 160 \text{ 個} \times @8,200 \text{ 円} = 2,000,000 \text{ 円}$$

$$20 \text{ 日消費高} : 520 \text{ 個} \times @8,200 \text{ 円} = 4,264,000 \text{ 円}$$

$$25 \text{ 日戻り高} : 20 \text{ 個} \times @8,200 \text{ 円}^* = 164,000 \text{ 円}$$

※ 25日の戻り分の単価は、先入先出法のため、15日消費分のうち、最も後から払い出されたものが返還されたと考える。したがって、10日仕入分の単価で計算する。

$$\text{消費高} : 2,052,000 \text{ 円} + 2,000,000 \text{ 円} + 4,264,000 \text{ 円} - 164,000 \text{ 円} = 8,152,000 \text{ 円}$$

④ 棚卸減耗費：4個×@8,200円（10日仕入分）＝32,800円

⑤ 月末有高 : 160,000 円 + 8,320,000 円 - (8,152,000 円 + 32,800 円) = 295,200 円

あるいは

36 個 (実地棚卸数量) × @8,200 円 = 295,200 円

材 料

月初有高	20 個	160,000 円	当月消費高			} 8,152,000 円
当月仕入高			8 日	240 個	2,052,000 円	
4 日	300 個	2,580,000 円	15 日	240 個	2,000,000 円	
			20 日	520 個	4,264,000 円	
10 日	700 個	5,740,000 円	25 日	△20 個	△164,000 円	
			棚卸減耗費	4 個	32,800 円	
			月末有高	36 個	295,200 円	

Chapter4 労務費の計算と記帳

Section2 支払賃金の計算と記帳

—基本問題— 4-1

支給総額のうち、基本賃金と加給金の合計額を賃金勘定、諸手当の金額を従業員賞与手当勘定で処理する。預り金は、社会保険料預り金と所得税預り金に分けて記帳する場合もある。

Section3 消費賃金の計算と記帳

—基本問題— 4-2

直接労務費＝直接作業時間×消費賃率
 ＝580時間×1,200円/時
 ＝696,000円

間接労務費＝（間接作業時間＋手待時間）×消費賃率
 ＝（210時間＋10時間）×1,200時間/時
 ＝264,000円

間接労務費の計算においては、間接作業時間分だけでなく、手待時間分も含めることに注意すること。ただし、定時休憩時間分や職場離脱時間分は消費賃金の計算には含めない。

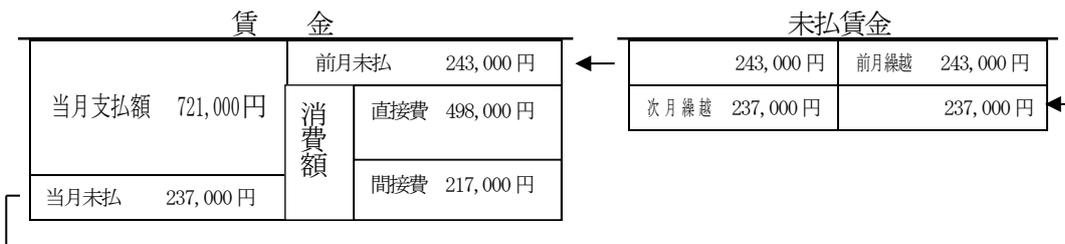
—基本問題— 4-3

間接工の消費賃金は、要支払額の計算により、その金額を求める。
 消費賃金＝当月支払賃金－前月末払賃金＋当月未払賃金
 ＝1,325,000円－412,000円＋428,000円
 ＝1,341,000円

当月支払賃金 (1,325,000円)	前月末払 (412,000円)
	当月消費賃金 (1,341,000円)
当月未払 (428,000円)	

—基本問題— 4-4

(1) 賃金勘定と未払賃金勘定を用いる方法では、月初と月末に、それぞれ未払賃金勘定から賃金勘定への振替と賃金勘定から未払賃金勘定への振替の仕訳が行われる。この関係を示せば、次のとおりである。



(2) 賃金勘定のみを用いる方法では、賃金勘定のみで処理するため、未払額は賃金勘定で次月に繰り越すことになる。

—基本問題— 4-5

(1) 直接労務費と間接労務費の計算

$$\text{直接労務費} = 640 \text{ 時間} \times 900 \text{ 円/時 (予定消費賃率)} = 576,000 \text{ 円}$$

$$\text{間接労務費} = \frac{(160 \text{ 時間} + 20 \text{ 時間})}{\text{間接作業 手待}} \times 900 \text{ 円/時 (予定消費賃率)} = 162,000 \text{ 円}$$

(2) 賃率差異の算定

① 実際消費賃金の計算

$$\text{実際消費賃金} = 748,000 \text{ 円} - 247,000 \text{ 円} + 243,000 \text{ 円} = 744,000 \text{ 円}$$

② 賃率差異の計算

$$\begin{aligned} \text{賃率差異} &= \text{予定消費賃率による消費額} - \text{実際消費額} \\ &= (576,000 \text{ 円} + 162,000 \text{ 円}) - 744,000 \text{ 円} \\ &= -6,000 \text{ 円 (借方差異)} \end{aligned}$$

支給額	748,000 円	前月末払	247,000 円
		予定消費額	直接費
			間接費
当月未払	243,000 円	賃率差異	6,000 円

—基本問題— 4-6

① 予定消費賃率による労務費 (賃金消費額) の計算

$$(640 \text{ 時間} + 160 \text{ 時間} + 20 \text{ 時間}) \times 950 \text{ 円/時} = 779,000 \text{ 円}$$

② 賃率差異の計算

$$\text{賃率差異} = 779,000 \text{ 円} - 744,000 \text{ 円} = 35,000 \text{ 円 (有利差異)}$$

支給額	748,000 円	前月末払	247,000 円
		予定消費額	間接費
当月未払	243,000 円		直接費
賃率差異	35,000 円		

—基本問題— 4-7

(4) 間接工の消費賃金と賃率際の計算は、以下のとおりである。

① 間接工の消費賃金の計算

$$\text{消費賃金 (要支払額)} : 396,000 \text{ 円} - \frac{147,600 \text{ 円}}{\text{前月末払}} + \frac{150,000 \text{ 円}}{\text{当月未払}} = 398,400 \text{ 円}$$

② 賃率差異の計算

賃率差異は、直接工の消費賃金の計算で生じるものである。

$$\text{予定消費賃率による消費額} : (540 \text{ 時間} + 120 \text{ 時間} + 10 \text{ 時間}) \times 1,200 \text{ 円/時} = 804,000 \text{ 円}$$

$$\text{実際消費額} : 788,400 \text{ 円} - 280,800 \text{ 円} + 308,400 \text{ 円} = 816,000 \text{ 円}$$

$$\text{賃率差異} : 804,000 \text{ 円} - 816,000 \text{ 円} = -12,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

◆検定対策問題◆ 1.

支払額 : 2,045,000 円 + 920,000 円 + 1,510,000 円 = 4,475,000 円

次月繰越 (月末未払額) : 671,000 円 + 314,000 円 + 504,000 円 = 1,489,000 円

前月繰越 (月初未払額) : 662,000 円 + 308,000 円 + 498,000 円 = 1,468,000 円

消費額 :

直接工の直接労務費 : 1,450 時間 × 1,400 円/時 (予定賃率) = 2,030,000 円

間接工の間接労務費 : 920,000 円 - 308,000 円 + 314,000 円 = 926,000 円

給料 (間接労務費) : 1,510,000 円 - 498,000 円 + 504,000 円 = 1,516,000 円

合計 4,472,000 円

原価差異 :

直接工の予定賃率による消費額 : 2,030,000 円 ←

直接工の実際消費額 : 2,045,000 円 - 662,000 円 + 671,000 円 = 2,054,000 円

賃率差異 : 2,030,000 円 - 2,054,000 円 = -24,000 円 (借方差異)

直接工の賃金の関係を示せば、次のとおりである。

支給額	2,045,000 円	前月末払	662,000 円
		予定消費額	直接費 2,030,000 円
月末未払	671,000 円	賃率差異	24,000 円

Chapter5 経費の計算と記帳

Section2 経費の計算と記帳

—基本問題— 5-1

当月消費額＝当月支払額＋前月前払額－前月末払額－当月前払額＋当月未払額

- ① 124,000 円＋32,000 円（前月前払）－29,000 円（当月前払）＝127,000 円
- ② 113,000 円－13,000 円（前月末払）－15,000 円（当月前払）＝ 85,000 円
- ③ 161,000 円＋13,000 円（前月前払）＋17,000 円（当月未払）＝191,000 円

—基本問題— 5-2

一定期間（1年、半年など）を対象に支払いや見積もりが行われた経費については、1か月あたりの金額を求める。

- (1) 保険料：240,000 円÷12 か月＝20,000 円
- (2) 減価償却費：540,000 円÷12 か月＝45,000 円

—基本問題— 5-3

電力料、ガス代、水道料などの測定経費は、支払額ではなく、メーターにより測定した実際消費量に基づき、当月の消費額を把握する。

- (1) 電力料：(3,860kWh－3,400 kWh) ×30 円/ kWh＝13,800 円
- (2) 水道料：(26,500 m³－26,000 m³) ×125 円/m³＝62,500 円

—基本問題— 5-4

直接経費の計算

外注加工賃：78,000 円－15,000 円（前月末払）＋9,000 円（当月未払）＝72,000 円

間接経費の計算

電力料：43,000 円（支払額ではなく測定額）

保険料：360,000 円÷12 か月＝30,000 円

減価償却費： $\frac{840,000 \text{ 円}}{5 \text{ 年}} \div 12 \text{ か月} = 14,000 \text{ 円}$

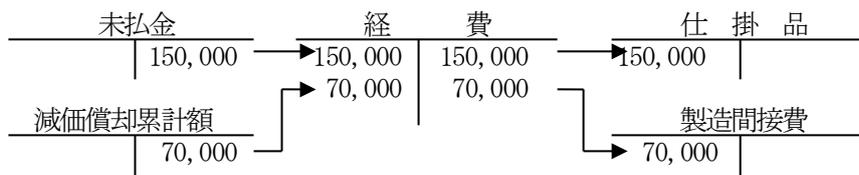
棚卸減耗損：228,000 円÷12 か月＝19,000 円

間接経費：43,000 円＋30,000 円＋14,000 円＋19,000 円＝106,000 円

—基本問題— 5-5

勘定連絡図を示せば、次のとおりである。

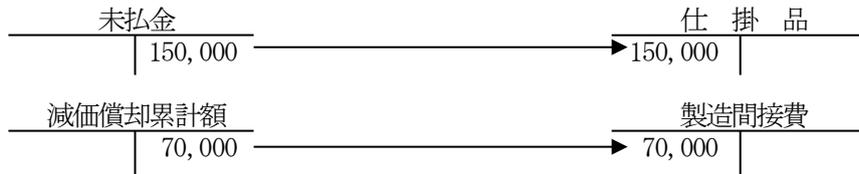
① 経費勘定を設ける方法



② 経費の費目別の勘定を設ける方法



③ 経費に関する勘定を設けない方法



◆検定対策問題◆ 1.

- (1) 材料を無償で支給し、その加工を委託した場合、材料の消費と考える。さらにその材料の使用が指図書単位に明確であるため、直接材料費として処理する。
- (2) 請求書を受け取った段階では、未払金勘定で処理する。
- (4) 当月の減価償却費：2,880,000円 ÷ 12か月 = 240,000円

◆検定対策問題◆ 2.

本問では、問題文の指示（製造間接費勘定を統制勘定として用いている）により、間接経費については、経費勘定や各費目別の勘定を用いない処理を行う。

- (1) 減価償却費月割額：6,480,000円 ÷ 12か月 = 540,000円
- (2) 特定の指図書単位に把握できる外注加工賃は、直性経費として処理する。
- (4) 修繕引当金の金額：360,000円 ÷ 12か月 = 30,000円
- (5) 工場付設の食堂の赤字補てんであるため、間接経費（福利施設負担額）として、製造間接費勘定に計上する。

◆検定対策問題◆ （費目別計算の複合問題）

- (1) 材料費に関する仕訳

① 材料払出の仕訳

材料の払出額（消費額）の計算は先入先出法のため、払出量4,000トン、月初有高分500トンと当月購入分3,500トンとして、次のように計算する。なお、主要材料の払出であるから、直接材料費として処理する。

材料消費額（直接材料費）：500トン × @300円 + 3,500トン × @340円 = 1,340,000円

② 材料減耗の仕訳

帳簿棚卸数量500トン（ $\frac{500 \text{ トン} + 4,000 \text{ トン} - 4,000 \text{ トン}}{\text{月初有高} \quad \text{当月買入高} \quad \text{当月払出高}}$ ）と月末有高（実地棚卸数量）

との差（10トン）が棚卸減耗であり、その金額は次のように計算する。

棚卸減耗損：10トン × @340円（当月買入分の単価） = 3,400円

(2) 労務費に関する仕訳

① 直接労務費の計算 (予定賃率により計算)

$$\text{直接労務費} : \frac{\text{3,000 時間}}{\text{当月機械作業時間}} \times \frac{\text{1,200 円}}{\text{予定賃率}} = 3,600,000 \text{ 円}$$

② 賃率差異の計算

$$\text{実際消費額} : \frac{\text{3,580,000 円}}{\text{当月支給高}} - \frac{\text{1,200,000 円}}{\text{前月末払}} + \frac{\text{1,150,000 円}}{\text{当月未払}} = 3,530,000 \text{ 円}$$

$$\text{賃率差異} : 3,600,000 \text{ 円} - 3,530,000 \text{ 円} = 70,000 \text{ 円 (貸方差異)}$$

支給高 (3,580,000 円)	前月末払 (1,200,000 円)			
月末未払 (1,150,000 円)	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">予定消費額</td> <td>直接費</td> </tr> <tr> <td>(3,600,000 円)</td> </tr> </table>	予定消費額	直接費	(3,600,000 円)
予定消費額	直接費			
	(3,600,000 円)			
賃率差異 (70,000 円)				

Chapter6 個別原価計算(1)

Section2 原価計算表の作成と製造直接費の賦課

—基本問題— 6-1

- (1) 製造直接費の消費額は、各費目の勘定から仕掛品勘定に振り替える。
- (2) 完成品の原価は、仕掛品勘定から製品勘定に振り替える。

Section3 製造間接費の配賦

—基本問題— 6-2

① 製造間接費実際配賦率の計算

- (1) 直接材料費基準： $\frac{840,000 \text{ 円}}{560,000 \text{ 円}} = 1.5$
- (2) 直接労務費基準： $\frac{840,000 \text{ 円}}{1,050,000 \text{ 円}} = 0.8$
- (3) 直接作業時間基準： $\frac{840,000 \text{ 円}}{2,400 \text{ 時間}} = 350 \text{ 円/時}$
- (4) 機械運転時間基準： $\frac{840,000 \text{ 円}}{2,100 \text{ 時間}} = 400 \text{ 円/時}$

② 製造指図書 No.1 への配賦額の計算

- (1) $270,000 \text{ 円} \times 1.5 = 405,000 \text{ 円}$
- (2) $640,000 \text{ 円} \times 0.8 = 512,000 \text{ 円}$
- (3) $1,600 \text{ 時間} \times 350 \text{ 円/時} = 560,000 \text{ 円}$
- (4) $900 \text{ 時間} \times 400 \text{ 円/時} = 360,000 \text{ 円}$

—基本問題— 6-3

- (1) 製造指図書ごとに把握されている金額は当該指図書の製造直接費であり、製造指図書番号が無い(特定の製造指図書に賦課できない)ものが製造間接費である。
- (2) 製造間接費を各製品に配賦する場合、配賦基準により各製品への配賦額は異なることになるが、仕訳においては、製造間接費総額をそのまま仕掛品勘定に振り替える。
- (3) 各製造指図書の製造原価は、次のように計算する。

製造原価 = 直接材料費 + 直接労務費 + 直接経費 + 製造間接費配賦額

製造間接費配賦額の計算

$$\text{製造間接費実際配賦率} : \frac{67,000 \text{ 円} + 43,000 \text{ 円} + 79,000 \text{ 円}}{\frac{190 \text{ 時間}}{\text{No.61 直接作業時間}} + \frac{540 \text{ 時間}}{\text{No.62 直接作業時間}}} = 350 \text{ 円/時}$$

製造指図書 No.61 への配賦額： $190 \text{ 時間} \times 350 \text{ 円/時} = 66,500 \text{ 円}$

製造指図書 No.62 への配賦額： $350 \text{ 時間} \times 350 \text{ 円/時} = 122,500 \text{ 円}$

これにより、製造指図書 No.61 の製造原価は、次のように計算される。

$$\text{製造原価} : \frac{74,000 \text{ 円}}{\text{直接材料費}} + \frac{72,000 \text{ 円}}{\text{直接労務費}} + \frac{14,000 \text{ 円}}{\text{直接経費}} + \frac{66,500 \text{ 円}}{\text{製造間接費配賦額}} = 226,500 \text{ 円}$$

—基本問題— 6-4

- ① 製造間接費の配賦額は、次のように計算する。

$$\text{製造間接費実際配賦率} : \frac{1,140,000 \text{ 円}}{490 \text{ 時間} + 340 \text{ 時間} + 370 \text{ 時間}} = @950 \text{ 円}$$

製造指図書 No.1 への配賦額 : 490 時間 × @950 円 = 465,500 円

製造指図書 No.2 への配賦額 : 340 時間 × @950 円 = 323,000 円

製造指図書 No.3 への配賦額 : 370 時間 × @950 円 = 351,500 円

- ② 仕掛品勘定の各項目の金額は、次のように求める。

前月繰越 : <資料> 5. ①の金額

材料 : 360,000 円 + 152,000 円 + 205,000 円 = 717,000 円 (直接材料費)

賃金 : 392,000 円 + 272,000 円 + 296,000 円 = 960,000 円 (直接労務費)

経費 : 39,000 円 + 20,000 円 = 59,000 円 (直接経費)

製造間接費 : <資料> 4. の金額

製品 : 原価計算表の指図書 No.1 の合計金額

次月繰越 : 原価計算表の指図書 No.2 と No.3 の合計金額

—基本問題— 6-5

- ① 製造間接費予定配賦率の計算

$$\text{製造間接費実際配賦率} : \frac{5,580,000 \text{ 円}}{8,400 \text{ 時間}} = 700 \text{ 円/時}$$

- ② 予定配賦額の計算

指図書 No.81 : 320 時間 × 700 円/時 = 224,000 円

指図書 No.82 : 360 時間 × 700 円/時 = 252,000 円

予定配賦額合計 476,000 円

- ③ 製造間接費配賦差異の計算

製造間接費配賦差異 = 製造間接費予定配賦額 - 製造間接費実際発生額

ケース 1 : 476,000 円 - 492,000 円 = -16,000 円 (借方差異)

ケース 2 : 476,000 円 - 470,000 円 = 6,000 円 (貸方差異)

—基本問題— 6-6

① 製造間接費予定配賦率、変動費率および固定費率の計算

$$\text{予定配賦率} : \frac{640,000 \text{ 円}}{800 \text{ 時間}} = 800 \text{ 円/時}$$

$$\text{変動費率} : \frac{400,000 \text{ 円}}{800 \text{ 時間}} = 500 \text{ 円/時}$$

$$\text{固定費率} : \frac{240,000 \text{ 円}}{800 \text{ 時間}} = 300 \text{ 円/時}$$

② 製造間接費配賦差異の計算

$$\text{製造間接費配賦差異} : (780 \text{ 時間} \times 800 \text{ 円/時}) - 634,000 \text{ 円} = -10,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

予算差異 : 実際操業度における予算額 - 実際発生額

$$(780 \text{ 時間} \times 500 \text{ 円/時} + 240,000 \text{ 円}) - 634,000 \text{ 円} = -4,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

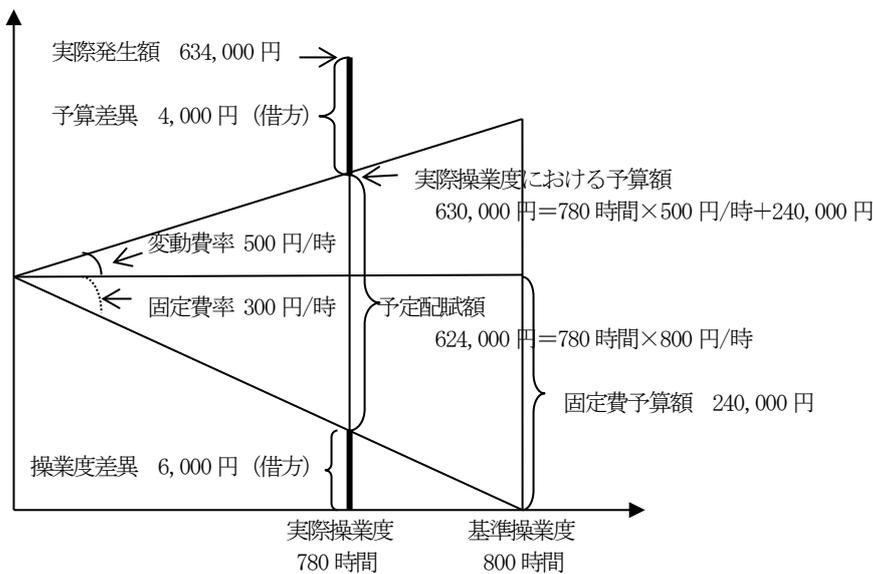
操業度差異 : 予定配賦額 - 実際操業度における予算額

$$(780 \text{ 時間} \times 800 \text{ 円/時}) - (780 \text{ 時間} \times 500 \text{ 円/時} + 240,000 \text{ 円}) = -6,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

または

$$(\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \text{固定費率}$$

$$(780 \text{ 時間} - 800 \text{ 時間}) \times 300 \text{ 円/時} = -6,000 \text{ 円 (借方差異)}$$



—基本問題— 6-7

① 製造間接費配賦額の計算

$$\text{製造間接費予定配賦率} = \frac{3,600,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 時間}} = @600 \text{ 円}$$

$$\text{製造指図書 No. 1 への配賦額} : 160 \text{ 時間} \times @600 \text{ 円} = 96,000 \text{ 円}$$

$$\text{製造指図書 No. 2 への配賦額} : 220 \text{ 時間} \times @600 \text{ 円} = 132,000 \text{ 円}$$

$$\text{製造指図書 No. 2 への配賦額} : 110 \text{ 時間} \times @600 \text{ 円} = 66,000 \text{ 円}$$

② 製造間接費配賦差異の計算

$$\text{変動費率} = \frac{1,500,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 時間}} = @250 \text{ 円}$$

$$\text{固定費率} = \frac{2,100,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 時間}} = @350 \text{ 円}$$

$$\text{月間基準操業度} : 6,000 \text{ 時間} \div 12 \text{ か月} = 500 \text{ 時間}$$

$$\text{月間固定費予算額} : 2,100,000 \text{ 円} \div 12 \text{ か月} = 175,000 \text{ 円}$$

$$\text{製造間接費配賦差異} : (490 \text{ 時間}^{1}) \times @600 \text{ 円} - 308,000 \text{ 円}^{2}) = -14,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

1) 160 時間 + 220 時間 + 110 時間

2) 82,000 円 (間接材料費) + 108,000 円 (間接労務費) + 118,000 円 (間接経費)

予算差異 : 実際操業度における予算額 - 実際発生額

$$(490 \text{ 時間} \times @250 \text{ 円} + 175,000 \text{ 円}) - 308,000 \text{ 円} = -10,500 \text{ 円 (借方差異)}$$

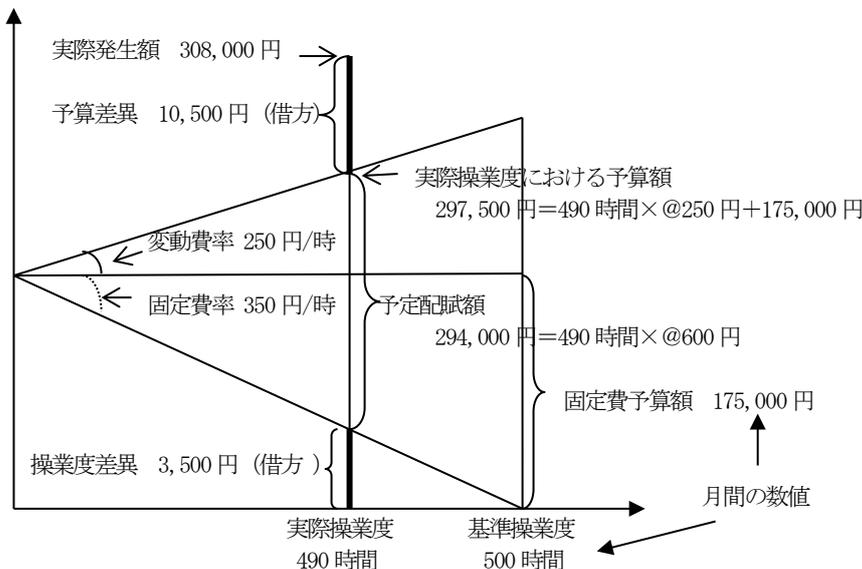
操業度差異 : 予定配賦額 - 実際操業度における予算額

$$(490 \text{ 時間} \times @600 \text{ 円}) - (490 \text{ 時間} \times @250 \text{ 円} + 175,000 \text{ 円}) = -3,500 \text{ 円 (借方差異)}$$

または

$$(\text{実際操業度} - \text{基準操業度}) \times \text{固定費率}$$

$$(490 \text{ 時間} - 500 \text{ 時間}) \times @350 \text{ 円} = -3,500 \text{ 円 (借方差異)}$$



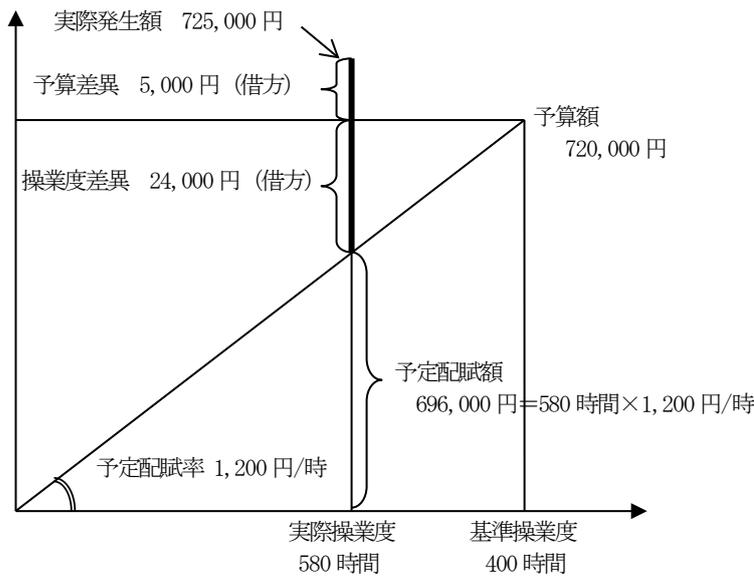
—基本問題— 6-8

$$\text{製造間接費予定配賦率} : \frac{720,000 \text{ 円}}{600 \text{ 時間}} = 1,200 \text{ 円/時}$$

製造間接費配賦差異 : $(580 \text{ 時間} \times 1,200 \text{ 円/時}) - 725,000 \text{ 円} = -29,000 \text{ 円}$ (借方差異)

予算差異 : 実際操業度における予算額 - 実際発生額
 $720,000 \text{ 円} - 725,000 \text{ 円} = -5,000 \text{ 円}$ (借方差異)

操業度差異 : 予定配賦額 - 実際操業度における予算額
 $(580 \text{ 時間} \times 1,200 \text{ 円/時}) - 720,000 \text{ 円} = -24,000 \text{ 円}$ (借方差異)



—基本問題— 6-9

(2) 製造間接費予定配賦額 : $(180 \text{ 時間} + 340 \text{ 時間}) \times 450 \text{ 円/時} = 234,000 \text{ 円}$

(3) 製造間接費配賦差異の計算

$$\begin{aligned} \text{配賦差異} &= \text{予定配賦額} - \text{実際発生額} \\ &= 234,000 \text{ 円} - (65,000 \text{ 円} + 97,500 \text{ 円} + 68,500 \text{ 円}) = 3,000 \text{ 円} \text{ (貸方差異)} \end{aligned}$$

(4) 製造指図書 No. 11 の製造原価の計算

$$\text{製造原価} = 42,000 \text{ 円} + 49,500 \text{ 円} + 15,000 \text{ 円} + \frac{(180 \text{ 時間} \times 450 \text{ 円/時})}{\text{製造間接費配賦額}} = 187,500 \text{ 円}$$

◆検定対策問題◆ 1.

(1) 予定配賦率の計算

① 実際の生産能力を基準とした場合の予定配賦率：
$$\frac{5,015,000 \text{ 円}}{8,500 \text{ 時間}} = 590 \text{ 円/時}$$

② 平均操業度を基準とした場合の予定配賦率：
$$\frac{4,500,000 \text{ 円}}{7,500 \text{ 時間}} = 600 \text{ 円/時}$$

③ 期待実際操業度を基準とした場合の予定配賦率：
$$\frac{4,464,000 \text{ 円}}{7,200 \text{ 時間}} = 620 \text{ 円/時}$$

(2) 製造間接費予定配賦額および製造間接費配賦差異の計算

製造間接費予定配賦額：580 時間×620 円./時＝359,600 円

製造間接費配賦差異：359,600 円－365,000 円＝－5,400 円（借方差異）

◆検定対策問題◆ 2.

本問を解くためには、個別原価計算表を作成することが近道である。

原価計算表

	No. 21	No. 22	No. 23	合 計
月初仕掛品原価	92,000	—	—	92,000
直接材料費	280,000	170,000	405,000	855,000
直接労務費	135,000	170,000	115,000	420,000
直接経費	20,000	60,000	55,000	135,000
製造間接費	202,500 ¹⁾	255,000 ²⁾	172,500 ³⁾	630,000
合 計	729,500	655,000	747,500	2,132,000
備 考	完成	仕掛中	仕掛中	

1) 135,000 円（直接労務費）×150%（配賦率）

2) 170,000 円（直接労務費）×150%（配賦率）

3) 115,000 円（直接労務費）×150%（配賦率）

仕掛品勘定の製品の金額

仕掛品勘定の月末有高の金額

仕掛品勘定の借方科目の金額

製造間接費実際発生額の計算は、次のとおりである。

間接材料費：32,000 円（月初）＋84,000 円－30,000 円（月末）＝86,000 円

間接労務費：180,000 円－65,000 円（月初）＋58,000 円（月末）＝173,000 円

間接経費

棚卸減耗：5,000 円（〈資料〉 1. より）

修繕引当金：30,000 円（〈資料〉 6. より）

減価償却費：120,000 円（製造間接費勘定の金額より）

その他：226,000 円（製造間接費勘定の金額より）

合計：640,000 円（上記金額の合計額）

製造間接費配賦差異の計算は、次のとおりである。

配賦差異：630,000 円（予定配賦額）－640,000 円（実際発生額）＝－10,000 円（借方差異）

◆検定対策問題◆ 3.

① 仕掛品勘定の記入

前月繰越の金額は、No. 72 の7月分の金額

前月繰越：54,000円+18,000円+4,000円+28,000円=104,000円

材料、賃金、経費、製造間接費の金額は、各指図書8月分の合計額

材料：59,000円(No. 81)+28,000円(No. 82)=87,000円

賃金：32,000円(No. 72)+42,000円(No. 81)+42,000円(No. 82)=116,000円

経費：3,000円(No. 81)

製造間接費：40,000円(No. 72)+48,000円(No. 81)+28,000円(No. 82)=116,000円

製品の金額は、8月中に完成したNo. 72とNo. 81の合計額

製品：176,000円(No. 72)+152,000円(No. 81)=328,000円

次月繰越の金額は、8月末までに未完成であるNo. 82の合計額(98,000円)。

② 製品勘定の記入

前月繰越の金額は、7月中に完成(引渡は8月)したNo. 71の合計額(158,000円)。

仕掛品の金額は、8月中に完成したNo. 72とNo. 81の合計額(仕掛品勘定の「製品」の金額)。

売上原価の金額は、8月中に引き渡したNo. 71とNo. 72の合計額

売上原価：158,000円(No. 71)+176,000円(No. 72)=334,000円

次月繰越の金額は、8月末未引渡のNo. 81の合計額(152,000円)。

◆検定対策問題◆ 4.

① 仕掛品勘定の記入

月初有高の金額は、No. 52の前月分の金額

月初有高：485,000円+415,000円+180時間×@1,800円=1,224,000円

当月製造費用の金額は、No. 52の当月分、No. 53およびNo. 54の合計額

直接材料費：412,250円+525,300円+507,450円(No. 54)¹⁾=1,445,000円

1) 平均単価：
$$\frac{500 \text{個} \times @820 \text{円} + 1,500 \text{個} \times @860 \text{円}}{500 \text{個} + 1,500 \text{個}} = @850 \text{円}$$

No. 54の金額：
$$\left(\frac{1,700 \text{個} \times @850 \text{円}}{\text{当月消費量}} \right) - (412,250 \text{円} + 525,300 \text{円}) = 507,450 \text{円}$$

直接労務費：150,000円+284,000円+295,000円=729,000円

製造間接費：(50時間+250時間+150時間)×@1,800円=810,000円

当月完成高は、No. 52とNo. 53の合計額

当月完成高：

485,000円+412,250円+415,000円+150,000円+(180時間+50時間)×@1,800円
+525,300円+284,000円+250時間×@1,800円=3,135,550円

月末有高は、No. 54の合計額

月末有高：507,450円+295,000円+150時間×@1,800円=1,072,450円

②製品勘定の記入

月初有高の金額は、No. 51 の合計額

月初有高：375,000 円+297,000 円+150 時間×@1,800 円=942,000 円

当月完成高は、No. 52 と No. 53 の合計額

当月完成高：3,135,550 円（計算済み）

売上原価の金額は、No. 51 と No. 52 の合計額

売上原価：375,000 円+297,000 円+150 時間×@1,800 円+485,000 円+412,250 円+415,000 円+150,000 円+（180 時間+50 時間）×@1,800 円=2,818,250 円

月末有高の金額は、No. 53 の合計額

月末有高：525,300 円+284,000 円+250 時間×@1,800 円=1,259,300 円

◆検定対策問題◆ 5.

問1

製造間接費配賦差異の計算

①製造間接費予定配賦額： $\frac{9,000 \text{ 万円}}{15,000 \text{ 時間}} = 0.6 \text{ 万円/時}$

②予定配賦額：1,200 時間（実際直接作業時間）×0.6 万円/時=720 万円

② 製造間接費配賦差異：720 万円－742 万円（実際発生額）＝－22 万円（借方差異）

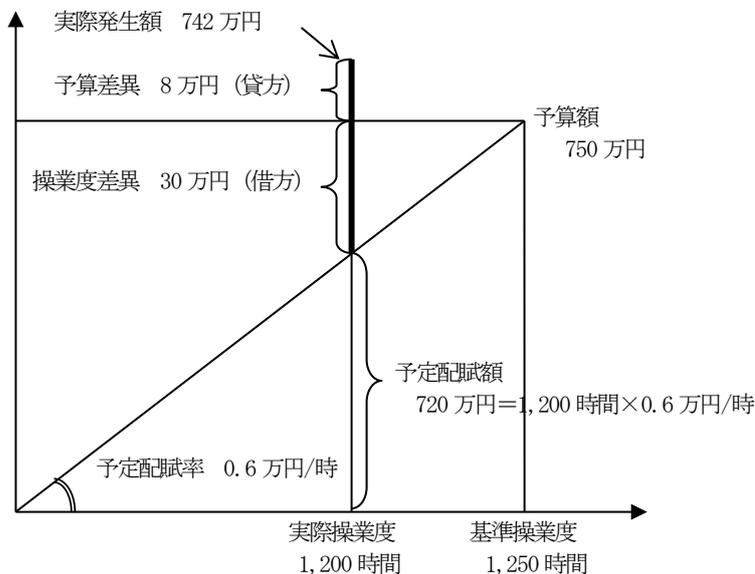
問2

① 予算差異：実際操業度における予算額－実際発生額

750 万円－742 万円＝8 万円（貸方差異）

②操業度差異：予定配賦額－実際操業度における予算額

720 万円－750 万円＝－30 万円（借方差異）



問3

① 予算差異：実際作業度における予算額－実際発生額

$$(1,200 \text{ 時間} \times 0.4 \text{ 万円/時} + 250 \text{ 万円}) - 742 \text{ 万円} = -12 \text{ 万円 (借方差異)}$$

② 作業度差異：予定配賦額－実際作業度における予算額

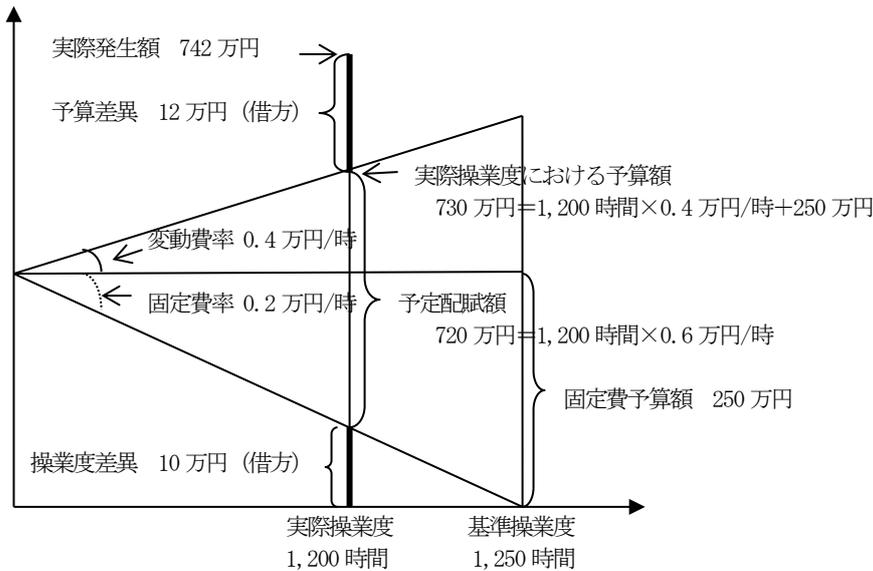
$$720 \text{ 万円} - (1,200 \text{ 時間} \times 0.4 \text{ 万円/時} + 250 \text{ 万円}) = -10 \text{ 万円 (借方差異)}$$

または

(実際作業度－基準作業度) × 固定費率

$$(1,200 \text{ 時間} - 1,250 \text{ 時間}) \times 0.2 \text{ 万円/時}^1 = -10 \text{ 万円 (借方差異)}$$

$$1) \frac{250 \text{ 万円}}{1,250 \text{ 時間}} = 0.2 \text{ 万円/時}$$



Section3 仕損費と作業層の計算および処理

—基本問題— 6-10

仕損費勘定を設けない場合には、仕損費を製造指図書に賦課するさい、次の仕訳が行われる。

(借) 仕掛品 87,000 (貸) 仕掛品 87,000

—基本問題— 6-11

作業層に評価額がある場合、原則として、作業層勘定を用いて処理するが、作業層が材料として再利用可能な場合には、借方の勘定科目は作業層ではなく、材料となる。

Chapter7 個別原価計算(2)

Section2 部門別個別計算の手続き

—基本問題— 7-1

建物減価償却費の配賦

$$\begin{array}{l}
 \text{組立部門費：} \\
 \text{塗装部門費：} \\
 \text{動力部門費：} \\
 \text{修繕部門費：}
 \end{array}
 \begin{array}{|c|}
 \hline
 640,000 \text{ 円} \\
 \hline
 800 \text{ m}^2 \\
 \hline
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \times 420 \text{ m}^2 = 336,000 \text{ 円} \\
 \times 250 \text{ m}^2 = 200,000 \text{ 円} \\
 \times 90 \text{ m}^2 = 72,000 \text{ 円} \\
 \times 40 \text{ m}^2 = 32,000 \text{ 円}
 \end{array}$$

機械保険料の配賦

$$\begin{array}{l}
 \text{組立部門費：} \\
 \text{塗装部門費：} \\
 \text{動力部門費：} \\
 \text{修繕部門費：}
 \end{array}
 \begin{array}{|c|}
 \hline
 200,000 \text{ 円} \\
 \hline
 800 \text{ 万円} \\
 \hline
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \times 380 \text{ 万円} = 95,000 \text{ 円} \\
 \times 280 \text{ 万円} = 70,000 \text{ 円} \\
 \times 80 \text{ 万円} = 20,000 \text{ 円} \\
 \times 60 \text{ 万円} = 15,000 \text{ 円}
 \end{array}$$

福利施設負担額の配算

$$\begin{array}{l}
 \text{組立部門費：} \\
 \text{塗装部門費：} \\
 \text{動力部門費：} \\
 \text{修繕部門費：}
 \end{array}
 \begin{array}{|c|}
 \hline
 180,000 \text{ 円} \\
 \hline
 45 \text{ 人} \\
 \hline
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \times 20 \text{ 人} = 80,000 \text{ 円} \\
 \times 17 \text{ 人} = 68,000 \text{ 円} \\
 \times 4 \text{ 人} = 16,000 \text{ 円} \\
 \times 4 \text{ 人} = 16,000 \text{ 円}
 \end{array}$$

—基本問題— 7-2

直接配賦法では、補助部門相互間の用役授受を計算上は無視し、各補助部門費を製造部門にのみ配賦する。

動力部門費の配賦

$$\begin{array}{l}
 \text{組立部門への配賦額：} \\
 \text{塗装部門への配賦額：}
 \end{array}
 \begin{array}{|c|}
 \hline
 150,000 \text{ 円} \\
 \hline
 250\text{kWh} + 250\text{kWh} \\
 \hline
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \times 250\text{kWh} = 75,000 \text{ 円} \\
 \times 250\text{kWh} = 75,000 \text{ 円}
 \end{array}$$

修繕部門費の配賦

$$\begin{array}{l}
 \text{組立部門への配賦額：} \\
 \text{塗装部門への配賦額：}
 \end{array}
 \begin{array}{|c|}
 \hline
 90,000 \text{ 円} \\
 \hline
 160 \text{ 時間} + 90 \text{ 時間} \\
 \hline
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \times 160 \text{ 時間} = 57,600 \text{ 円} \\
 \times 90 \text{ 時間} = 32,400 \text{ 円}
 \end{array}$$

—基本問題— 7-3

① 第1次配賦では、各補助部門費を製造部門だけでなく、用役提供先の補助部門にも配賦する。

動力部門費の配賦

組立部門への配賦額：	150,000 円	×250kwh =62,500 円
塗装部門への配賦額：	150,000 円	×250kwh =62,500 円
修繕部門への配賦額：	250kWh+250kWh+100kWh	×100kwh =25,000 円

修繕部門費の配賦

組立部門への配賦額：	90,000 円	×160 時間=48,000 円
塗装部門への配賦額：	90,000 円	× 90 時間 =27,000 円
動力部門への配賦額：	160 時間+90 時間+50 時間	× 50 時間 =15,000 円

② 第2次配賦では、第1次集計で配賦された補助部門費を、製造部門にのみ配賦する。

動力部門費の配賦

組立部門への配賦額：	15,000 円	×250kwh=7,500 円
塗装部門への配賦額：	15,000 円	×250kwh=7,500 円

修繕部門費の配賦

組立部門への配賦額：	25,000 円	×160 時間=16,000 円
塗装部門への配賦額：	25,000 円	× 90 時間= 9,000 円

—基本問題— 7-4

① 相互配賦法（簡便法）の第1次配賦では、各補助部門費を製造部門だけでなく、用役提供先の補助部門にも配賦するが、自部門から自部門への配賦は行わない。本問では、工場事務部門費を配賦するさい、自部門である工場事務部門へは配賦しない。

動力部門費の配賦

組立部門への配賦額：	160,000 円	×320kWh =64,000 円
塗装部門への配賦額：	160,000 円	×320kWh =64,000 円
修繕部門への配賦額：	320kWh + 320kWh + 80kWh + 80kWh	× 80kWh =16,000 円
工場事務部門への配賦額：	320kWh + 320kWh + 80kWh + 80kWh	× 80kWh =16,000 円

修繕部門費の配賦

組立部門への配賦額：	150,000 円	×150 時間=75,000 円
塗装部門への配賦額：	150,000 円	× 90 時間=45,000 円
動力部門への配賦額：	150 時間+90 時間+60 時間	× 60 時間=30,000 円

工場事務部門費の配賦

組立部門への配賦額：	180,000 円	×30 人=60,000 円
塗装部門への配賦額：	180,000 円	×30 人=60,000 円
動力部門への配賦額：	30 人+30 人+20 人+10 人	×20 人=40,000 円
修繕部門への配賦額：	30 人+30 人+20 人+10 人	×10 人=20,000 円

② 第2次配賦では、第1次集計で配賦された補助部門費を、製造部門にのみ配賦する。

動力部門費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{組立部門への配賦額} : \frac{70,000 \text{ 円}}{\quad} \times 320\text{kWh} = 35,000 \text{ 円} \\ \text{塗装部門への配賦額} : \frac{\quad}{320\text{kWh} + 320\text{kWh}} \times 320\text{kWh} = 35,000 \text{ 円} \end{array}$$

修繕部門費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{組立部門への配賦額} : \frac{36,000 \text{ 円}}{\quad} \times 150 \text{ 時間} = 22,500 \text{ 円} \\ \text{塗装部門への配賦額} : \frac{\quad}{150 \text{ 時間} + 90 \text{ 時間}} \times 90 \text{ 時間} = 13,500 \text{ 円} \end{array}$$

工場事務部門費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{組立部門への配賦額} : \frac{16,000 \text{ 円}}{\quad} \times 30 \text{ 人} = 8,000 \text{ 円} \\ \text{塗装部門への配賦額} : \frac{\quad}{30 \text{ 人} + 30 \text{ 人}} \times 30 \text{ 人} = 8,000 \text{ 円} \end{array}$$

—基本問題— **7-5**

① 補助部門費配賦表の作成

第1次配賦の計算

A補助部費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{第1製造部門への配賦額} : \frac{\quad}{\quad} \times 0.4 = 28,800 \text{ 円} \\ \text{第2製造部門への配賦額} : \frac{72,000 \text{ 円}}{\quad} \times 0.4 = 28,800 \text{ 円} \\ \text{B補助部への配賦額} : \frac{\quad}{0.4 + 0.4 + 0.2} \times 0.2 = 14,400 \text{ 円} \end{array}$$

B補助部費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{第1製造部門への配賦額} : \frac{\quad}{\quad} \times 0.5 = 20,000 \text{ 円} \\ \text{第2製造部門への配賦額} : \frac{40,000 \text{ 円}}{\quad} \times 0.4 = 16,000 \text{ 円} \\ \text{A補助部への配賦額} : \frac{\quad}{0.5 + 0.4 + 0.1} \times 0.1 = 4,000 \text{ 円} \end{array}$$

第2次配賦の計算

A補助部費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{第1製造部門への配賦額} : \frac{4,000 \text{ 円}}{\quad} \times 0.4 = 2,000 \text{ 円} \\ \text{第2製造部門への配賦額} : \frac{\quad}{0.4 + 0.4} \times 0.4 = 2,000 \text{ 円} \end{array}$$

B補助部費の配賦

$$\begin{array}{l} \text{第1製造部門への配賦額} : \frac{14,400 \text{ 円}}{\quad} \times 0.5 = 8,000 \text{ 円} \\ \text{第2製造部門への配賦額} : \frac{\quad}{0.5 + 0.4} \times 0.4 = 6,400 \text{ 円} \end{array}$$

製造部門費配賦率の計算

$$\text{第1製造部門費} : \frac{210,000 \text{ 円}}{600 \text{ 時間}} = 350 \text{ 円/時}$$

$$\text{第2製造部門費} : \frac{272,000 \text{ 円}}{340 \text{ 時間}} = 800 \text{ 円/時}$$

② 個別原価計算表の作成

製造間接費の計算

第1 製造部門費

指図書 No. 11 : 220 時間 × 350 円/時 = 77,000 円

指図書 No. 12 : 250 時間 × 350 円/時 = 87,500 円

指図書 No. 13 : 130 時間 × 350 円/時 = 45,500 円

第2 製造部門費

指図書 No. 11 : 90 時間 × 800 円/時 = 72,000 円

指図書 No. 12 : 150 時間 × 800 円/時 = 120,000 円

指図書 No. 13 : 100 時間 × 800 円/時 = 80,000 円

◆検定対策問題◆ 1.

各補助部門の配賦基準は、次のとおりである。

材 料 部…材料運搬回数

工場事務部…従業員数

修 繕 部…修繕回数

材料部費の配賦

A製造部への配賦額 : $\frac{425,500 \text{ 円}}{100 \text{ 回} + 85 \text{ 回}} \times 100 \text{ 回} = 230,000 \text{ 円}$

B製造部への配賦額 : $\frac{425,500 \text{ 円}}{100 \text{ 回} + 85 \text{ 回}} \times 85 \text{ 回} = 195,500 \text{ 円}$

工場事務部費の配賦

A製造部への配賦額 : $\frac{325,500 \text{ 円}}{160 \text{ 人} + 150 \text{ 人}} \times 160 \text{ 人} = 168,000 \text{ 円}$

B製造部への配賦額 : $\frac{325,500 \text{ 円}}{160 \text{ 人} + 150 \text{ 人}} \times 150 \text{ 人} = 157,500 \text{ 円}$

修繕部費の配賦

A製造部への配賦額 : $\frac{540,000 \text{ 円}}{100 \text{ 回} + 80 \text{ 回}} \times 100 \text{ 回} = 300,000 \text{ 円}$

B製造部への配賦額 : $\frac{540,000 \text{ 円}}{100 \text{ 回} + 80 \text{ 回}} \times 80 \text{ 回} = 240,000 \text{ 円}$

◆検定対策問題◆ 2.

問1

補助部門費の配賦計算

工場事務部費の配賦

加工部への配賦額 : $\frac{1,600,000 \text{ 円}}{150 \text{ 人} + 90 \text{ 人}} \times 150 \text{ 人} = 1,000,000 \text{ 円}$

組立部への配賦額 : $\frac{1,600,000 \text{ 円}}{150 \text{ 人} + 90 \text{ 人}} \times 90 \text{ 人} = 600,000 \text{ 円}$

修繕部費の配賦

加工部への配賦額 : $\frac{3,200,000 \text{ 円}}{150 \text{ 回} + 50 \text{ 回}} \times 150 \text{ 回} = 2,400,000 \text{ 円}$

組立部への配賦額 : $\frac{3,200,000 \text{ 円}}{150 \text{ 回} + 50 \text{ 回}} \times 50 \text{ 回} = 800,000 \text{ 円}$

動力部費の配賦

加工部への配賦額 : $\frac{2,400,000 \text{ 円}}{50 \text{ 万 kW-h} + 25 \text{ 万 kW-h}} \times 50 \text{ 万 kW-h} = 1,600,000 \text{ 円}$

組立部への配賦額 : $\frac{2,400,000 \text{ 円}}{50 \text{ 万 kW-h} + 25 \text{ 万 kW-h}} \times 25 \text{ 万 kW-h} = 800,000 \text{ 円}$

加工部費 : 8,500,000 円 + 1,000,000 円 + 2,400,000 円 + 1,600,000 円 = 13,500,000 円

組立部費 : 6,200,000 円 + 600,000 円 + 800,000 円 + 800,000 円 = 8,400,000 円

問2

$$\begin{aligned} \text{加工部費配賦率} &: \frac{13,500,000 \text{ 円}}{9,000 \text{ 時間}} = 1,500 \text{ 円/時} & \text{組立部費配賦率} &: \frac{8,400,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 時間}} = 1,400 \text{ 円/時} \\ \text{指図書\#41への配賦額} &: 2,250 \text{ 時間} \times 1,500 \text{ 円/時} + 750 \text{ 時間} \times 1,400 \text{ 円/時} = 4,425,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

問3

$$\begin{aligned} \text{総括配賦率} &: \frac{21,900,000 \text{ 円}}{15,000 \text{ 時間}} = 1,460 \text{ 円/時} \\ \text{指図書\#41への配賦額} &: 3,000 \text{ 時間} \times 1,460 \text{ 円/時} = 4,380,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

Section3 予定配賦による部門別計算

—基本問題— 7-6

(1) 予定配賦率の計算

① 補助部門費の製造部門への配賦額の計算

A補助部費の配賦

$$\begin{aligned} \text{組立部門への配賦額} &: \frac{96,000 \text{ 円}}{0.5+0.3} \times 0.5 = 60,000 \text{ 円} \\ \text{仕上部門への配賦額} &: \frac{96,000 \text{ 円}}{0.5+0.3} \times 0.3 = 36,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

B補助部費の配賦

$$\begin{aligned} \text{組立部門への配賦額} &: \frac{120,000 \text{ 円}}{0.4+0.4} \times 0.4 = 60,000 \text{ 円} \\ \text{仕上部門への配賦額} &: \frac{120,000 \text{ 円}}{0.4+0.4} \times 0.4 = 60,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

② 製造部門費の計算

$$\text{組立部門費} : 780,000 \text{ 円} + 60,000 \text{ 円} + 60,000 \text{ 円} = 900,000 \text{ 円}$$

$$\text{仕上部門費} : 684,000 \text{ 円} + 36,000 \text{ 円} + 60,000 \text{ 円} = 780,000 \text{ 円}$$

③ 予定配賦率の計算

$$\text{組立部門配賦率} : \frac{900,000 \text{ 円}}{250 \text{ 時間}} = 3,600 \text{ 円/時}$$

$$\text{仕上部門配賦率} : \frac{780,000 \text{ 円}}{300 \text{ 時間}} = 2,600 \text{ 円/時}$$

(2) 予定配賦額の計算

$$\text{No. 101への配賦額} : 125 \text{ 時間} \times 3,600 \text{ 円/時} + 145 \text{ 時間} \times 2,600 \text{ 円/時} = 827,000 \text{ 円}$$

$$\text{No. 102への配賦額} : 135 \text{ 時間} \times 3,600 \text{ 円/時} + 150 \text{ 時間} \times 2,600 \text{ 円/時} = 876,000 \text{ 円}$$

(3) 製造部門費配賦差異の計算

$$\text{組立部門費配賦差異} : 260 \text{ 時間} \times 3,600 \text{ 円/時} - 931,000 \text{ 円} = 5,000 \text{ 円 (貸方差異)}$$

$$\text{仕上部門費配賦差異} : 295 \text{ 時間} \times 2,600 \text{ 円/時} - 778,000 \text{ 円} = -11,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

◆検定対策問題◆ 3.

(1) 補助部門費配賦前の製造部門費の計算

補助部門費配賦前とは、第1次集計までの金額のことであり、部門費集計表を作成するとわかりやすい。

部門費集計表 (単位：万円)

費目	金額	製造部門		補助部門	
		第1製造部	第2製造部	材料倉庫部	工場事務部
部門個別費	8,240	2,900	2,440	1,950	950
部門共通費					
建物減価償却費	1,500	600	450	300	150
福利施設負担額	1,000	500	250	150	100
部門費合計	10,740	4,000	3,140	2,400	1,200

工場建物減価償却費の配賦計算

第1製造部：	1,500万円	×8,000 m ² = 600万円
第2製造部：		×6,000 m ² = 450万円
材料倉庫部：		20,000 m ² ×4,000 m ² = 300万円
工場事務部：		×2,000 m ² = 150万円

福利施設負担額の配賦計算

第1製造部：	1,000万円	×100人 = 500万円
第2製造部：		×50人 = 250万円
材料倉庫部：		200人 ×30人 = 150万円
工場事務部：		×20人 = 100万円

(2) 補助部門費配賦後の製造部門費の計算

補助部門費配賦後とは、第2次集計までの金額のことであり、補助部門費配賦表を作成するとわかりやすい。

補助部門費配賦表 (単位：万円)

費目	合計	製造部門		補助部門	
		第1製造部	第2製造部	材料倉庫部	工場事務部
部門費	10,740	4,000	3,140	2,400	1,200
材料倉庫部費	2,400	1,440	960		
工場事務部費	1,200	800	400		
製造部門費	10,740	6,240	4,500		

材料倉庫部費の配賦

第1製造部への配賦額：	2,400万円	×3,000万円 = 1,440万円
第2製造部への配賦額：		3,000万円 + 2,000万円 ×2,000万円 = 960万円

工場事務部費の配賦

第1製造部への配賦額：	1,200万円	×100人 = 800万円
第2製造部への配賦額：		100人 + 50人 ×50人 = 400万円

(3) 製造部門の製造間接費配賦率の計算

第1製造部製造間接費配賦率： $\frac{6,240 \text{万円}}{12,000 \text{時間}} = 5,200 \text{円/時}$

第2製造部製造間接費配賦率： $\frac{4,500 \text{万円}}{10,000 \text{時間}} = 4,500 \text{円/時}$

(4) 製造指図書No. 31に対する配賦額の計算

配賦額： $\frac{400 \text{時間}}{\text{第1製造部}} \times 5,200 \text{円/時} + \frac{600 \text{時間}}{\text{第2製造部}} \times 4,500 \text{円/時} = 4,780,000 \text{円}$

Section4 部門別個別原価計算の記帳

—基本問題— 7-7

(1) 予定配賦額の計算

組立部門費予定配賦額：2,500 時間×600 円/時=1,500,000 円

塗装部門費予定配賦額：2,200 時間×800 円/時=1,760,000 円

(3) 補助部門費の配賦額の計算

動力部門費の配賦

組立部門への配賦額： $\frac{300,000 \text{ 円}}{0.8+0.2} \times 0.8=240,000 \text{ 円}$

塗装部門への配賦額： $\frac{300,000 \text{ 円}}{0.8+0.2} \times 0.2=60,000 \text{ 円}$

工場事務部門費の配賦

組立部門への配賦額： $\frac{420,000 \text{ 円}}{0.5+0.5} \times 0.5=210,000 \text{ 円}$

塗装部門への配賦額： $\frac{420,000 \text{ 円}}{0.5+0.5} \times 0.5=210,000 \text{ 円}$

組立部門への配賦額合計：240,000 円+210,000 円=450,000 円

塗装部門への配賦額合計：60,000 円+210,000 円=270,000 円

(4) 配賦差異の計算

補助部門費配賦後の製造部門費実際発生額

組立部門費：1,120,000 円+450,000 円=1,570,000 円

塗装部門費：1,450,000 円+270,000 円=1,720,000 円

配賦差異（=予定配賦額－実際発生額）

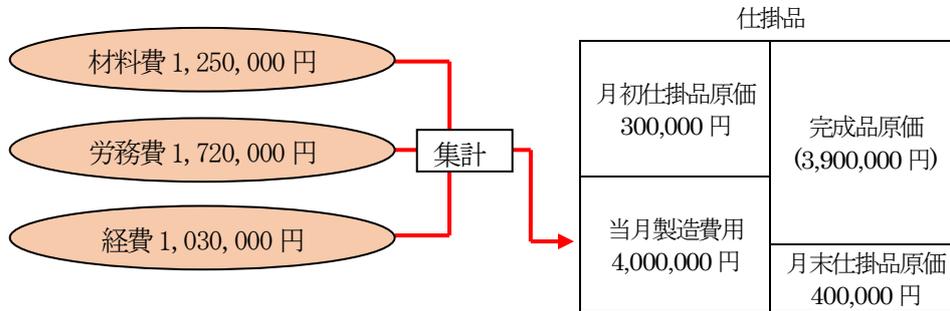
組立部門費：1,500,000 円－1,570,000 円＝－70,000 円（借方差異）

塗装部門費：1,760,000 円－1,720,000 円＝40,000 円（貸方差異）

Chapter 8 総合原価計算 (1)

Section 1 総合原価計算の意義と種類

—基本問題— 8-1



- (2) 300,000 円 + 4,000,000 円 = 4,300,000 円
- (3) 4,300,000 円 - 400,000 円 = 3,900,000 円
- (4) 3,900,000 円 ÷ 3,000 個 = @1,300 円

—基本問題— 8-2

【直接材料費】

$$\text{① 月末仕掛品} \quad \frac{\text{直接材料費 } 100,000 \text{ 円}}{\text{完成品数量 } 140 \text{ 個} + \text{月末仕掛品数量 } 60 \text{ 個}} \times 60 \text{ 個} = 30,000 \text{ 円}$$

$$\text{② 完成品} \quad 100,000 \text{ 円} - 30,000 \text{ 円} = 70,000 \text{ 円}$$

直接材料費 月末仕掛品原価

【加工費】

$$\text{① 月末仕掛品} \quad \frac{\text{加工費 } 232,500 \text{ 円}}{\text{完成品数量 } 140 \text{ 個} + \text{月末仕掛品完成品換算数量 } (60 \text{ 個} \times 0.25)} \times (60 \text{ 個} \times 0.25) = 22,500 \text{ 円}$$

$$\text{② 完成品} \quad 232,500 \text{ 円} - 22,500 \text{ 円} = 210,000 \text{ 円}$$

加工費 月末仕掛品原価

$$\text{月末仕掛品原価} \quad 30,000 \text{ 円} + 22,500 \text{ 円} = 52,500 \text{ 円}$$

$$\text{完成品原価} \quad 70,000 \text{ 円} + 210,000 \text{ 円} = 280,000 \text{ 円}$$

—基本問題— 8—3

【月末仕掛品原価】

	月初仕掛品原価	当月製造費用	
直接材料費	125,200 円 + 920,000 円		× 500 個 = 100,500 円
	600 個 + 4,600 個		
	月初仕掛品数量	当月投入数量	月末仕掛品数量
	月初仕掛品原価	当月製造費用	
加工費	84,800 円 + 1,150,000 円		× 500 個 × 0.4 = 50,400 円
	600 個 × 0.5 + 4,600 個		
	月初仕掛品完成品換算数量	当月投入完成品換算数量	月末仕掛品完成品換算数量

当月投入完成品換算数量

完成品数量	月初仕掛品完成品換算数量	月末仕掛品完成品換算数量	
4,700 個	600 個 × 0.5	+ 500 個 × 0.4	= 4,600 個

月末仕掛品原価 100,500 円 + 50,400 円 = 150,900 円

【完成品原価】

直接材料費 (125,200 円 + 920,000 円) - 100,500 円 = 944,700 円

総製造費用
月末仕掛品原価

加工費 (84,800 円 + 1,150,000 円) - 50,400 円 = 1,184,400 円

総製造費用
月末仕掛品原価

完成品原価 944,700 円 + 1,184,400 円 = 2,129,100 円

完成品単位原価 2,129,100 円 ÷ 4,700 個 = @453 円

【参考】

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
600 個	4,700 個	※ ¹ 300 個	※ ² 4,700 個
4,600 個		※ ⁴ 4,600 個	
	500 個		※ ³ 200 個

- ※¹ 600 個 × 0.5
- ※² 4,700 個 × 1
- ※³ 500 個 × 0.4
- ※⁴ 貸借差額

②月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—直接材料費

600個	125,200円				
		4,700個	(944,700円)		
4,600個	920,000円	500個	100,500円		
5,200個	1,045,200円				

@201円

貸借差額

貸借差額

500個×@201円

仕掛品—加工費

300個	84,800円				
		4,700個	(1,184,400円)		
4,600個	1,150,000円	200個	50,400円		
4,900個	1,234,800円				

@252円

100個×@252円

(2) ワークシートを用いて解答する方法

(単位：円)

摘 要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	600	125,200	300	84,800	210,000
+) 当月投入	4,600	920,000	4,600	1,150,000	2,070,000
合計	5,200	1,045,200	4,900	1,234,800	2,280,000
-) 月末仕掛品	500	100,500	200	50,400	150,900
完 成 品	4,700	944,700	4,700	1,184,400	2,129,100

—基本問題— 8-4

【月末仕掛品原価】

直接材料費 $\frac{\text{当月製造費用 } 803,200 \text{ 円}}{\text{当月投入数量 } 3,200 \text{ 個}} \times \text{月末仕掛品数量 } 400 \text{ 個} = 100,400 \text{ 円}$

加工費 $\frac{\text{当月製造費用 } 933,100 \text{ 円}}{\text{当月投入完成品数量 } 3,100 \text{ 個}} \times \text{月末仕掛品完成品換算数量 } 400 \text{ 個} \times 0.5 = 60,200 \text{ 円}$

当月投入完成品換算数量

$\text{完成品数量 } 3,000 \text{ 個} - \text{月初仕掛品完成品換算数量 } 200 \text{ 個} \times 0.5 + \text{月末仕掛品完成品換算数量 } 400 \text{ 個} \times 0.5 = 3,100 \text{ 個}$

月末仕掛品原価 $100,400 \text{ 円} + 60,200 \text{ 円} = 160,600 \text{ 円}$

【完成品原価】

直接材料費 (47,200 円 + 803,200 円) - 100,400 円 = 750,000 円
総製造費用 月末仕掛品原価

加工費 (27,100 円 + 933,100 円) - 60,200 円 = 900,000 円
総製造費用 月末仕掛品原価

完成品原価 750,000 円 + 900,000 円 = 1,650,000 円

完成品単位原価 1,650,000 円 ÷ 3,000 個 = @550 円

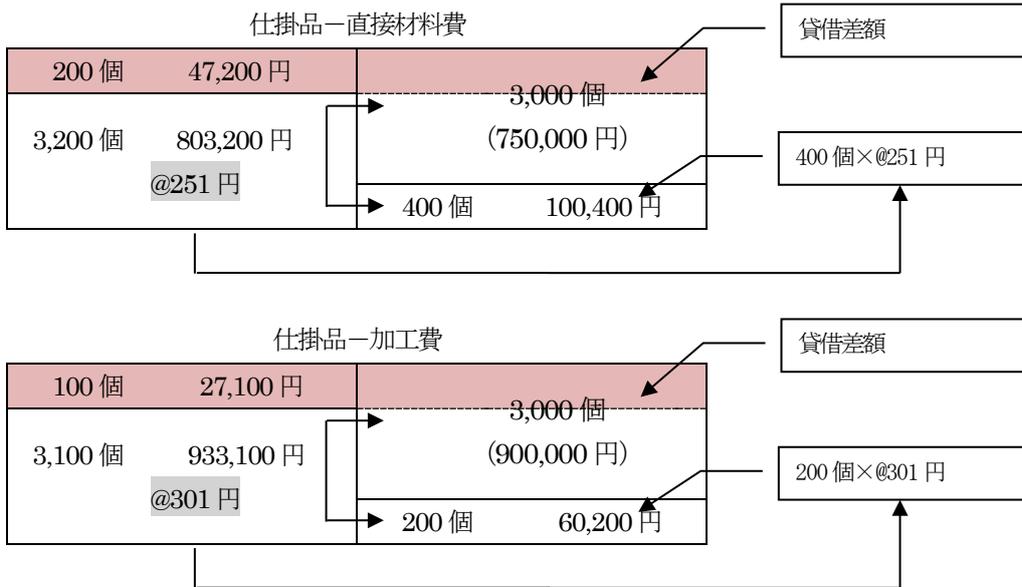
【参考】

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
200 個	3,000 個	※1 100 個	※2 3,000 個	※1 200 個×0.5
3,200 個		※4 3,100 個		※3 200 個
	400 個			※3 400 個×0.5
				※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



(2) ワークシートを用いて解答する方法

単位 (円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	3,200	803,200	3,100	933,100	1,736,300
ー) 月末仕掛品	400	100,400	200	60,200	160,600
差引	2,800	702,800	2,900	872,900	1,575,700
+) 月初仕掛品	200	47,200	100	27,100	74,300
完成品	3,000	750,000	3,000	900,000	1,650,000

◆検定対策問題◆ 1.

1. 直接材料費と加工費を別々に計算し、最後に両者を合計して完成品原価と月末仕掛品原価を計算する。
2. 材料費は数量の比で配分し、加工費は完成品換算数量の比で配分する。
3. 先に月末仕掛品原価を計算し、完成品原価は差額で計算する。

【直接材料費】

$$\text{① 月末仕掛品} \quad \frac{\text{直接材料費} \quad 2,652,000 \text{ 円}}{\text{完成品数量} \quad 200 \text{ 個} + \text{月末仕掛品数量} \quad 60 \text{ 個}} \times 60 \text{ 個} = 612,000 \text{ 円}$$

$$\text{② 完成品} \quad 2,652,000 \text{ 円} - 612,000 \text{ 円} = 2,040,000 \text{ 円}$$

直接材料費 月末仕掛品原価

【加工費】

$$\text{① 月末仕掛品} \quad \frac{\text{加工費} \quad 2,070,000 \text{ 円}}{\text{完成品数量} \quad 200 \text{ 個} + \text{月末仕掛品完成品換算数量} \quad (60 \text{ 個} \times 0.5)} \times (60 \text{ 個} \times 0.5) = 270,000 \text{ 円}$$

$$\text{② 完成品} \quad 2,070,000 \text{ 円} - 270,000 \text{ 円} = 1,800,000 \text{ 円}$$

加工費 月末仕掛品原価

$$\text{月末仕掛品原価} \quad 612,000 \text{ 円} + 270,000 \text{ 円} = 882,000 \text{ 円}$$

$$\text{完成品原価} \quad 2,040,000 \text{ 円} + 1,800,000 \text{ 円} = 3,840,000 \text{ 円}$$

$$\text{完成品単位原価} \quad 3,840,000 \text{ 円} \div 200 \text{ 個} = @19,200 \text{ 円}$$

◆検定対策問題◆ 2.

【月末仕掛品原価】

$$\text{材料費} \quad \frac{\text{月初仕掛品原価} \quad 61,500 \text{ 円} + \text{当月製造費用} \quad 870,000 \text{ 円}}{\text{月初仕掛品数量} \quad 200 \text{ 個} + \text{当月投入数量} \quad 2,500 \text{ 個}} \times \text{月末仕掛品数量} \quad 400 \text{ 個} = 138,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} \quad \frac{\text{月初仕掛品原価} \quad 23,200 \text{ 円} + \text{当月製造費用} \quad 1,050,600 \text{ 円}}{\text{月初仕掛品完成品換算数量} \quad 200 \text{ 個} \times 0.25 + \text{当月投入完成品換算数量} \quad 2,550 \text{ 個}} \times \text{月末仕掛品完成品換算数量} \quad 400 \text{ 個} \times 0.75 = 123,900 \text{ 円}$$

当月投入完成品換算数量

$$\text{完成品数量} \quad 2,300 \text{ 個} - \text{月初仕掛品完成品換算数量} \quad 200 \text{ 個} \times 0.25 + \text{月末仕掛品完成品換算数量} \quad 400 \text{ 個} \times 0.75 = 2,550 \text{ 個}$$

$$\text{月末仕掛品原価} \quad 138,000 \text{ 円} + 123,900 \text{ 円} = 261,900 \text{ 円}$$

【完成品原価】

$$\text{材料費} \quad (61,500 \text{ 円} + 870,000 \text{ 円}) - 138,000 \text{ 円} = 793,500 \text{ 円}$$

総製造費用 月末仕掛品原価

$$\text{加工費} \quad (23,200 \text{ 円} + 1,050,600 \text{ 円}) - 123,900 \text{ 円} = 949,900 \text{ 円}$$

総製造費用 月末仕掛品原価

$$\text{完成品原価} \quad 793,500 \text{ 円} + 949,900 \text{ 円} = 1,743,400 \text{ 円}$$

$$\text{完成品単位原価} \quad 1,743,400 \text{ 円} \div 2,300 \text{ 個} = @758 \text{ 円}$$

【参考】

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

① 生産データの整理

仕掛品－材料費		仕掛品－加工費		
200個	2,300個	*1 50個	*2 2,300個	※1 200個×0.25
2,500個		*4 2,550個		*3 300個
	400個			※3 400個×0.75
				※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算－平均法－

仕掛品－材料費				貸借差額
200個	61,500円	2,300個	(793,500円)	
2,500個	870,000円	400個	138,000円	
2,700個	931,500円			400個×@345円
	@345円			

仕掛品－加工費				貸借差額
50個	23,200円	2,300個	(949,900円)	
2,550個	1,050,600円	300個	123,900円	
2,600個	1,073,800円			300個×@413円
	@413円			

(2) ワークシートを用いて解答する方法

単位 (円)

摘要	材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	200	61,500	50	23,200	84,700
+) 当月投入	2,500	870,000	2,550	1,050,600	1,920,600
合計	2,700	931,500	2,600	1,073,800	2,005,300
-) 月末仕掛品	400	138,000	300	123,900	261,900
完 成 品	2,300	793,500	2,300	949,900	1,743,400

Section3 単純総合原価計算の記帳

—基本問題— 8-6

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
400 個	4,000 個	※1 160 個	※2 4,000 個	※1 400 個×0.4
4,200 個	600 個	※4 4,290 個	※3 450 個	※2 4,000 個×1
				※3 600 個×0.75
				※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		貸借差額
400 個	223,800 円	4,000 個	(2,112,000 円)	
4,200 個	2,205,000 円	600 個	316,800 円	
4,600 個	2,428,800 円			600 個×@528 円
	@528 円			

仕掛品—加工費		仕掛品—直接材料費		貸借差額
160 個	112,900 円	4,000 個	(2,608,000 円)	
4,290 個	2,788,500 円	450 個	293,400 円	
4,450 個	2,901,400 円			450 個×@652 円
	@652 円			

月末仕掛品原価 316,800 円 + 293,400 円 = 610,200 円

完成品原価 2,112,000 円 + 2,608,000 円 = 4,720,000 円

完成品単位原価 4,720,000 円 ÷ 4,000 個 = @1,180 円

—基本問題— 8-7

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

① 生産データの整理

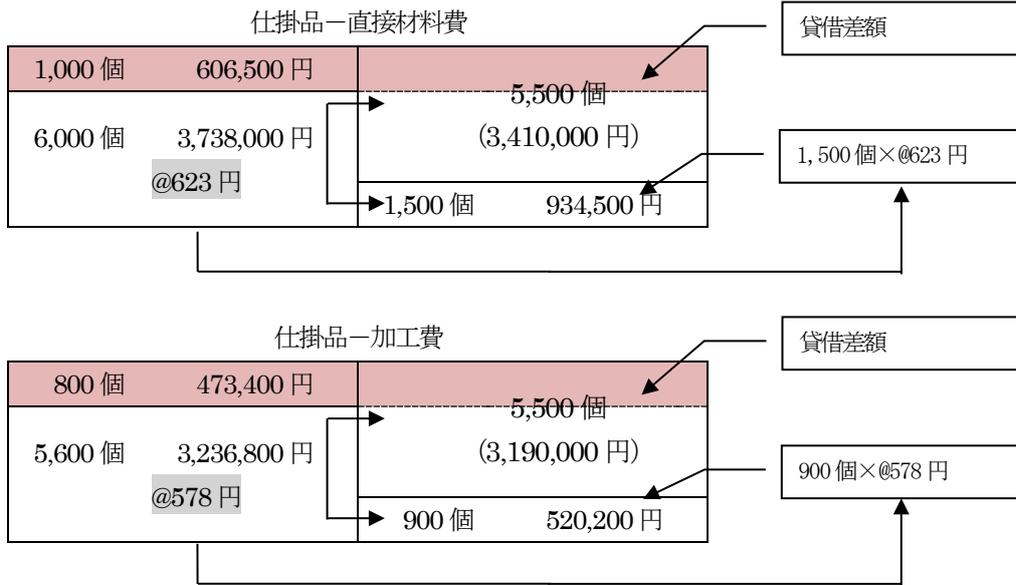
仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
1,000 個	5,500 個	※1 800 個	※2 5,500 個	※1 1,000 個×0.8
6,000 個	1,500 個	※4 5,600 個	※3 900 個	※2 5,500 個×1
				※3 1,500 個×0.6
				※4 貸借差額

② 加工費配賦額の計算

予定配賦率：37,632,000 円 ÷ 33,600 時間 = 1,120 円/時

予定配賦額：2,890 時間 × 1,120 円/時 = 3,236,800 円

③月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



月末仕掛品原価 934,500 円 + 520,200 円 = 1,454,700 円

完成品原価 3,410,000 円 + 3,190,000 円 = 6,600,000 円

完成品単位原価 6,600,000 円 ÷ 5,500 個 = @1,200 円

(2) ワークシートを用いて解答する方法

単位 (円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	6,000	3,738,000	5,600	3,236,800	6,974,800
ー) 月末仕掛品	1,500	934,500	900	520,200	1,454,700
差引	4,500	2,803,500	4,700	2,716,600	5,520,100
+) 月初仕掛品	1,000	606,500	800	473,400	1,079,900
完 成 品	5,500	3,410,000	5,500	3,190,000	6,600,000

◆検定対策問題◆ 3.

【月末仕掛品原価】

材料費 $\frac{\text{当月製造費用 } 2,350,000 \text{ 円}}{5,000 \text{ 個}} \times 1,000 \text{ 個} = 470,000 \text{ 円}$

加工費 $\frac{\text{当月製造費用 } 4,199,800 \text{ 円}}{5,060 \text{ 個}} \times 1,000 \text{ 個} \times 0.5 = 415,000 \text{ 円}$

当月投入完成品換算数量

$\frac{\text{完成品数量}}{\text{月初仕掛品完成品換算数量}} \times \text{月初仕掛品完成品換算数量} + \frac{\text{月末仕掛品完成品換算数量}}{\text{月末仕掛品完成品換算数量}} \times \text{月末仕掛品完成品換算数量}$

4,800 個 - 800 個 × 0.3 + 1,000 個 × 0.5 = 5,060 個

月末仕掛品原価 470,000 円 + 415,000 円 = 885,000 円

【完成品原価】

材料費 (385,600 円 + 2,350,000 円) - 470,000 円 = 2,265,600 円
総製造費用 月末仕掛品原価

加工費 (189,600 円 + 4,199,800 円) - 415,000 円 = 3,974,400 円
総製造費用 月末仕掛品原価

完成品原価 2,265,600 円 + 3,974,400 円 = 6,240,000 円

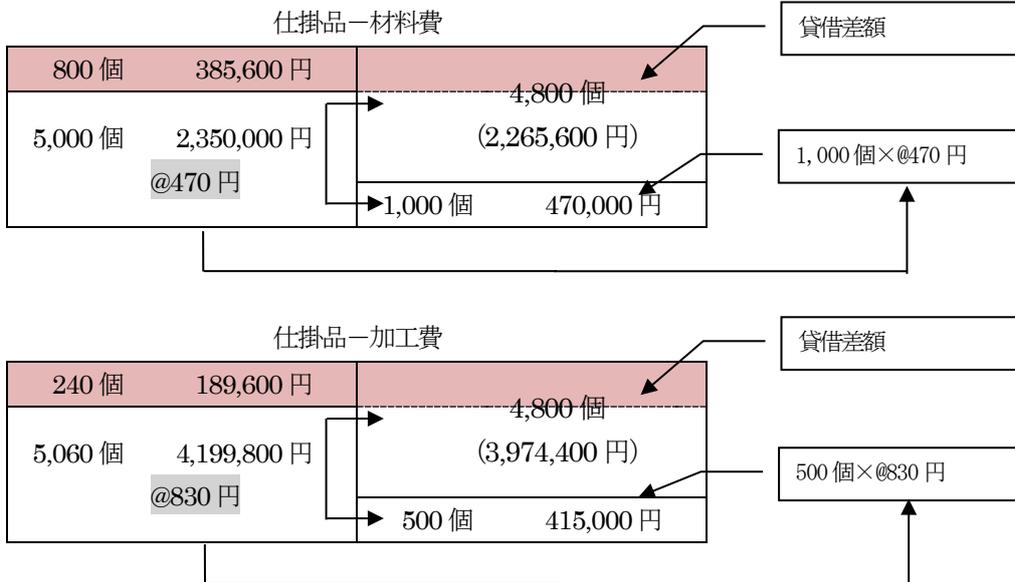
【参考】

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

① 生産データの整理

仕掛品-材料費		仕掛品-加工費		
800 個	4,800 個	※ ¹ 240 個	※ ² 4,800 個	※ ¹ 800 個 × 0.3
5,000 個	1,000 個	※ ⁴ 5,060 個	※ ³ 500 個	※ ² 4,800 個 × 1
				※ ³ 1,000 個 × 0.5
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



(2) ワークシートを用いて解答する方法

単位 (円)

摘要	材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	5,000	2,350,000	5,060	4,199,800	6,549,800
ー) 月末仕掛品	1,000	470,000	500	415,000	885,000
差引	4,000	1,880,000	4,560	3,784,800	5,664,800
+) 月初仕掛品	800	385,600	240	189,600	575,200
完 成 品	4,800	2,265,600	4,800	3,974,400	6,240,000

◆検定対策問題◆ 4.

【月末仕掛品原価】

$$\text{直接材料費} = \frac{\text{当月製造費用}}{\text{当月投入数量}} \times \text{月末仕掛品数量}$$

$$= \frac{2,589,300 \text{ 円}}{2,100 \text{ 個}} \times 250 \text{ 個} = 308,250 \text{ 円}$$

$$\text{当月製造費用} = 6,251,130 \text{ 円} - 3,661,830 \text{ 円} = 2,589,300 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} = \frac{\text{当月製造費用}}{\text{当月投入完成品数量}} \times \text{月末仕掛品完成品換算数量}$$

$$= \frac{3,661,830 \text{ 円}}{2,070 \text{ 個}} \times 250 \text{ 個} \times 0.4 = 176,900 \text{ 円}$$

当月投入完成品換算数量

$$\text{完成品数量} = \text{月初仕掛品完成品換算数量} + \text{月末仕掛品完成品換算数量}$$

$$2,000 \text{ 個} = 150 \text{ 個} \times 20\% + 250 \text{ 個} \times 40\% = 2,070 \text{ 個}$$

$$\text{月末仕掛品原価} = 308,250 \text{ 円} + 176,900 \text{ 円} = 485,150 \text{ 円}$$

【完成品原価】

$$\text{直接材料費} = (\text{総製造費用} - \text{月末仕掛品原価})$$

$$= (178,950 \text{ 円} + 2,589,300 \text{ 円}) - 308,250 \text{ 円} = 2,460,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費} = (\text{総製造費用} - \text{月末仕掛品原価})$$

$$= (55,070 \text{ 円} + 3,661,830 \text{ 円}) - 176,900 \text{ 円} = 3,540,000 \text{ 円}$$

$$\text{完成品原価} = 2,460,000 \text{ 円} + 3,540,000 \text{ 円} = 6,000,000 \text{ 円}$$

【参考】

(1) 仕掛品のボックスを用いて解答する方法

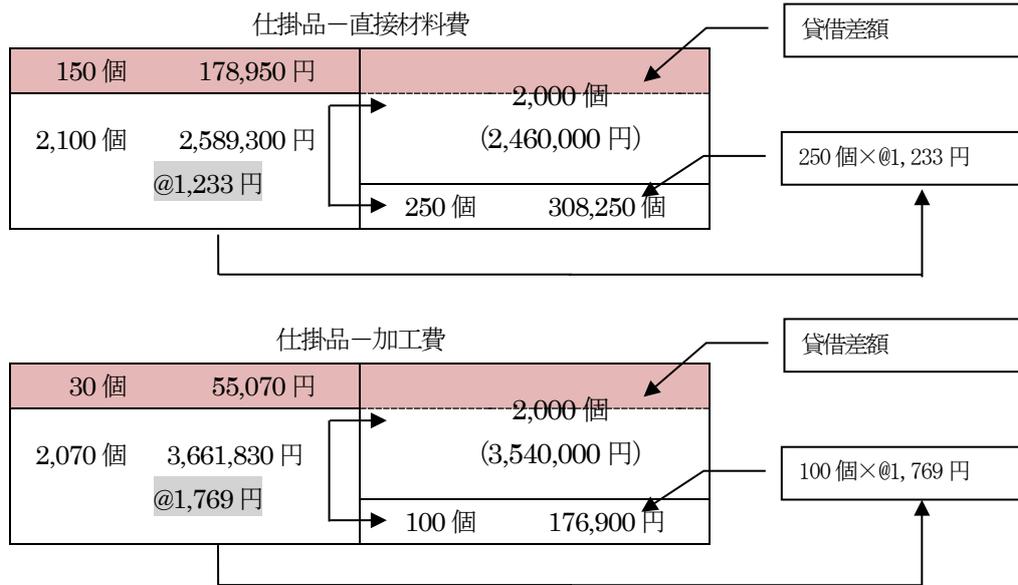
① 生産データの整理

150 個	2,000 個
2,100 個	
	250 個

※1 30 個	※2 2,000 個
※4 2,070 個	
	※3 100 個

- ※1 150 個×0.2
- ※2 2,000 個×1
- ※3 250 個×0.4
- ※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



(2) ワークシートを用いて解答する方法

単位 (円)

摘 要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当 月 投 入	2,100	2,589,300	2,070	3,661,830	6,251,130
－) 月末仕掛品	250	308,250	100	176,900	485,150
差 引	1,850	2,281,050	1,970	3,484,930	5,765,980
＋) 月初仕掛品	150	178,950	30	55,070	234,020
完 成 品	2,000	2,460,000	2,000	3,540,000	6,000,000

Chapter 9 総合原価計算 (2)

Section 1 工程別総合原価計算

—基本問題— 9-1

【第1工程】

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
300個	750個	※1 180個	※2 750個	※1 300個×0.6
650個		※4 650個	※3 80個	※2 750個×1
				※3 200個×0.4
				※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		貸借差額
300個	86,600円	750個	(210,000円)	
650個	179,400円	200個	56,000円	
950個	266,000円			
@280円		200個×@280円		

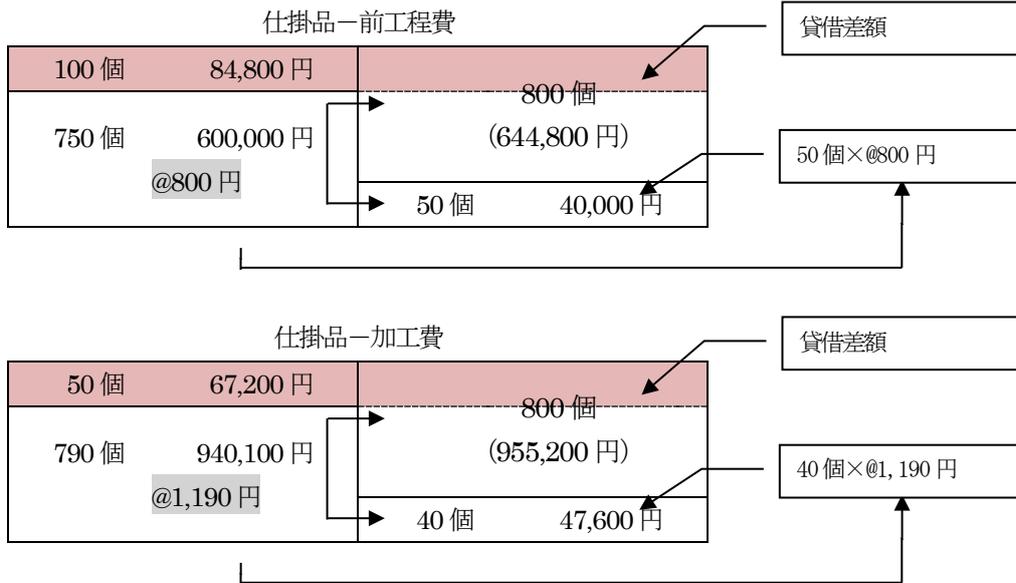
仕掛品—加工費		仕掛品—加工費		貸借差額
180個	90,350円	750個	(390,000円)	
650個	341,250円	80個	41,600円	
830個	431,600円			
@520円		80個×@520円		

【第2工程】

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
100個	800個	※1 50個	※2 800個	※1 100個×0.5
750個		※4 790個	※3 40個	※2 800個×1
				※3 50個×0.8
				※4 貸借差額

②月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



完成品原価 644,800円 + 955,200円 = 1,600,000円

完成品単位原価 1,600,000円 ÷ 800個 = @2,000円

【参考】ワークシートを用いた解答

<第1工程>平均法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	300	86,600	180	90,350	176,950
+) 当月投入	650	179,400	650	341,250	520,650
合計	950	266,000	830	431,600	697,600
-) 月末仕掛品	200	56,000	80	41,600	97,600
完成品	750	210,000	750	390,000	600,000

<第2工程>先入先出法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	750	600,000	790	940,100	1,540,100
-) 月末仕掛品	50	40,000	40	47,600	87,600
差引	700	560,000	750	892,500	1,452,500
+) 月初仕掛品	100	84,800	50	62,700	147,500
完成品	800	644,800	800	955,200	1,600,000

◆検定対策問題◆ 1.

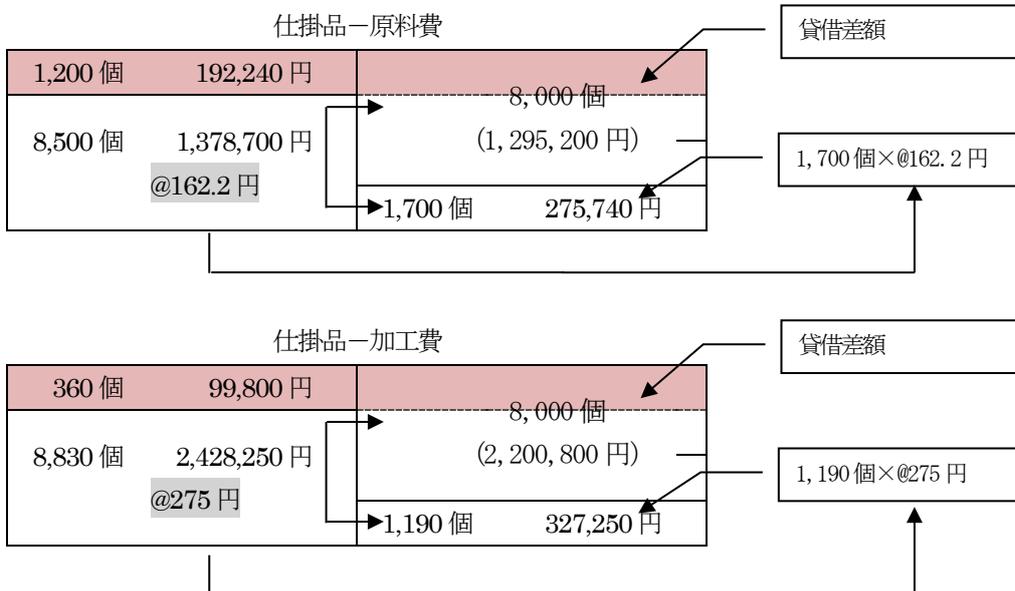
月初有高	192,240円	+	99,800円	+	882,000円	+	361,100円	=	1,535,140円
	第1工程原料費		第1工程加工費		第2工程前工程費		第2工程加工費		
原料費	第1工程原料費								
加工費	2,428,250円	+	1,499,100円	=	3,927,350円				
	第1工程加工費		第2工程加工費						
製品 H	2,847,000円	+	1,703,000円	=	4,550,000円				
	第2工程前工程費		第2工程加工費						
製品 K	第1工程完成品のうち2,000個分								
月末有高	275,740円	+	327,250円	+	657,000円	+	157,200円	=	1,417,190円
	第1工程原料費		第1工程加工費		第2工程前工程費		第2工程加工費		

【第1工程】

① 生産データの整理

仕掛品－原料費		仕掛品－加工費		
1,200個	8,000個	※ ¹ 360個	※ ² 8,000個	※ ¹ 1,200個×0.3
8,500個	1,700個	※ ⁴ 8,830個	※ ³ 1,190個	※ ² 8,000個×1
				※ ³ 1,700個×0.7
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



第1工程完成品原価 1,295,200円+2,200,800円=3,496,000円
 (第1工程完成品単位原価 3,496,000円÷8,000個=@437円)

<第1工程完成品の取扱い>

第1工程			第2工程		
月初仕掛品	1,200個 (0.3)		月初仕掛品	2,000個 (0.5)	
当月投入	8,500個		当月投入	6,000個	
合計	9,700個		合計	8,000個	
月末仕掛品	1,700個 (0.7)		月末仕掛品	1,500個 (0.8)	
完成品	8,000個		完成品	6,500個	

完成品 8,000個 ← 第2工程へ投入 6,000個 × @437円 = 2,622,000円
 半製品 K 2,000個 × @437円 = 874,000円

【第2工程】

① 生産データの整理

仕掛品—前工程費		仕掛品—加工費		
2,000個	6,500個	※1 1,400個	※2 6,500個	※1 2,000個 × 0.7
6,000個	1,500個	※4 5,700個	※3 600個	※2 6,500個 × 1
				※3 1,500個 × 0.4
				※4 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—前工程費				貸借差額
2,000個	882,000円	6,500個	(2,847,000円)	
6,000個	2,622,000円	1,500個	657,000円	
8,000個	3,504,000円			
	@438円		1,500個 × @438円	

仕掛品—加工費				貸借差額
1,400個	361,100	6,500個	(1,703,000円)	
5,700個	1,499,100	600個	157,200円	
7,100個	1,860,200円			
	@262円		600個 × @262円	

月末仕掛品原価 657,000円 + 157,200円 = 814,200円

完成品原価 2,847,000円 + 1,703,000円 = 4,550,000円

【参考】ワークシートを用いた解答

<第1工程>先入先出法

(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	8,500	1,378,700	8,830	2,428,250	3,806,950
ー) 月末仕掛品	1,700	275,740	1,190	327,250	602,990
差引	6,800	1,102,960	7,640	2,101,000	3,203,960
+) 月初仕掛品	1,200	192,240	360	99,800	292,040
完 成 品	8,000	1,295,200	8,000	2,200,800	3,496,000

<第2工程>平均法

(単位：円)

摘要	前工程費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	2,000	882,000	1,400	361,100	1,243,100
+) 当月投入	6,000	2,622,000	5,700	1,499,100	4,121,100
合計	8,000	3,504,000	7,100	1,860,200	5,364,200
ー) 月末仕掛品	1,500	657,000	600	157,200	814,200
完 成 品	6,500	2,847,000	6,500	1,703,000	4,550,000

◆検定対策問題◆ 2.

月初有高 407,200円 + 214,160円 + 324,000円 + 88,100円 = 1,033,460円

第1工程原料費 第1工程加工費 第2工程前工程費 第2工程加工費

原料費 第1工程原料費

加工費 2,123,920円 + 2,749,900円 = 4,873,820円

第1工程加工費 第2工程加工費

製品 H 3,020,000円 + 2,580,000円 = 5,600,000円

第2工程前工程費 第2工程加工費

製品 K 第1工程完成品のうち3,000個分

月末有高 537,200円 + 378,080円 + 604,000円 + 258,000円 = 1,777,280円

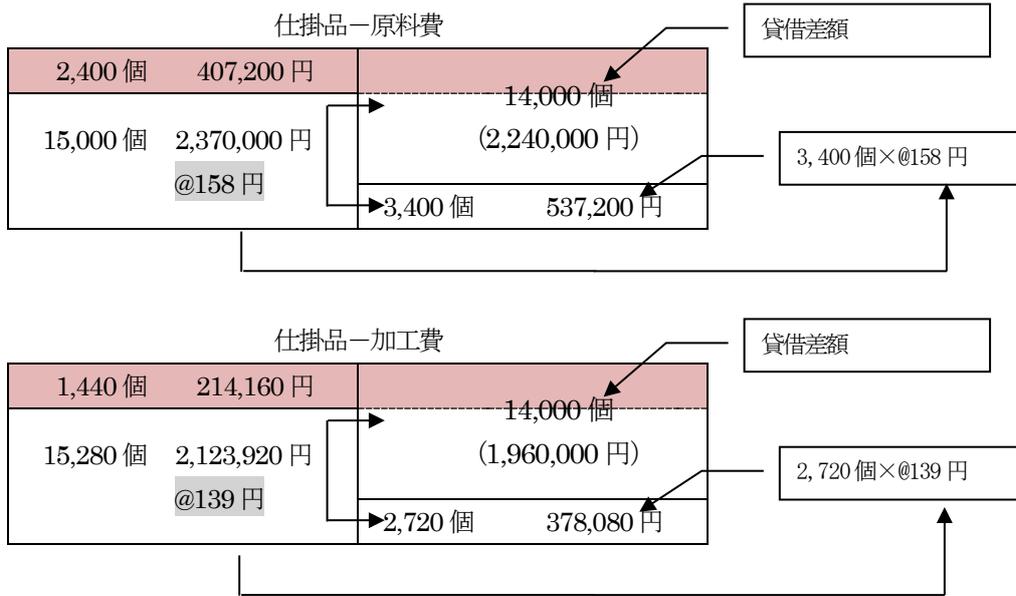
第1工程原料費 第1工程加工費 第2工程前工程費 第2工程加工費

【第1工程】

① 生産データの整理

仕掛品ー原料費		仕掛品ー加工費		
2,400個	14,000個	※1 1,440個	※2 14,000個	※1 2,400個×0.6
15,000個	3,400個	※4 15,280個	※3 2,720個	※2 14,000個×1
				※3 3,400個×0.8
				※4 貸借差額

②月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



第1工程完成品原価 2,240,000円 + 1,960,000円 = 4,200,000円
 (第1工程完成品単位原価 4,200,000円 ÷ 14,000個 = @300円)

<第1工程完成品の取扱い>

第1工程		第2工程	
月初仕掛品	2,400個 (0.6)	月初仕掛品	1,000個 (0.3)
当月投入	15,000個	当月投入	11,000個
合計	17,400個	合計	12,000個
月末仕掛品	3,400個 (0.8)	月末仕掛品	2,000個 (0.5)
完成品	14,000個	完成品	10,000個

完成品 14,000個 ← 第2工程へ投入 11,000個 × @300円 = 3,300,000円
 半製品 K 3,000個 × @300円 = 900,000円

【第2工程】

① 生産データの整理

仕掛品—前工程費		仕掛品—加工費		
1,000個	10,000個	※1 300個	※2 10,000個	※1 1,000個 × 0.3
11,000個		※4 10,700個		※3 1,000個
				※3 2,000個 × 0.5
				※4 貸借差額

②月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—前工程費

1,000個	324,000円	10,000個	(3,020,000円)
11,000個	3,300,000円	2,000個	604,000円
12,000個		3,624,000円	

@302円

貸借差額

2,000個×@302円

仕掛品—加工費

300個	88,100円	10,000個	(2,580,000円)
10,700個	2,749,900円	1,000個	258,000円
11,000個		2,838,000円	

@258円

貸借差額

1,000個×@258円

月末仕掛品原価 604,000円 + 258,000円 = 862,000円
 完成品原価 3,020,000円 + 2,580,000円 = 5,600,000円

【参考】ワークシートを用いた解答

<第1工程>先入先出法

(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	15,000	2,370,000	15,280	2,123,920	4,493,920
-) 月末仕掛品	3,400	537,200	2,720	378,080	915,280
差引	11,600	1,832,800	12,560	1,745,840	3,578,640
+) 月初仕掛品	2,400	407,200	1,440	214,160	621,360
完成品	14,000	2,240,000	14,000	1,960,000	4,200,000

<第2工程>平均法

(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	1,000	324,000	300	88,100	412,100
+) 当月投入	11,000	3,300,000	10,700	2,749,900	6,049,900
合計	12,000	3,624,000	11,000	2,838,000	6,462,000
-) 月末仕掛品	2,000	604,000	1,000	258,000	862,000
完成品	10,000	3,020,000	10,000	2,580,000	5,600,000

Section 2 組別総合原価計算

—基本問題— 9-2

(1) 組間接費の各組製品への配賦額の計算

$$\begin{aligned}
 & \text{A組製品} \quad \frac{4,803,400 \text{ 円}}{1,860 \text{ 時間} + 4,720 \text{ 時間}} \times 1,860 \text{ 時間} = 1,357,800 \text{ 円} \\
 & \text{B組製品} \quad \frac{4,803,400 \text{ 円}}{1,860 \text{ 時間} + 4,720 \text{ 時間}} \times 4,720 \text{ 時間} = 3,445,600 \text{ 円}
 \end{aligned}$$

(2) A組製品・B組製品の完成品原価の計算

① 生産データの整理

A組仕掛品—直接材料費		A組仕掛品—加工費		
1,500個	9,000個	※ ¹ 1,200個	※ ² 9,000個	※ ¹ 1,500個×0.8
10,000個	2,500個	※ ⁴ 9,300個	※ ³ 1,500個	※ ² 9,000個×1
				※ ³ 2,500個×0.6
				※ ⁴ 貸借差額
B組仕掛品—直接材料費		B組仕掛品—加工費		
2,000個	24,000個	※ ¹ 1,000個	※ ² 24,000個	※ ¹ 2,000個×0.5
25,000個	3,000個	※ ⁴ 23,600個	※ ³ 600個	※ ² 24,000個×1
				※ ³ 3,000個×0.2
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

A組仕掛品—直接材料費				貸借差額
1,500個	311,500円	9,000個	(1,809,000円)	
10,000個	2,000,000円	2,500個	502,500円	
11,500個 2,311,500円				2,500個×@201円
	@201円			
A組仕掛品—加工費				貸借差額
1,200個	※ ¹ 321,000円	9,000個	(2,268,000円)	
9,300個	※ ² 2,325,000円	1,500個	378,000円	
10,500個 2,646,000円				1,500個×@252円
	@252円			

※¹ 直接労務費 173,000円 + 組間接費 148,000円

※² 直接労務費 967,200円 + 組間接費配賦額 1,357,800円

B組仕掛品—直接材料費			
2,000個	267,000円	24,000個 (2,904,000円)	貸借差額
25,000個	3,000,000円		
27,000個 3,267,000円		3,000個 363,000円	3,000個×@121円

@121円

B組仕掛品—加工費			
1,000個	※1 235,400円	24,000個 (6,216,000円)	貸借差額
23,600個	※2 6,136,000円		
24,600個 6,371,400円		600個 155,400円	600個×@259円

@259円

※1 直接労務費 137,400円 + 組間接費 98,000円

※2 直接労務費 2,690,400円 + 組間接費配賦額 3,445,600円

【参考】ワークシートを用いた解答

<A組製品>平均法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	1,500	311,500	1,200	321,000	632,500
+) 当月投入	10,000	2,000,000	9,300	2,325,000	4,325,000
合計	11,500	2,311,500	10,500	2,646,000	4,957,500
-) 月末仕掛品	2,500	502,500	1,500	378,000	880,500
完 成 品	9,000	1,809,000	9,000	2,268,000	4,077,000

<B組製品>平均法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	2,000	267,000	1,000	235,400	502,400
+) 当月投入	25,000	3,000,000	23,600	6,136,000	9,136,000
合計	27,000	3,267,000	24,600	6,371,400	9,638,400
-) 月末仕掛品	3,000	363,000	600	155,400	518,400
完 成 品	24,000	2,904,000	24,000	6,216,000	9,120,000

—基本問題— 9-3

(1) 組間接費の各組製品への配賦額の計算

$$\begin{aligned} \text{A組製品} & \frac{4,526,500 \text{ 円}}{2,530 \text{ 時間} + 1,585 \text{ 時間}} \times 2,530 \text{ 時間} = 2,783,000 \text{ 円} \\ \text{B組製品} & \frac{4,526,500 \text{ 円}}{2,530 \text{ 時間} + 1,585 \text{ 時間}} \times 1,585 \text{ 時間} = 1,743,500 \text{ 円} \end{aligned}$$

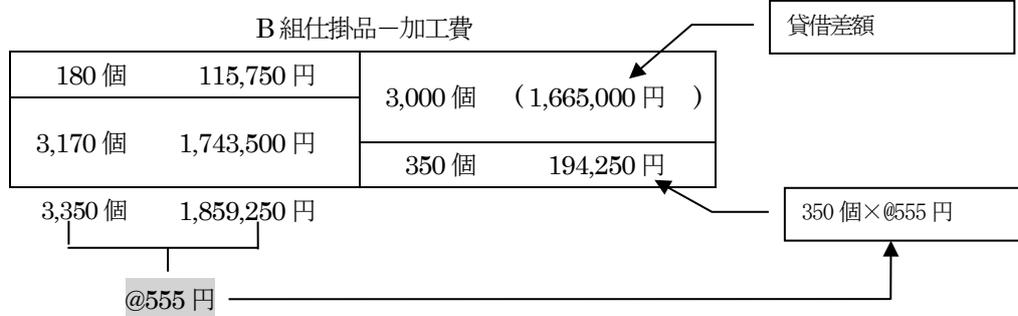
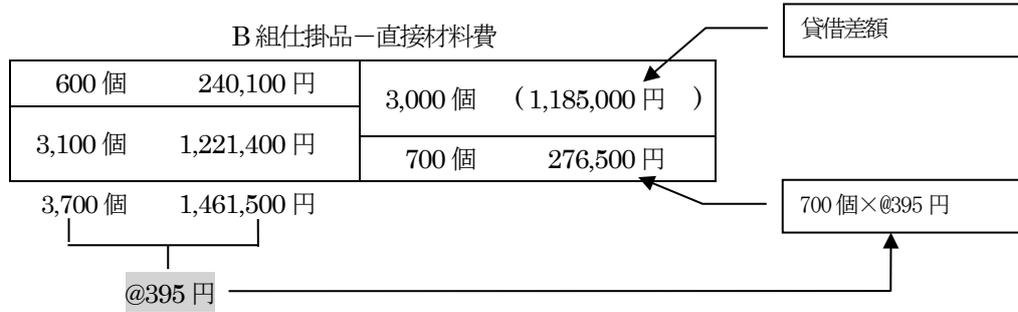
(2) A組製品・B組製品の完成品原価の計算

① 生産データの整理

A組仕掛品—直接材料費		A組仕掛品—加工費		
500個	4,700個	※ ¹ 200個	※ ² 4,700個	※ ¹ 500個×0.4
5,000個	800個	※ ⁴ 5,060個	※ ³ 560個	※ ² 4,700個×1
				※ ³ 800個×0.7
				※ ⁴ 貸借差額
B組仕掛品—直接材料費		B組仕掛品—加工費		
600個	3,000個	※ ¹ 180個	※ ² 3,000個	※ ¹ 600個×0.3
3,100個	700個	※ ⁴ 3,170個	※ ³ 350個	※ ² 3,000個×1
				※ ³ 700個×0.5
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

A組仕掛品—直接材料費				貸借差額
500個	167,500円	4,700個	(1,621,500円)	
5,000個	1,730,000円	800個	276,000円	
5,500個	1,897,500円			800個×@345円
	@345円			
A組仕掛品—加工費				貸借差額
200個	136,300円	4,700個	(2,608,500円)	
5,060個	2,783,000円	560個	310,800円	
5,260個	2,919,300円			560個×@555円
	@555円			



【参考】ワークシートを用いた解答

<A組製品>平均法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	500	167,500	200	136,300	303,800
+) 当月投入	5,000	1,730,000	5,060	2,783,000	4,513,000
合計	5,500	1,897,500	5,260	2,919,300	4,816,800
-) 月末仕掛品	800	276,000	560	310,800	586,800
完 成 品	4,700	1,621,500	4,700	2,608,500	4,230,000

<B組製品>平均法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	600	240,100	180	115,750	355,850
+) 当月投入	3,100	1,221,400	3,170	1,743,500	2,964,900
合計	3,700	1,461,500	3,350	1,859,250	3,320,750
-) 月末仕掛品	700	276,500	350	194,250	470,750
完 成 品	3,000	1,185,000	3,000	1,665,000	2,850,000

◆検定対策問題◆ 3.

(1) 組間接費の各組製品への配賦額の計算 (直接労務費の金額の割合)

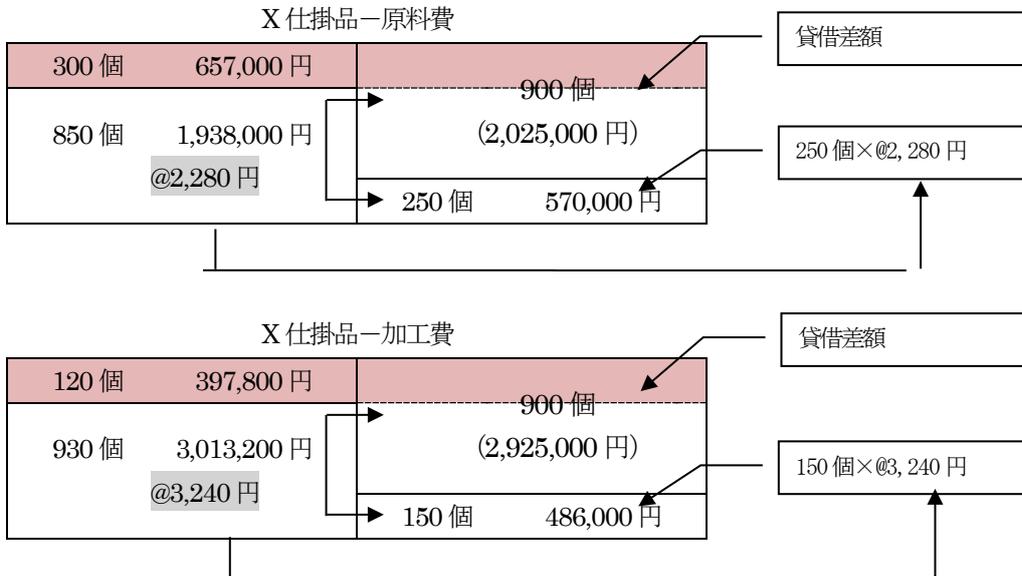
$$\begin{aligned} \text{X製品} & \frac{2,410,560 \text{ 円}}{1,674,000 \text{ 円} + 1,339,200 \text{ 円}} \times 1,674,000 \text{ 円} = 1,339,200 \text{ 円} \\ \text{Y製品} & \frac{2,410,560 \text{ 円}}{1,674,000 \text{ 円} + 1,339,200 \text{ 円}} \times 1,339,200 \text{ 円} = 1,071,360 \text{ 円} \end{aligned}$$

(2) X製品・Y製品の完成品原価の計算

① 生産データの整理

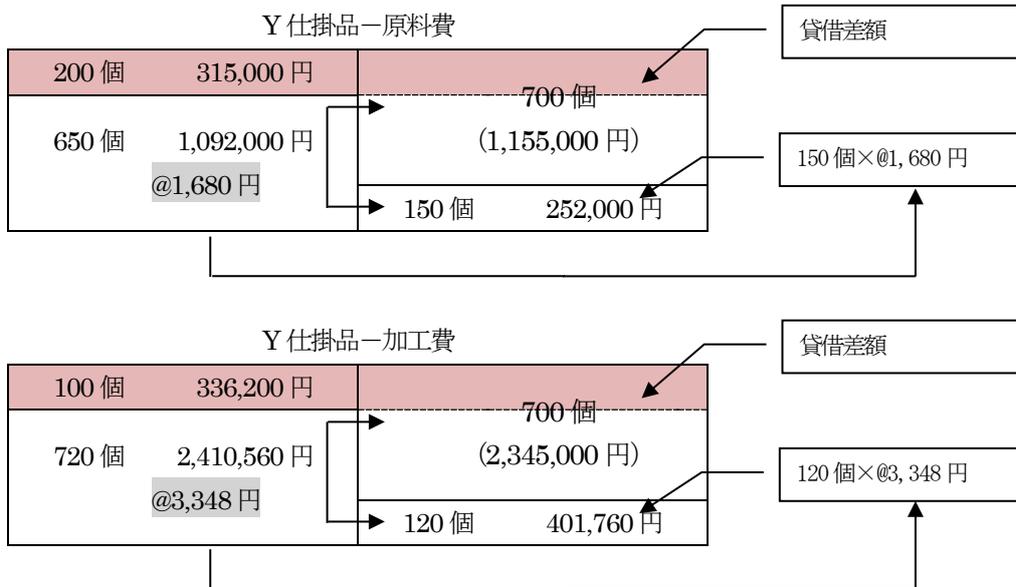
X 仕掛品—原料費		X 仕掛品—加工費		
300 個	900 個	※ ¹ 120 個	※ ² 900 個	※ ¹ 300 個 × 0.4
850 個	250 個	※ ⁴ 930 個	※ ³ 150 個	※ ² 900 個 × 1
				※ ³ 250 個 × 0.6
				※ ⁴ 貸借差額
Y 仕掛品—原料費		Y 仕掛品—加工費		
200 個	700 個	※ ¹ 100 個	※ ² 700 個	※ ¹ 200 個 × 0.5
650 個	150 個	※ ⁴ 720 個	※ ³ 120 個	※ ² 700 個 × 1
				※ ³ 150 個 × 0.8
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



※¹ 直接労務費 238,600 円 + 組間接費 159,200 円

※² 直接労務費 1,674,000 円 + 組間接費配賦額 1,339,200 円



- ※1 直接労務費 201,700円 + 組間接費 134,500円
- ※2 直接労務費 1,339,200円 + 組間接費配賦額 1,071,360円

【仕掛品勘定の各金額】

月初仕掛品原価 657,000円 + 397,800円 + 315,000円 + 336,200円 = 1,706,000円
 (問題文・月初仕掛品原価の原料費・直接労務費・製造間接費合計)

X 製品 2,025,000円 + 2,925,000円 = 4,950,000円

Y 製品 1,155,000円 + 2,345,000円 = 3,500,000円

月末仕掛品原価 570,000円 + 486,000円 + 252,000円 + 401,760円 = 1,709,760円

【参考】ワークシートを用いた解答

<X製品>先入先出法 (単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	850	1,938,000	930	3,013,200	4,951,200
－) 月末仕掛品	250	570,000	150	486,000	1,056,000
差引	600	1,368,000	780	2,527,200	3,895,200
+) 月初仕掛品	300	657,000	120	397,800	1,054,800
完成品	900	2,025,000	900	2,925,000	4,950,000

<Y製品>先入先出法 (単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	650	1,092,000	720	2,410,560	3,502,560
－) 月末仕掛品	150	252,000	120	401,760	653,760
差引	500	840,000	600	2,008,800	2,848,800
+) 月初仕掛品	200	315,000	100	336,200	651,200
完成品	700	1,155,000	700	2,345,000	3,500,000

◆検定対策問題◆ 4.

(1) 組間接費の各組製品への配賦額の計算 (直接労務費の金額の割合)

$$\begin{aligned} \text{X製品} & \frac{1,580,040 \text{ 円}}{1,254,000 \text{ 円} + 1,003,200 \text{ 円}} \times 1,254,000 \text{ 円} = 877,800 \text{ 円} \\ \text{Y製品} & \frac{1,580,040 \text{ 円}}{1,254,000 \text{ 円} + 1,003,200 \text{ 円}} \times 1,003,200 \text{ 円} = 702,240 \text{ 円} \end{aligned}$$

(2) X組製品・Y組製品の完成品原価の計算

① 生産データの整理

X組仕掛品-原料費		X組仕掛品-加工費		
300個	3,600個	※ ¹ 180個	※ ² 3,600個	※ ¹ 300個×0.6
3,500個		200個		※ ⁴ 3,570個
Y組仕掛品-原料費		Y組仕掛品-加工費		
200個	1,500個	※ ¹ 160個	※ ² 1,500個	※ ¹ 200個×0.8
1,600個		300個		※ ⁴ 1,520個

② 月末仕掛品・完成品原価の計算-平均法-

X仕掛品-原料費				貸借差額
300個	118,400円	3,600個 (1,504,800円)		
3,500個	1,470,000円		200個	83,600円
3,800個 1,588,400円				200個×@418円
	@418円			
X仕掛品-加工費				貸借差額
180個	※ ¹ 88,200円	3,600個 (2,131,200円)		
3,570個	※ ² 2,131,800円		150個	88,800円
3,750個 2,220,000円				150個×@592円
	@592円			

※1 直接労務費 51,800円 + 組間接費 36,400円

※2 直接労務費 1,254,000円 + 組間接費配賦額 877,800円

Y仕掛品—原料費

200個	140,400円		1,500個	(1,077,000円)
1,600個	1,152,000円		300個	215,400円
1,800個 1,292,400円				

@718円

貸借差額

300個×@718円

Y仕掛品—加工費

160個	※1 187,920円		1,500個	(1,690,500円)
1,520個	※2 1,705,440円		180個	202,860円
1,680個 1,893,360円				

@1,127円

貸借差額

180個×@1,127円

- ※1 直接労務費 110,500円 + 組間接費 77,4200円
 ※2 直接労務費 1,003,200円 + 組間接費配賦額 702,240円

【仕掛品勘定の各金額】

月初仕掛品原価 118,400円 + 88,200円 + 140,400円 + 187,920円 = 534,920円
 (問題文・月初仕掛品原価の原料費・直接労務費・製造間接費合計)

X 製品 1,504,800円 + 2,131,200円 = 3,636,000円
 Y 製品 1,077,000円 + 1,690,500円 = 2,767,500円

月末仕掛品原価 83,600円 + 88,800円 + 215,400円 + 202,860円 = 590,660円

【参考】ワークシートを用いた解答

<X製品>平均法

(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	300	118,400	180	88,200	206,600
+) 当月投入	3,500	1,470,000	3,570	2,131,800	3,601,800
合計	3,800	1,588,400	3,750	2,220,000	3,808,400
-) 月末仕掛品	200	83,600	150	88,800	172,400
完成品	3,600	1,504,800	3,600	2,131,200	3,636,000

<Y製品>平均法

(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	200	140,400	160	187,920	328,320
+) 当月投入	1,600	1,152,000	1,520	1,705,440	2,857,440
合計	1,800	1,292,400	1,680	1,893,360	3,185,760
-) 月末仕掛品	300	215,400	180	202,860	418,260
完成品	1,500	1,077,000	1,500	1,690,500	2,767,500

Section 3 等級別総合原価計算

—基本問題— 9-4

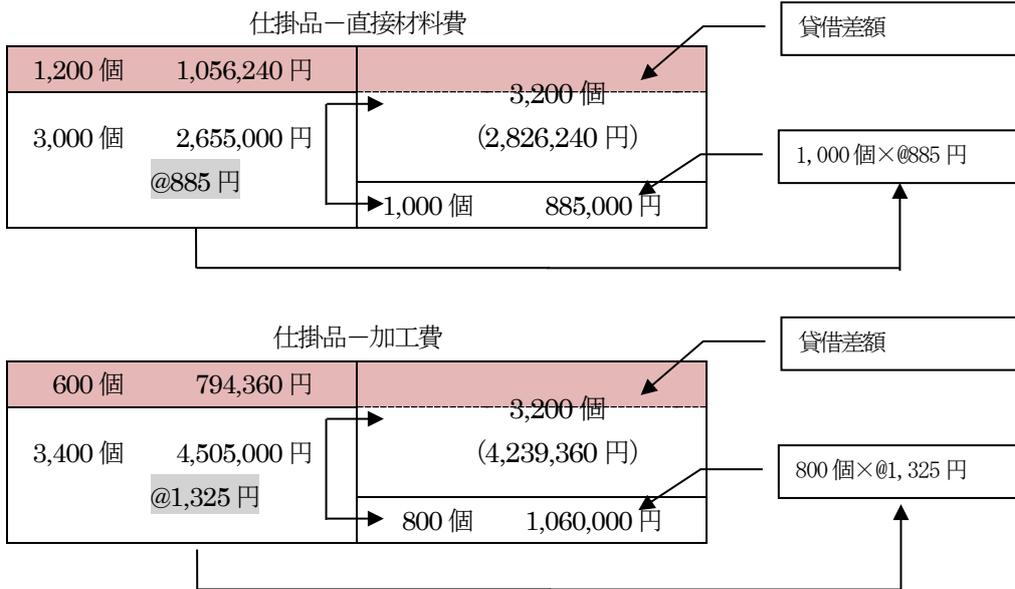
① 生産データの整理

1,200 個	3,200 個
3,000 個	1,000 個

※ ¹ 600 個	※ ² 3,200 個
※ ⁴ 3,400 個	※ ³ 800 個

※¹ 1,200 個×0.5
 ※² 3,200 個×1
 ※³ 1,000 個×0.8
 ※⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



月末仕掛品原価 885,000 円 + 1,060,000 円 = 1,945,000 円
 完成品原価 2,826,240 円 + 4,239,360 円 = 7,065,600 円

③ 完成品総合原価を各等級製品に積数の比で按分

	〈積数〉	(完成品数量 × 等価係数)
A 製品	640 個	640 個 × 1.0
B 製品	768 個	960 個 × 0.8
C 製品	800 個	1,600 個 × 0.5

〈完成品総合原価の按分〉

A 製品 $\frac{7,065,600 \text{ 円}}{640 \text{ 個} + 768 \text{ 個} + 800 \text{ 個}} \times 640 \text{ 個} = 2,048,000 \text{ 円}$
 B 製品 $\frac{7,065,600 \text{ 円}}{640 \text{ 個} + 768 \text{ 個} + 800 \text{ 個}} \times 768 \text{ 個} = 2,457,600 \text{ 円}$
 C 製品 $\frac{7,065,600 \text{ 円}}{640 \text{ 個} + 768 \text{ 個} + 800 \text{ 個}} \times 800 \text{ 個} = 2,560,000 \text{ 円}$

④ 完成品単位原価の計算

- A 製品 2,048,000 円 (完成品原価) ÷ 640 個 (完成品数量) = @3,200 円
 B 製品 2,457,600 円 (完成品原価) ÷ 960 個 (完成品数量) = @2,560 円
 C 製品 2,560,000 円 (完成品原価) ÷ 1,600 個 (完成品数量) = @1,600 円

◆検定対策問題◆ 5.

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費		
350 個	3,000 個	※ ¹ 210 個	※ ² 3,000 個	※ ¹ 350 個×0.6
3,100 個		※ ⁴ 3,150 個		※ ³ 360 個
	450 個			※ ³ 450 個×0.8
				※ ⁴ 貸借差額

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—平均法—

仕掛品—直接材料費				貸借差額
350 個	688,900 円	3,000 個	(5,958,000 円)	
3,100 個	6,162,800 円			
3,450 個 6,851,700 円		450 個	893,700 円	450 個×@1,986 円
@1,986 円				

仕掛品—加工費				貸借差額
210 個	616,140 円	3,000 個	(8,937,000 円)	
3,150 個	9,393,300 円			
3,360 個 10,009,440 円		360 個	1,072,440 円	360 個×@2,979 円
@2,979 円				

月末仕掛品原価 893,700 円 + 1,072,440 円 = 1,966,140 円
 完成品原価 5,958,000 円 + 8,937,000 円 = 14,895,000 円

③ 完成品総合原価を各等級製品に積数の比で按分

	〈積数〉	(完成品数量 × 等価係数)
A 製品	1,875 個	750 個 × 2.5
B 製品	1,890 個	1,050 個 × 1.8
C 製品	1,200 個	1,200 個 × 1.0

〈等価係数の求め方〉

$$X : Y : Z = 500 : 360 : 200 = 2.5 : 1.8 : 1.0$$

〈完成品総合原価の按分〉

$$\begin{aligned} \text{X 製品} & \quad \frac{14,895,000 \text{ 円}}{1,875 \text{ 個} + 1,890 \text{ 個} + 1,200 \text{ 個}} \times 1,875 \text{ 個} = 5,625,000 \text{ 円} \\ \text{Y 製品} & \quad \frac{14,895,000 \text{ 円}}{1,875 \text{ 個} + 1,890 \text{ 個} + 1,200 \text{ 個}} \times 1,890 \text{ 個} = 5,670,000 \text{ 円} \\ \text{Z 製品} & \quad \frac{14,895,000 \text{ 円}}{1,875 \text{ 個} + 1,890 \text{ 個} + 1,200 \text{ 個}} \times 1,200 \text{ 個} = 3,600,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

④ 完成品単位原価の計算

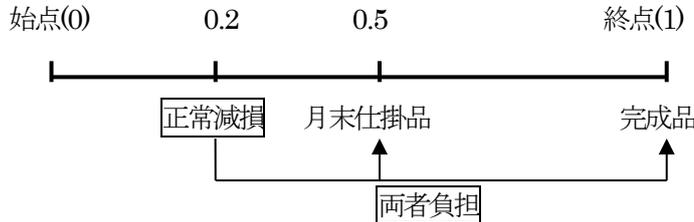
$$\begin{aligned} \text{A 製品} & \quad 5,625,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 750 \text{ 個 (完成品数量)} = @7,500 \text{ 円} \\ \text{B 製品} & \quad 5,670,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 1,050 \text{ 個 (完成品数量)} = @5,400 \text{ 円} \\ \text{C 製品} & \quad 3,600,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 1,200 \text{ 個 (完成品数量)} = @3,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

Chapter 10 総合原価計算 (3)

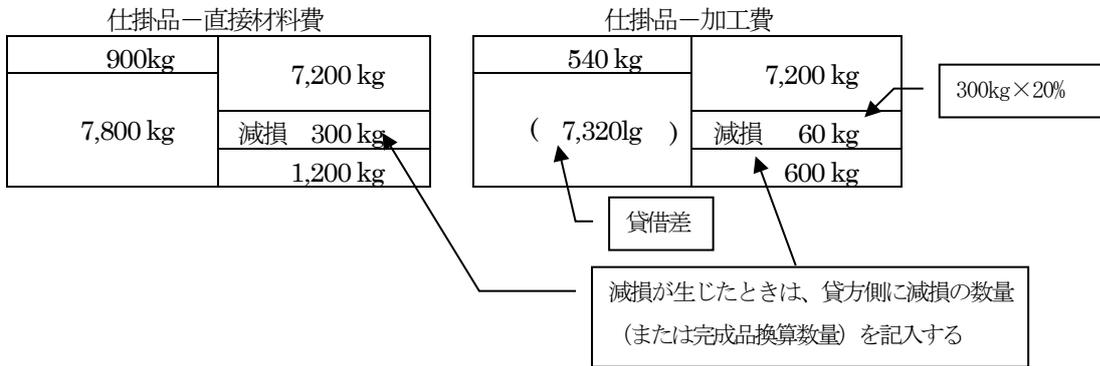
Section 1 減損の処理

—基本問題— 10-1

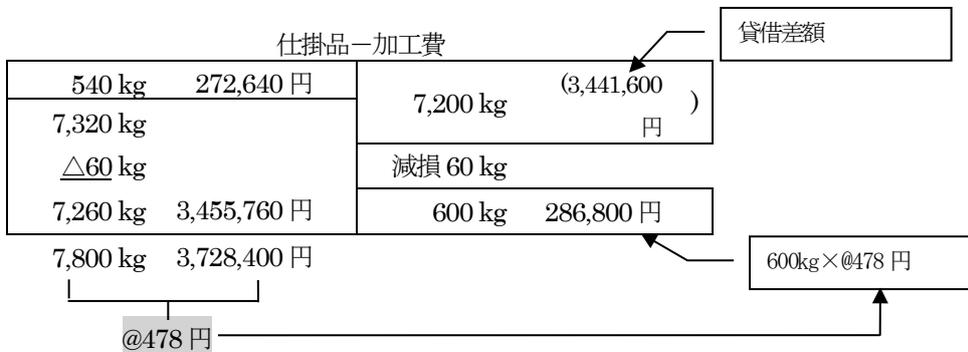
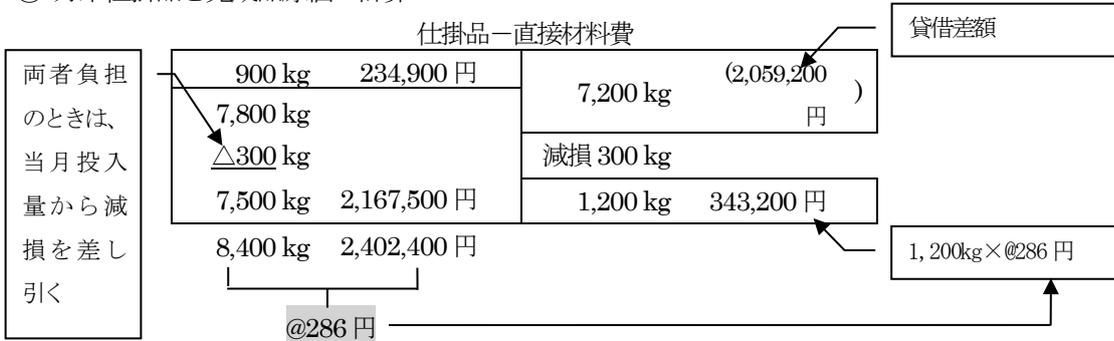
① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品と完成品原価の計算



完成品原価 2,059,200円 + 3,441,600円 = 5,500,800円

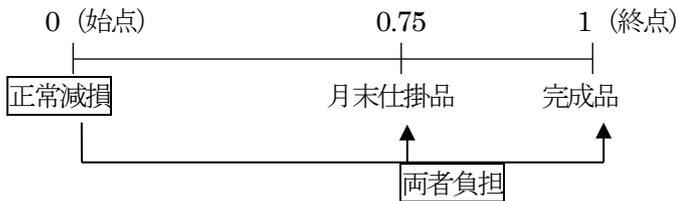
完成品単位原価 5,500,800円 ÷ 7,200個 = @764円

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

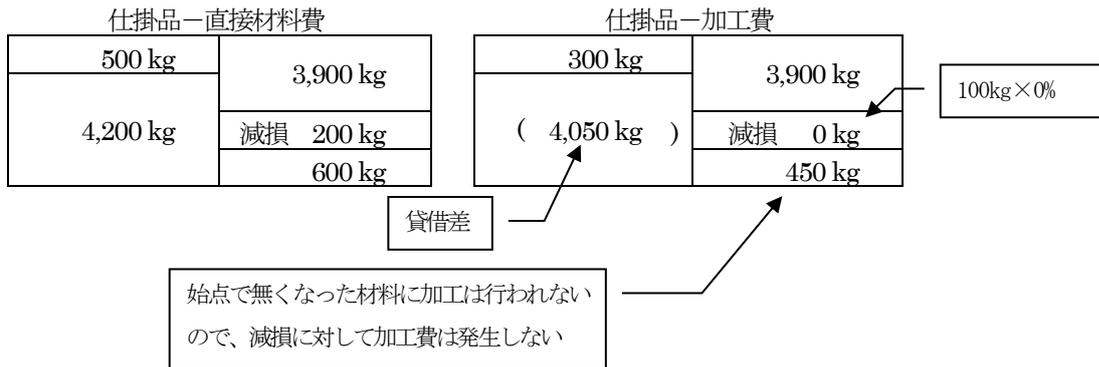
摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	900	234,900	540	272,640	507,540
+ 当月投入	7,800	2,167,500	7,320	3,455,760	5,623,260
合計	8,700	2,402,400	7,860	3,728,400	6,130,800
正常減損	300	—	60	—	
差引	8,400	2,402,400	7,800	3,728,400	6,130,800
- 月末仕掛品	1,200	343,200	600	286,800	630,000
完成品	7,200	2,059,200	7,200	3,441,600	5,500,800

—基本問題— 10-2

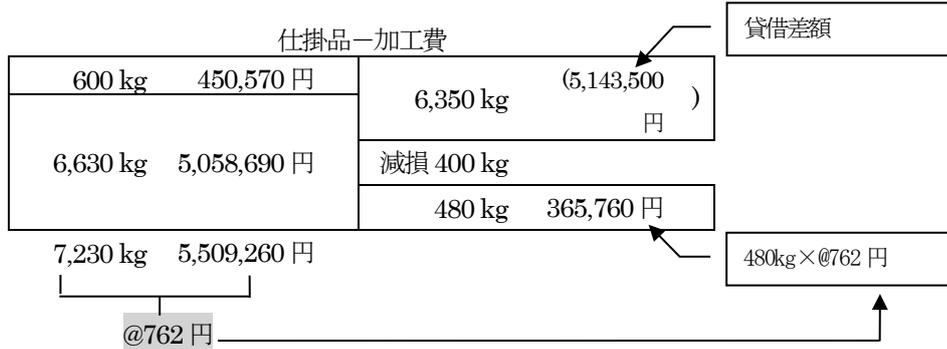
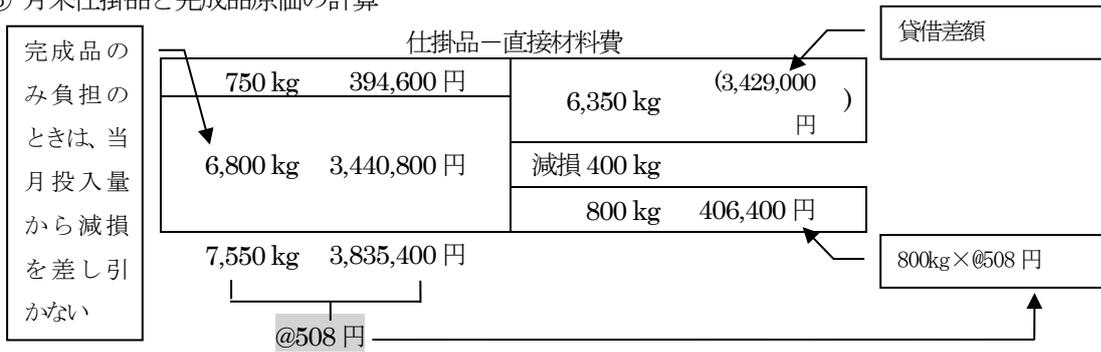
① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品と完成品原価の計算



完成品原価 3,429,000 円 + 5,143,500 円 = 8,572,500 円

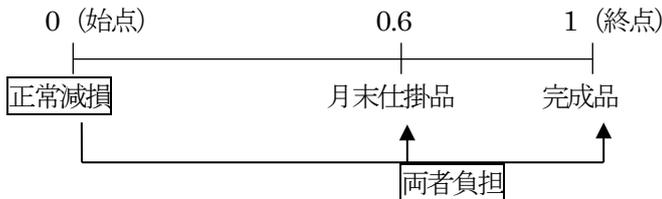
完成品単位原価 8,572,500 円 ÷ 6,350 個 = @1,350 円

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

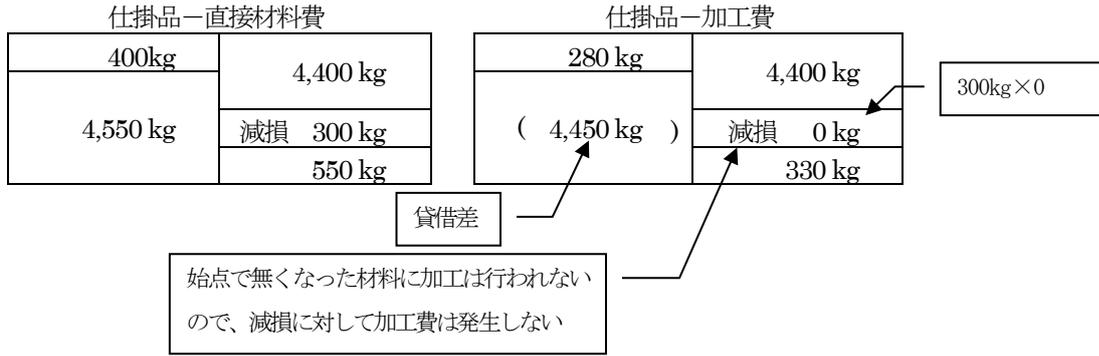
摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	750	394,600	600	450,570	845,170
+ 当月投入	6,800	3,440,800	6,630	5,058,690	8,499,490
合計	7,550	3,835,400	7,230	5,509,260	9,344,660
- 月末仕掛品	800	406,400	480	365,760	772,160
差引	6,750	3,429,000	6,750	5,143,500	8,572,500
正常減損	400	-	400	-	-
完成品	6,350	3,429,000	6,350	5,143,500	8,572,500

—基本問題— 10-4

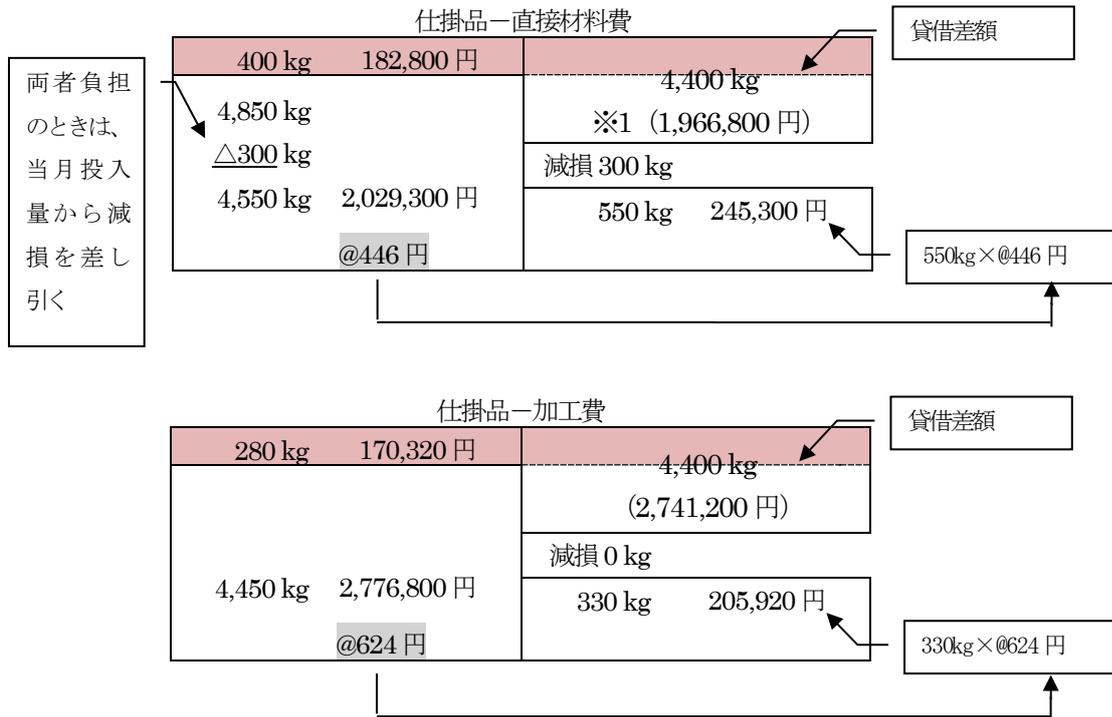
① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



完成品原価 1,966,800 円 + 2,741,200 円 = 4,708,000 円

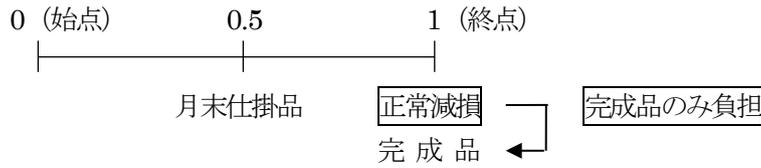
完成品単位原価 4,708,000 円 ÷ 4,400 個 = @1,070 円

【参考】 ワークシートを用いた解答

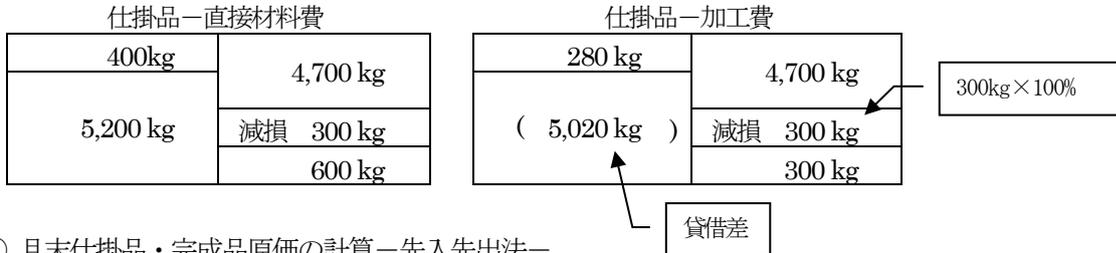
摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	4,850	2,029,300	4,450	2,776,800	4,806,100
ー) 正常減損	300	—	—	—	—
差引	4,550	2,029,300	4,450	2,776,800	4,806,100
ー) 月末仕掛品	550	245,300	330	205,920	451,220
差引	4,000	1,784,000	4,120	2,570,880	4,354,880
月初仕掛品	400	182,800	280	170,320	353,120
完成品	4,400	1,966,800	4,400	2,741,200	4,708,000

—基本問題— 10-5

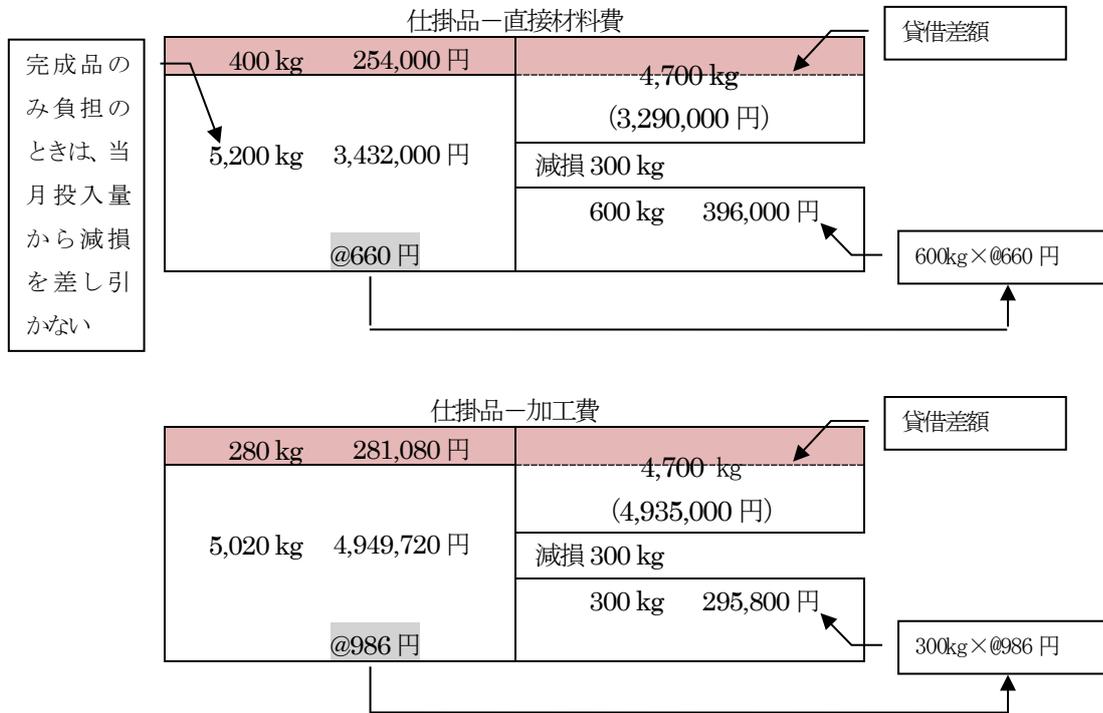
① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



完成品原価 3,290,000円 + 4,935,000円 = 8,225,000円

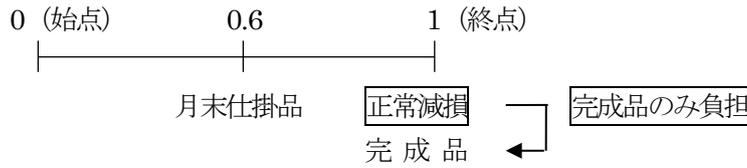
完成品単位原価 8,225,000円 ÷ 4,700個 = @1,750円

【参考】 ワークシートを用いた解答

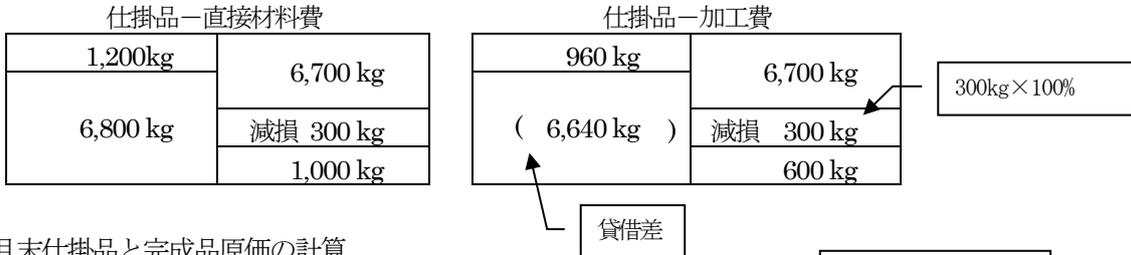
摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	5,200	3,432,000	5,020	4,949,720	8,381,720
ー) 正常減損	300	—	300	—	—
差引	4,900	3,432,000	4,720	4,949,720	8,381,720
ー) 月末仕掛品	600	396,000	300	295,800	691,800
差引	4,300	3,036,000	4,420	4,653,920	7,689,920
月初仕掛品	400	254,000	280	281,080	535,080
完成品	4,700	3,290,000	4,700	4,935,000	8,225,000

◆検定対策問題◆ 1.

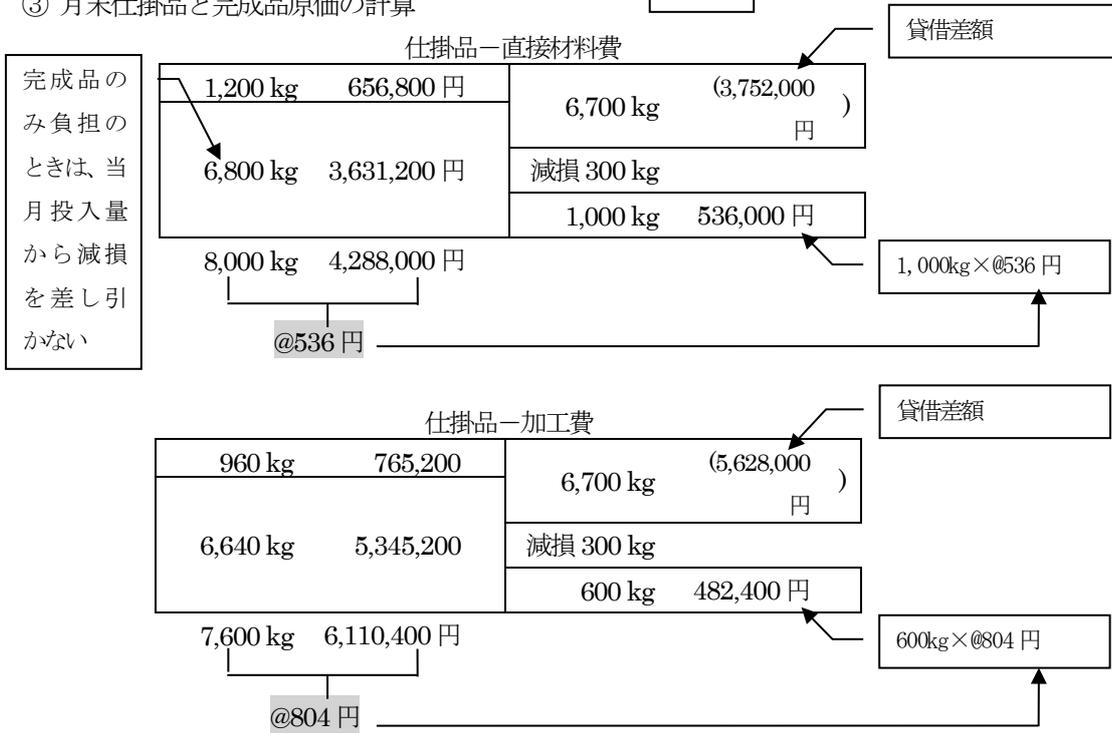
① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品と完成品原価の計算



完成品原価 3,752,000円 + 5,628,000円 = 9,380,000円

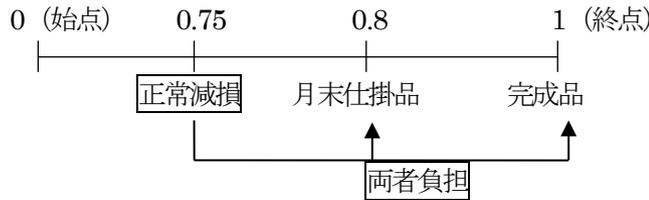
完成品単位原価 9,380,000円 ÷ 6,700個 = @1,400円

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	1,200	656,800	960	765,200	1,422,000
+ 当月投入	6,800	3,631,200	6,640	5,345,200	8,976,400
合計	8,000	4,288,000	7,600	6,110,400	10,398,400
- 月末仕掛品	1,000	536,000	600	482,400	1,018,400
差引	7,000	3,752,000	7,000	5,628,000	9,380,000
正常減損	300	-	300	-	-
完成品	6,700	3,752,000	6,700	5,628,000	9,380,000

◆検定対策問題◆ 2.

① 正常減損の負担関係



② 生産データの整理

仕掛品－直接材料費		仕掛品－加工費	
180kg	1,370 kg	90 kg	1,370 kg
1,500 kg	減損 60 kg	(1,525 kg)	減損 45 kg
	250 kg		200 kg

60kg × 75% (points to the 45kg loss in the processing cost table)

貸借差 (points to the 1,525 kg in the processing cost table)

③ 月末仕掛品・完成品原価の計算－先入先出法－

仕掛品－直接材料費		仕掛品－加工費	
180 kg ※1 241,240 円	1,370 kg	90 kg 199,310 円	1,370kg
1,500 kg	(1,817,990 円)	1,525 kg	(3,072,910 円)
△ 60 kg	減損 60 kg	△ 45 kg	減損 45 kg
1,440 kg ※2 1,908,000 円	250 kg 331,250 円	1,480 kg 3,322,600 円	200 kg 449,000 円
@1,325 円		@2,245 円	

両者負担のときは、当月投入量から減損を差し引く (points to the 60kg loss in the material cost table)

貸借差額 (points to the 1,370kg in both tables)

250kg × @1,325 円 (points to the 250kg in the material cost table)

200kg × @2,245 円 (points to the 200kg in the processing cost table)

※1 440,550 円 - 199,310 円 = 241,240 円

※2 5,230,600 円 - 3,322,600 円 = 1,908,000 円

解答用紙の月初仕掛品の欄より差額で求める。

完成品原価 1,817,990 円 + 3,072,910 円 = 4,890,900 円

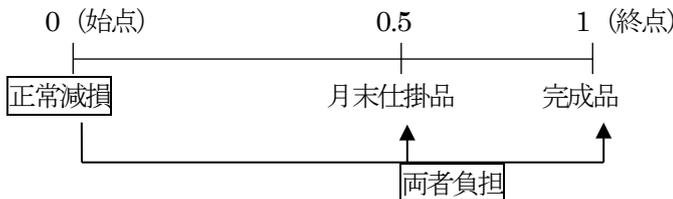
完成品単位原価 4,890,900 円 ÷ 1,370 個 = @3,570 円

【参考】 ワークシートを用いた解答

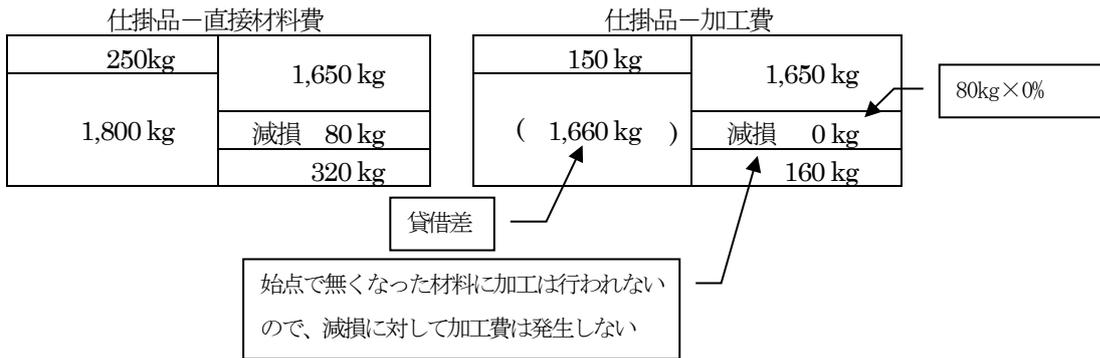
摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	1,500	1,908,000	1,525	3,322,600	5,230,600
ー) 正常減損	60	—	45	—	—
差引	1,440	1,908,000	1,480	3,322,600	5,230,600
ー) 月末仕掛品	250	331,250	200	449,000	780,250
差引	1,190	1,576,750	1,280	2,873,600	4,450,350
月初仕掛品	180	241,240	90	199,310	440,550
完成品	1,370	1,817,990	1,370	3,072,910	4,890,900

◆検定対策問題◆ 3.

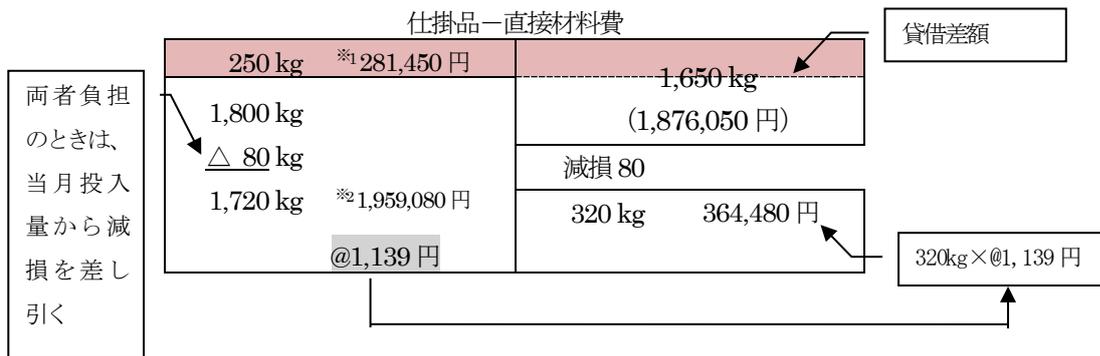
① 正常減損の負担関係

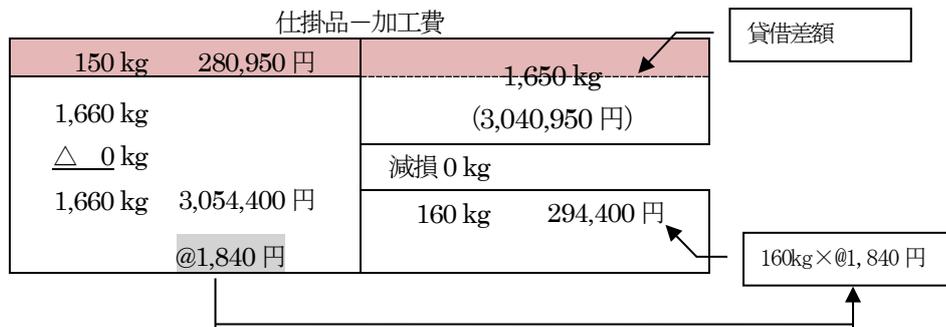


② 生産データの整理



③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—





※1 562,400 円 - 280,950 円 = 281,450 円

※2 5,013,480 円 - 3,054,400 円 = 1,959,080 円

解答用紙の月初仕掛品の欄より差額で求める。

完成品原価 1,876,050 円 + 3,040,950 円 = 4,917,000 円

完成品単位原価 4,917,000 円 ÷ 1,650 個 = @2,980 円

【参考】 ワークシートを用いた解答

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	1,800	1,959,080	1,660	3,054,400	5,013,480
一) 正常減損	80	—	0	—	—
差引	1,720	1,959,080	1,660	3,054,400	5,013,480
一) 月末仕掛品	320	364,480	160	294,400	658,880
差引	1,400	1,594,600	1,500	2,760,000	4,354,600
月初仕掛品	250	281,450	150	280,950	562,400
完成品	1,650	1,876,050	1,650	3,040,950	4,917,000

◆検定対策問題◆ 4.

【第1工程】

① 生産データの整理

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
500kg	4,000 kg	300 kg	4,000 kg
4,200 kg	700 kg	(4,190 kg)	490 kg

貸借差

② 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
500 kg	166,500 円	300 kg	136,700 円
4,200 kg	1,297,800 円 @309 円	4,190 kg	1,965,110 円 @469 円
4,000 kg (1,248,000 円)		4,000 kg (1,872,000 円)	
700 kg 216,300 円		490 kg 229,810 円	

貸借差額

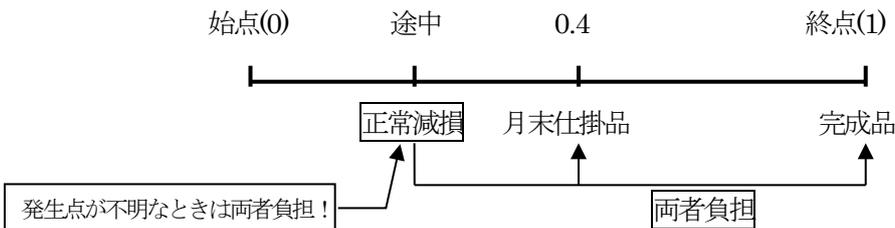
700kg × @309 円

490kg × @469 円

第1工程完成品原価 1,248,000 円 + 1,872,000 円 = 3,120,000 円 → 第2工程へ

【第2工程】

① 正常減損の負担関係

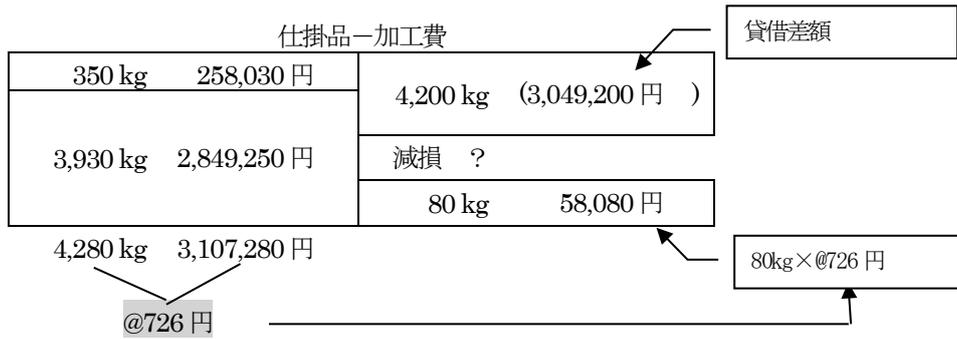
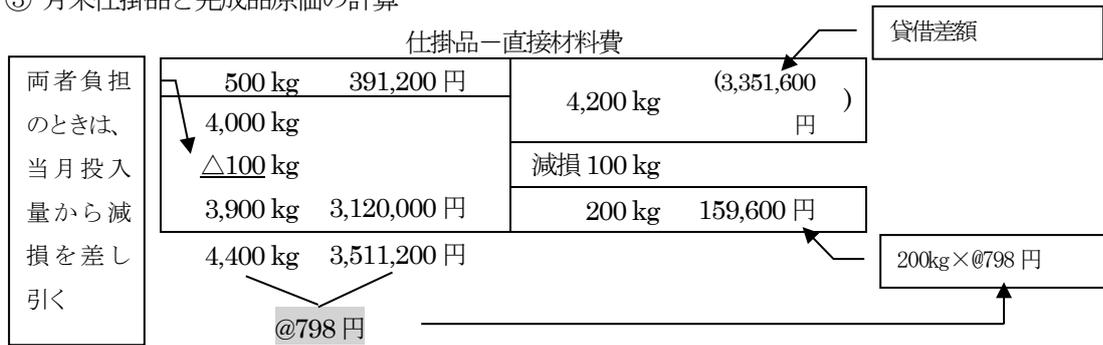


② 生産データの整理

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
500 kg	4,200 kg	350 kg	4,200 kg
4,000 kg	減損 100 kg	(3,930 kg)	減損 ? kg
	200 kg		80 kg

減損の発生点が不明なため、当月分の完成品換算数量は 4,200 + 80 - 350 で求める

③ 月末仕掛品と完成品原価の計算



完成品原価 3,351,600 円 + 3,049,200 円 = 6,400,800 円

完成品単位原価 6,400,800 円 ÷ 4,200 個 = @1,524 円

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

<第1工程>先入先出法

(単位：円)

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	4,200	1,297,800	4,190	1,965,110	3,262,910
－) 月末仕掛品	700	216,300	490	229,810	446,110
差引	3,500	1,081,500	3,700	1,735,300	2,816,800
+) 月初仕掛品	500	166,500	300	136,700	303,200
完成品	4,000	1,248,000	4,000	1,872,000	3,120,000

<第2工程>平均法

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	500	391,200	350	258,030	649,230
+) 当月投入	4,000	3,120,000	3,930	2,849,250	5,969,250
合計	4,500	3,511,200	4,280	3,107,280	6,618,480
正常減損	100	—	—	—	—
差引	4,400	3,511,200	4,280	3,107,280	6,618,480
－) 月末仕掛品	200	159,600	80	58,080	217,680
完成品	4,200	3,351,600	4,200	3,049,200	6,400,800

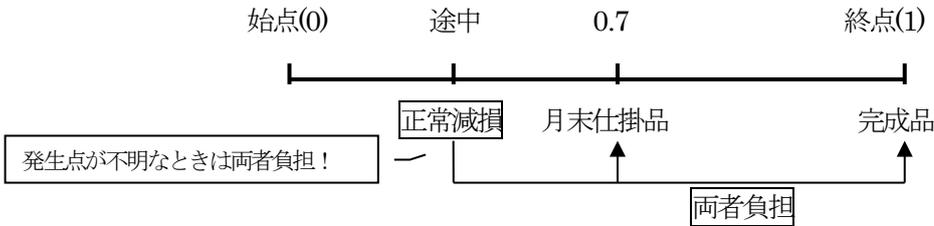
◆検定対策問題◆ 5.

① 組間接費の各組製品への配賦額の計算 (直接労務費の金額の割合)

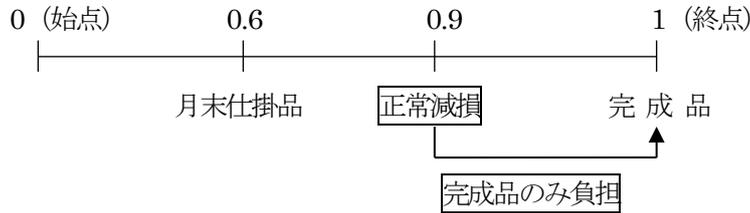
$$\text{X製品} \quad \frac{1,730,750 \text{ 円}}{468,000 \text{ 円} + 273,750 \text{ 円}} \times 468,000 \text{ 円} = 1,092,000 \text{ 円}$$

$$\text{Y製品} \quad \frac{1,730,750 \text{ 円}}{468,000 \text{ 円} + 273,750 \text{ 円}} \times 273,750 \text{ 円} = 638,750 \text{ 円}$$

② 正常減損の負担関係 (X製品)



正常減損の負担関係 (Y製品)



③ 生産データの整理

X仕掛品-原料費	
150kg	500 kg
600 kg	減損 50 kg
	200 kg

X仕掛品-加工費	
120 kg	500 kg
(520 kg)	減損 ? kg
	140 kg

減損の発生点が不明なため、当月分の完成品換算数量は $500 + 140 - 120$ で求める

Y仕掛品-原料費	
100 kg	600 kg
800 kg	減損 100 kg
	200 kg

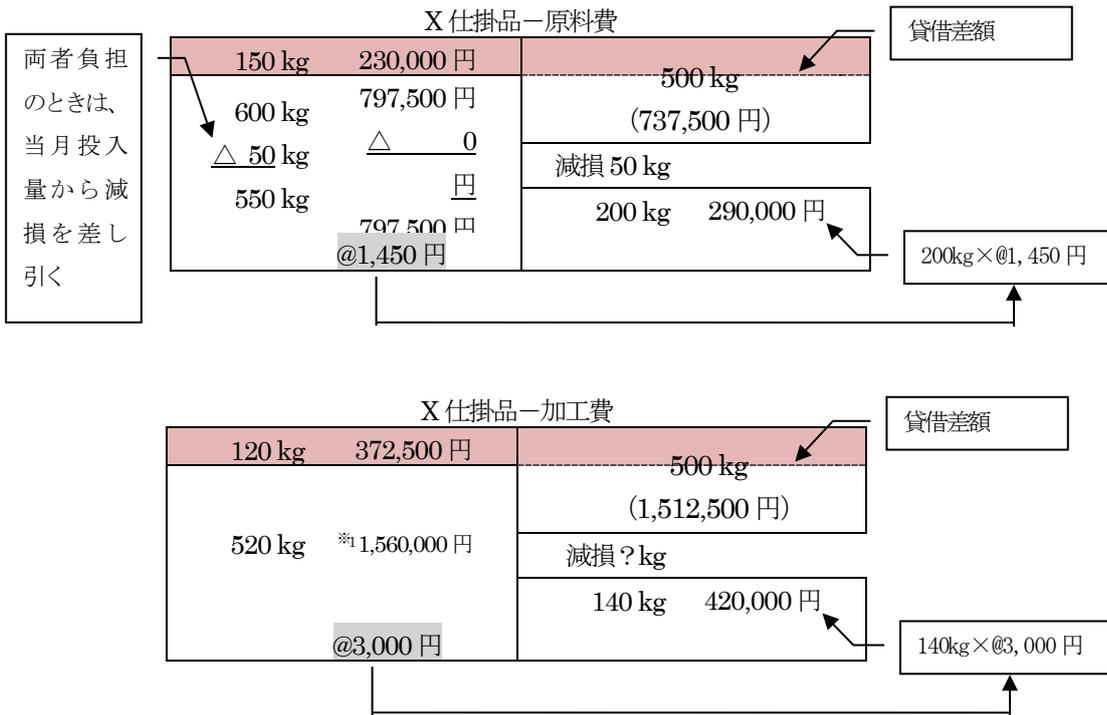
Y仕掛品-加工費	
80 kg	600 kg
(730 kg)	減損 90 kg
	120 kg

$100\text{kg} \times 0.9$

貸借差

④ 月末仕掛品・完成品原価の計算

【X製品—先入先出法】



※1 468,000 円 + 1,092,000 円

直接労務費 製造間接費

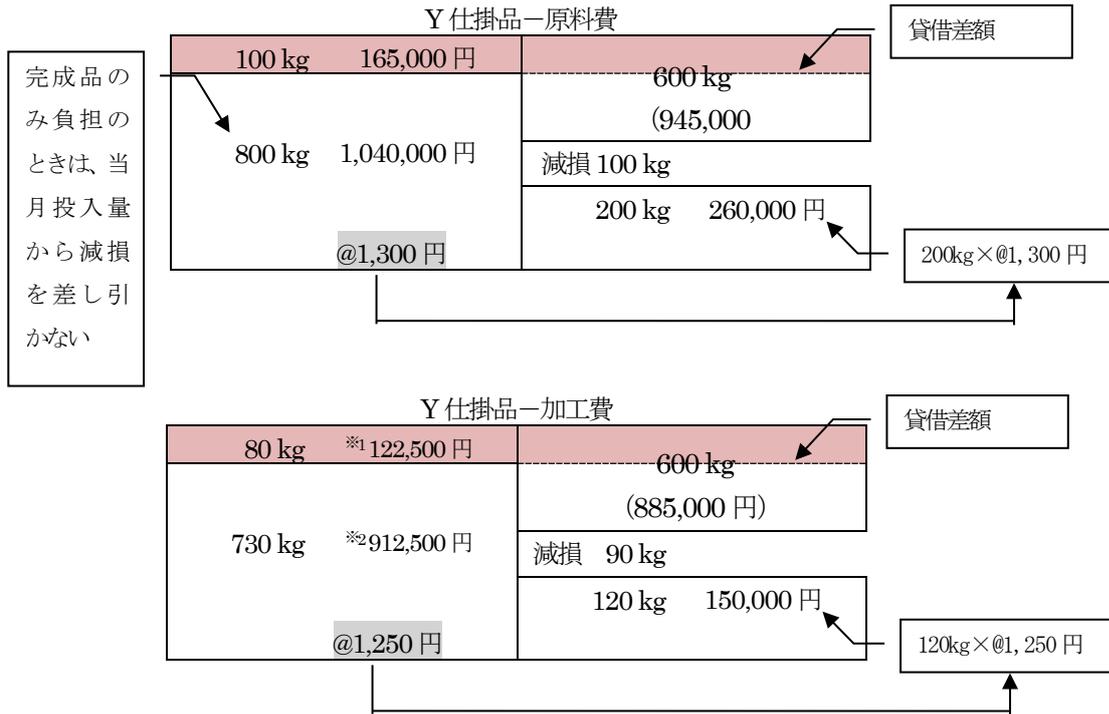
【参考】ワークシートを用いた解答

<X製品>先入先出法

(単位：円)

摘 要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当 月 投 入	600	797,500	520	1,560,000	2,357,500
－) 正常減損	50	—	—	—	—
差引	550	797,500	520	1,560,000	2,357,500
－) 月末仕掛品	200	290,000	140	420,000	710,000
差引	350	507,500	380	1,140,000	1,647,500
月 初 仕 掛 品	150	230,000	120	372,500	602,500
完 成 品	500	737,500	500	1,512,500	2,250,000

【Y製品—先入先出法】



※1 185,500円 + 309,500円 - 372,500円

直接労務費 製造間接費 X製品

※2 273,750円 + 638,750円

直接労務費 製造間接費

【参考】ワークシートを用いた解答

<Y製品>先入先出法

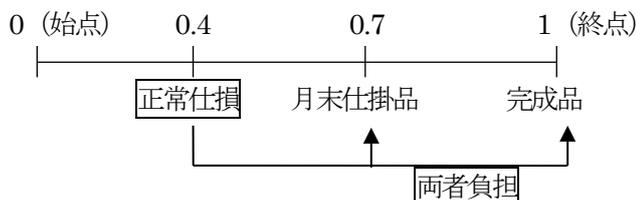
(単位：円)

摘要	原料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	800	1,040,000	730	912,500	1,952,500
ー) 正常減損	100	—	90	—	—
差引	700	1,040,000	640	912,500	1,952,500
ー) 月末仕掛品	200	260,000	120	150,000	410,000
差引	500	780,000	520	762,500	1,542,500
月初仕掛品	100	165,000	80	122,500	287,500
完成品	600	945,000	600	885,000	1,830,000

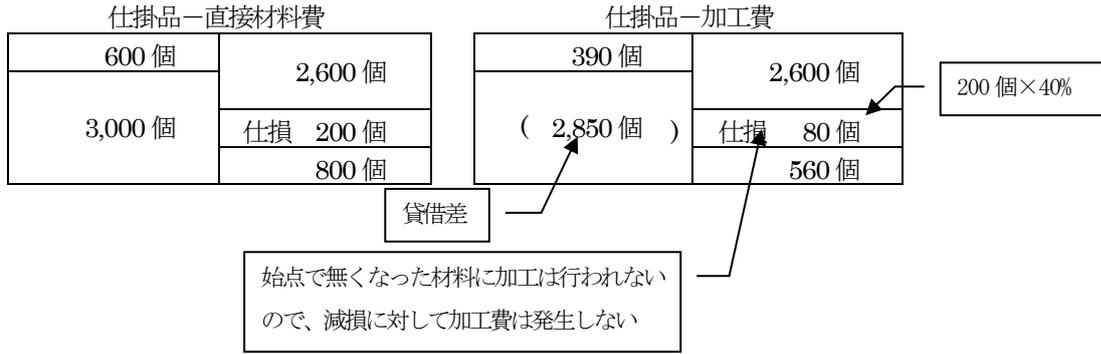
Section 2 仕損の処理

—基本問題— 10-6

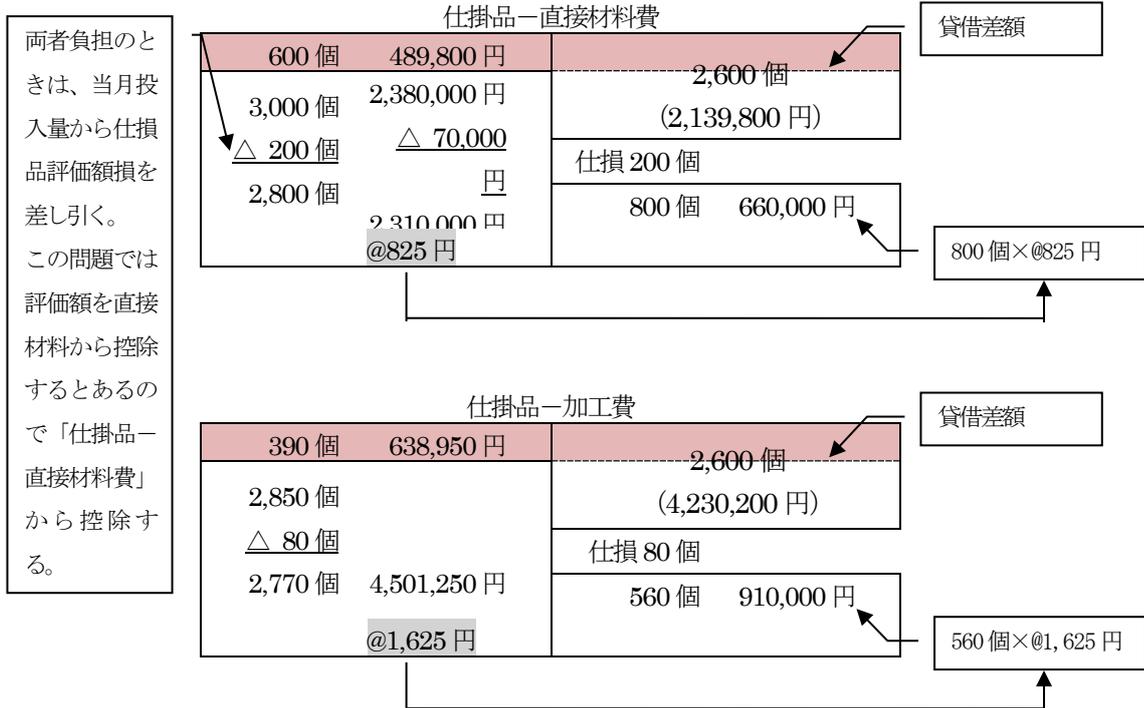
① 正常仕損の負担関係



② 生産データの整理



③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—



※1 562,400円 - 280,950円 = 281,450円

※2 5,013,480円 - 3,054,400円 = 1,959,080円

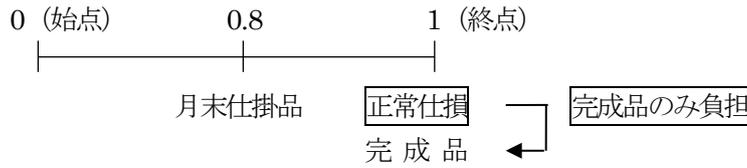
解答用紙の月初仕掛品の欄より差額で求める。

【参考】 ワークシートを用いた解答

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
当月投入	3,000	2,310,000	2,850	4,501,250	6,811,250
ー) 正常仕損	200	—	80	—	—
差引	2,800	2,310,000	2,770	4,501,250	6,811,250
ー) 月末仕掛品	800	660,000	560	910,000	1,570,000
差引	2,000	1,650,000	2,210	3,591,250	5,241,250
月初仕掛品	600	489,800	390	638,950	1,128,750
完成品	2,600	2,139,800	2,600	4,230,200	6,370,000

—基本問題— 10-7

① 正常仕損の負担関係



② 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
150kg	1,150 kg	90 kg	1,150 kg
1,250 kg	仕損 50 kg	(1,270 kg)	仕損 50 kg
	200 kg		160 kg

50kg × 1.0

③ 月末仕掛品と完成品原価の計算

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
150 kg	327,100 円	90 kg	286,860 円
1,250 kg	2,737,500 円	1,150 kg	(3,850,200 円)
		仕損 50 kg	
		200 kg	437,800 円
1,400 kg	3,064,600 円	1,360 kg	4,363,560 円
	@2,189 円		@3,208.5 円

貸借差額 (Direct Materials): 200kg × @2,189 円

貸借差額 (Processing Costs): 160kg × @3,208.5 円

完成品の
み負担の
ときは、当
月製造費
用から仕
損品評価
額を差し
引かない

仕損品評価額

完成品原価 2,626,800 円 - 60,000 円 + 3,850,200 円 = 6,417,000 円

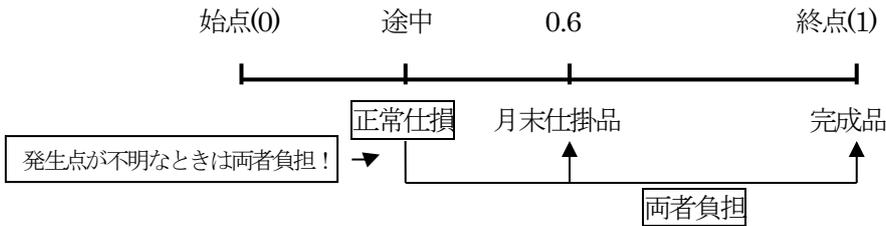
完成品単位原価 6,417,000 円 ÷ 1,150 個 = @5,580 円

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	150	327,100	90	286,860	613,960
+ 当月投入	1,250	2,737,500	1,270	4,076,700	6,814,200
合計	1,400	3,064,600	1,360	4,363,560	7,428,160
- 月末仕掛品	200	437,800	160	513,360	951,160
差引	1,200	2,626,800	1,200	3,850,200	6,477,000
正常仕損	300	60,000	300	-	-
完成品	1,200	2,566,800	1,200	3,850,200	6,417,000

◆検定対策問題◆ 6.

① 正常仕損の負担関係



② 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
600個	4,200個	480個	4,200個
4,300個	仕損 200個	(4,020個)	仕損 ?個
	500個		300個

減損の発生点が不明なため、当月分の完成品換算数量は4,200+300-480で求める

③ 月末仕掛品と完成品原価の計算

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
600個	445,400円	480個	560,400円
4,300個	3,107,800円	4,200個	(4,762,800円)
△200個		仕損 ?個	
4,100個		300個	340,200円
4,700個	3,553,200円	4,500個	5,103,000円
	@756円		@1,134円

両者負担のときは、当月投入量から減損を差し引く

貸借差額

500個×@756円

300個×@1,134円

月末仕掛品原価 378,000円 + 340,200円 = 718,200円

完成品原価 3,175,200円 ÷ 4,762,800円 = 7,938,000円

④ 完成品総合原価を各等級製品に積数の比で按分

	〈積数〉	(完成品数量 × 等価係数)
X 製品	2,940 個	840 個 × 3.5
Y 製品	2,520 個	1,260 個 × 2.0
Z 製品	2,100 個	2,100 個 × 1.0

〈等価係数の求め方〉

$$X : Y : Z = 630 : 360 : 180 = 3.5 : 2.0 : 1.0$$

〈完成品総合原価の按分〉

$$\begin{aligned} \text{X 製品} & \quad \frac{7,938,000 \text{ 円}}{2,940 \text{ 個} + 2,520 \text{ 個} + 2,100 \text{ 個}} \times 2,940 \text{ 個} = 3,087,000 \text{ 円} \\ \text{Y 製品} & \quad \frac{7,938,000 \text{ 円}}{2,940 \text{ 個} + 2,520 \text{ 個} + 2,100 \text{ 個}} \times 2,520 \text{ 個} = 2,646,000 \text{ 円} \\ \text{Z 製品} & \quad \frac{7,938,000 \text{ 円}}{2,940 \text{ 個} + 2,520 \text{ 個} + 2,100 \text{ 個}} \times 2,100 \text{ 個} = 2,205,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

⑤ 完成品単位原価の計算

$$\begin{aligned} \text{X 製品} & \quad 3,087,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 840 \text{ 個 (完成品数量)} = @3,675 \text{ 円} \\ \text{Y 製品} & \quad 2,646,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 1,260 \text{ 個 (完成品数量)} = @2,100 \text{ 円} \\ \text{Z 製品} & \quad 2,205,000 \text{ 円 (完成品原価)} \div 2,100 \text{ 個 (完成品数量)} = @1,050 \text{ 円} \end{aligned}$$

Section3 副産物

—基本問題— 10-8

① 生産データの整理

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
1,300kg	5,200 kg	650 kg	5,200 kg
5,850 kg	副産物 300	(5,510 kg)	副産物 300 kg
	1,650 kg		660 kg

300kg×100%

貸借差額

② 月末仕掛品と完成品原価の計算

仕掛品—直接材料費		仕掛品—加工費	
1,300 kg	761,800 円	650 kg	490,470 円
5,850 kg	3,299,400 円	5,510 kg	4,314,330 円
		5,200 kg	(4,290,000 円)
		副産物 300	
		1,650 kg	937,200 円
7,150 kg	4,061,200 円	660 kg	514,800 円

@568 円

1,650kg×@568 円

貸借差額

仕掛品—加工費		仕掛品—加工費	
650 kg	490,470 円	650 kg	490,470 円
5,510 kg	4,314,330 円	5,200 kg	(4,290,000 円)
		副産物 300	
		660 kg	514,800 円
6,160 kg	4,804,800 円		

@780 円

660kg×@780 円

貸借差額

完成品原価 3,124,000 円 + 4,290,000 円 - 264,000 円 = 7,150,000 円

完成品単位原価 7,150,000 円 ÷ 1,150 個 = @1,375 円

副産物評価額

【参考】ワークシートを用いて解答する方法

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	1,300	761,800	650	490,470	1,252,270
+ 当月投入	5,850	3,299,400	5,510	4,314,330	7,613,730
合計	7,150	4,061,200	6,160	4,804,800	8,866,000
- 月末仕掛品	1,650	937,200	660	514,800	1,452,000
差引	5,500	3,124,000	5,500	4,290,000	7,414,000
副産物	300	—	300	—	264,000
完成品	5,200	—	5,200	—	7,150,000

◆検定対策問題◆ 7.

① 生産データの整理

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
1,000kg	7,500 kg	750 kg	7,500 kg
8,500 kg	副産物 800 kg	(8,330 kg)	副産物 800 kg
	1,200 kg		780 kg

800kg×100%

貸借差

② 月末仕掛品と完成品原価の計算

仕掛品-直接材料費		仕掛品-加工費	
1,000 kg	493,500 円	7,500 kg	(3,884,400 円)
8,500 kg	3,952,500 円	副産物 800	
		1,200 kg	561,600 円
9,500 kg	4,446,000 円		

@468 円

1,200kg×@468 円

貸借差額

仕掛品-加工費		仕掛品-加工費	
750 kg	455,840	7,500 kg	(5,229,000 円)
8,330 kg	5,264,560	副産物 800	
		780 kg	491,400 円
9,080 kg	5,720,400 円		

@630 円

780kg×@630 円

副産物評価額

完成品原価	3,884,400 円	+	5,229,000 円	-	398,400 円	=	8,715,000 円
完成品単位原価	8,715,000 円	÷	7,500 個	=	@1,162 円		

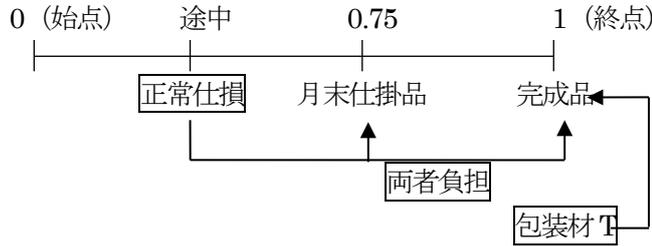
【参考】ワークシートを用いて解答する方法

摘要	直接材料費		加工費		合計
	数量	金額	換算数量	金額	
月初仕掛品	1,000	493,500	750	455,840	949,340
+) 当月投入	8,500	3,952,500	8,330	5,264,560	9,217,060
合計	9,500	4,446,000	9,080	5,720,400	10,166,400
-) 月末仕掛品	1,200	561,600	780	491,400	1,053,000
差引	8,300	3,884,400	8,300	5,229,000	9,113,400
副産物	800	-	800	-	398,400
完成品	5,200	-	5,200	-	8,715,000

Section4 材料の追加投入

—基本問題— 10-9

① 正常仕損の負担関係と包装材の扱い



② 生産データの整理

仕掛品—原料 M		仕掛品—包装材 T		仕掛品—加工費	
350 個	4,200 個	0 個	4,200 個	280 個	4,200 個
4,750 個	仕損 500	4,200 個		(4,220 個)	仕損 ? 個
	400 個		0 個		300 個

包装材 N は完成品を作るためだけに使われるので、月初仕掛品と月末仕掛品は 0 となる

仕損の発生点が不明のため、当月分加工費換算量は $4,200 + 300 - 280$ で求める

③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—

		仕掛品—原料 M		貸借差額	
両者負担のときは、当月投入量から仕損を差し引く	— 350 個	211,750 円			
	4,750 個	2,673,250 円	4,200 個		
	Δ 500 個		仕損 500 個		
	4,250 個	Δ 0 円	400 個	251,600 円	
		@629 円		400 個 × @629 円	

		仕掛品—包装材 T	
	0 円	4,200 個	336,000 円
4,200 個	336,000 円		0 円

		仕掛品—加工費		貸借差額	
	280 個	277,480 円			
	4,220 個	4,055,420 円	4,200 個		
			仕損 ? 個		
		@961 円	300 個	288,300 円	
				300 個 × @961 円	

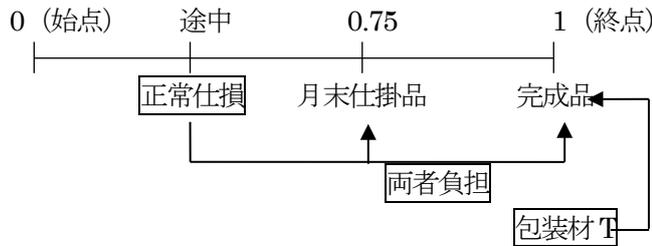
完成品原価 2,633,400円 + 336,000円 + 4,044,600円 = 7,014,000円
 完成品単価原価 7,014,000円 ÷ 4,200個 = @1,670円

【参考】 ワークシートを用いた解答

摘要	原料K		包装材N	加工費	金額	合計
	数量	金額	金額	換算数量		
当月投入	4,750	2,673,250	336,000	4,220	4,055,420	7,064,670
ー) 正常仕損	500	—	—	—	—	—
差引	4,250	2,673,250	336,000	4,220	4,055,420	7,064,670
ー) 月末仕掛品	400	251,600	—	300	288,300	539,900
差引	3,850	2,421,650	336,000	3,920	3,767,120	6,524,770
月初仕掛品	350	211,750	—	280	277,480	489,230
完成品	4,200	2,633,400	336,000	4,200	4,044,600	7,014,000

◆検定対策問題◆ 8.

① 正常仕損の負担関係と包装材の扱い



② 生産データの整理

1,600個	10,600個
12,000個	仕損 1,000
	2,000個

0個	10,600個
10,600個	0個

1,280個	10,600個
(11,720個)	仕損 1,000
	1,400個

包装材Mは完成品を作るためだけに使われるので、月初仕掛品と月末仕掛品は0となる

貸借差額

③ 月末仕掛品・完成品原価の計算—先入先出法—

仕掛品-原料N		貸借差額
1,600個	427,700円	2,000個 × @280
12,000個	*3,360,000円	
	@280円	
	10,600個	
	仕損 1,000個	
	2,000個	560,000円

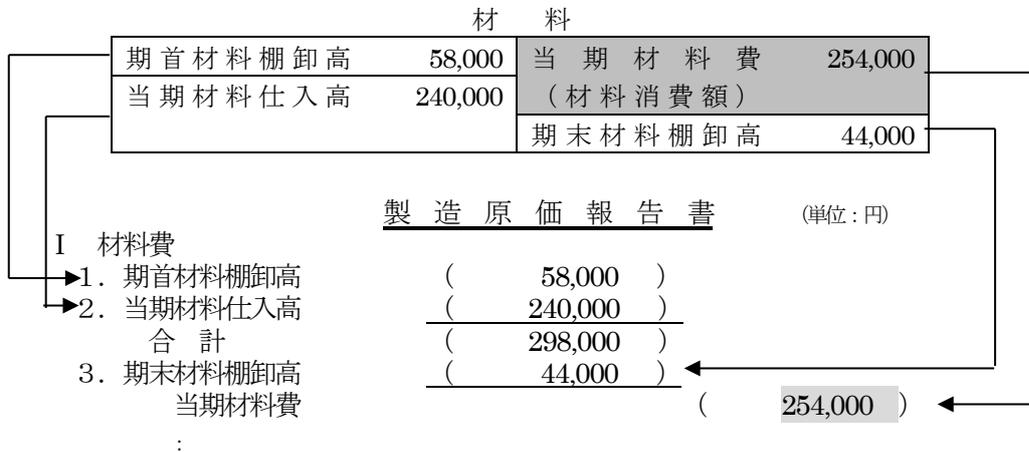
完成品のみ負担のときは、当月投入量から仕損を差し引かない

Chapter11 製造業の財務諸表

Section2 製造業の財務諸表

—基本問題— 11-1

(1) 材料勘定と製造原価報告書の関係は、次のとおりである。



(2) 外注加工賃の計算

$$\text{外注加工賃} = 32,000 \text{円} - \frac{8,000 \text{円}}{\text{前期末払高}} - \frac{6,000 \text{円}}{\text{当期前払高}} = 18,000 \text{円}$$

(3) 当月総製造費用の計算

$$\text{当月総製造費用} = \frac{254,000 \text{円}}{\text{当期材料費}} + \frac{437,000 \text{円}}{\text{当期労務費}} + \frac{133,000 \text{円}}{\text{当期経費}} = 824,000 \text{円}$$

(4) 当期製品製造原価の計算

$$\text{当期製品製造原価} = \frac{824,000 \text{円}}{\text{当期総製造費用}} + \frac{80,000 \text{円}}{\text{期首仕掛品原価}} - \frac{45,000 \text{円}}{\text{期末仕掛品原価}} = 859,000 \text{円}$$

—基本問題— 11-2

(1) 補助材料費の消費額の計算

$$\frac{35,000 \text{円}}{\text{期首有高}} + \frac{80,000 \text{円}}{\text{当期仕入高}} - \frac{20,000 \text{円}}{\text{期末有高}} = 95,000 \text{円}$$

(2) 製造間接費予定配賦額および実際発生額の計算

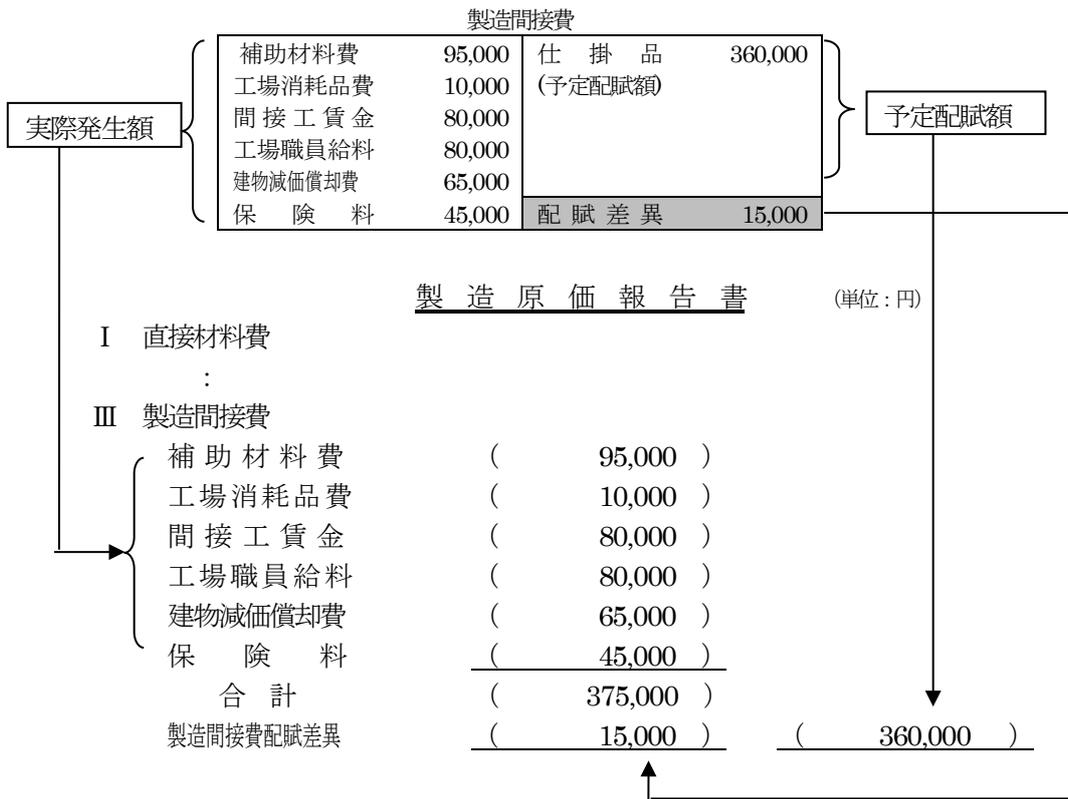
$$\text{予定配賦額} = \frac{240,000 \text{円}}{\text{直接労務費}} \times 150\% = 360,000 \text{円}$$

$$\begin{aligned} \text{実際発生額} &= \frac{95,000 \text{円}}{\text{補助材料費}} + \frac{10,000 \text{円}}{\text{工場消耗品費}} + \frac{80,000 \text{円}}{\text{間接工賃金}} + \frac{80,000 \text{円}}{\text{工場職員給料}} + \frac{65,000 \text{円}}{\text{建物減価償却費}} + \frac{45,000 \text{円}}{\text{保険料}} \\ &= 375,000 \text{円} \end{aligned}$$

(3) 製造間接費配賦差異の計算

$$\begin{aligned} \text{製造間接費配賦差異} &= \frac{360,000 \text{円}}{\text{予定配賦額}} - \frac{375,000 \text{円}}{\text{実際発生額}} \\ &= -15,000 \text{円 (借方差異)} \end{aligned}$$

(4) 製造間接費(勘定)と製造原価報告書の関係は、次のとおりである。



—基本問題— 11-3

(1) 直接労務費の計算

直接労務費：460,000円 - 170,000円 + 124,000円 = 414,000円

(2) 製造間接費配賦差異の計算

製造間接費実際発生額：90,000円 + 102,000円 + 130,000円 = 322,000円

製造間接費配賦差異：330,000円 - 322,000円 = 8,000円 (貸方差異)

(3) 製造原価報告書と損益計算書における原価差異の処理

製造原価配賦差異 (8,000円) が貸方差異であるため、製造原価報告書の製造間接費合計額 (実際発生額) には加算し、損益計算書の売上原価差引額 (予定配賦額で計算されている) からは減算する。

		製造間接費						
実際発生額	通信交通費	90,000	仕掛品	330,000	予定配賦額			
	保険料	102,000	(予定配賦額)					
	減価償却費	130,000						
	配賦差異	8,000						
<u>製造原価報告書</u> (単位:円)								
I 直接材料費								
⋮								
III 製造間接費								
通信交通費	(90,000)					
保険料	(102,000)					
減価償却費	(130,000)					
合計	(322,000)					
加算	→	製造間接費配賦差異	(8,000)	(330,000)
<u>損益計算書</u> (単位:円)								
I 売上高			(1,500,000)			
II 売上原価								
期首製品棚卸高	(136,000)					
当期製品製造原価	(1,272,000)					
合計	(1,408,000)					
期末製品棚卸高	(110,000)					
差引	(1,298,000)					
減算	→	原価差異	(8,000)	(1,290,000)

◆検定対策問題◆ 1.

(1) 直接材料費（素材と部品の消費額）の計算

$$\text{直接材料費} = 780,000 \text{円} + 180,000 \text{円} + 4,200,000 \text{円} + 816,000 \text{円} - (960,000 \text{円} + 216,000 \text{円}) = 4,800,000 \text{円}$$

(2) 直接労務費の計算

$$\text{直接労務費} = 2,580,000 \text{円} - 820,000 \text{円} + 840,000 \text{円} = 2,600,000 \text{円}$$

(3) 製造間接費の計算

① 実際発生額の計算

間接材料費（補修用材料と燃料の消費額）：

$$55,000 \text{円} + 60,000 \text{円} + 96,000 \text{円} + 250,000 \text{円} - (78,000 \text{円} + 96,000 \text{円}) = 287,000 \text{円}$$

$$\text{間接労務費} = 600,000 \text{円} - 204,000 \text{円} + 168,000 \text{円} = 564,000 \text{円}$$

電力料金：279,000円

保険料：180,000円

減価償却費：480,000円

水道光熱費：180,000円

$$\text{実際発生額} = 287,000 \text{円} + 564,000 \text{円} + 279,000 \text{円} + 180,000 \text{円} + 480,000 \text{円} + 180,000 \text{円} = 1,970,000 \text{円}$$

② 予定配賦額の計算

$$4,800,000 \text{円} (\text{直接材料費}) \times 40\% (\text{配賦率}) = 1,920,000 \text{円}$$

(4) 製造間接費配賦差異の計算

$$\text{製造間接費配賦差異} = 1,920,000 \text{円} - 1,970,000 \text{円} = -50,000 \text{円} (\text{借方差異})$$

差異が借方差異のため、製造原価報告書の製造間接費合計額から減算し、損益計算書では加算する。

◆検定対策問題◆ 2.

本問を解くためには、各費目を製造原価、販売費、一般管理費に正確に分類することが重要である。

(1) 製造原価の計算

①直接材料費 (素材の消費額) : $1,240 \text{ 万円} + 5,020 \text{ 万円} - 1,540 \text{ 万円} = 4,720 \text{ 万円}$

②直接労務費 (直接工の消費額) : $4,150 \text{ 万円} - 1,340 \text{ 万円} + 1,280 \text{ 万円} = 4,090 \text{ 万円}$

③製造間接費 (()の番号は資料番号)

補助材料(1) : $80 \text{ 万円} + 540 \text{ 万円} - 90 \text{ 万円} = 530 \text{ 万円}$

間接工賃金(2) : $450 \text{ 万円} - 140 \text{ 万円} + 130 \text{ 万円} = 440 \text{ 万円}$

工場建物減価償却費(3) : 520 万円

工員募集費(4) : 115 万円

工場消耗品費(5) : 250 万円

工場職員給料(7) : 540 万円

工員用社宅など福利施設負担額(10) : 115 万円

消耗工具器具備品費(12) : 215 万円

工場従業員厚生費(13) : 200 万円

工場機械の減価償却費(20) : 410 万円

工場の光熱費(21) : 185 万円

工場固定資産税(22) : 40 万円

工場の通信交通費(23) : 85 万円

合計 : 3,645 万円

④製造間接費配賦差異の計算

製造間接費配賦差異 : $\frac{3,600 \text{ 万円}}{\text{予定配賦額}} - \frac{3,645 \text{ 万円}}{\text{実際発生額}} = -45 \text{ 万円 (借方差異)}$

⑤当期製品製造原価 (完成品原価) の計算

当期製品製造原価

= 期首仕掛品原価 + 当期総製造費用 - 期末仕掛品原価

= $750 \text{ 万円} + \frac{4,720 \text{ 万円}}{\text{直接材料費}} + \frac{4,090 \text{ 万円}}{\text{直接労務費}} + \frac{3,600 \text{ 万円}}{\text{予定配賦額}} - 830 \text{ 万円} = 12,330 \text{ 万円}$

(2) 販売費の計算 (()の番号は資料番号)

広告費(11) : 400 万円

掛売集金費(15) : 45 万円

販売員手数料(16) : 120 万円

営業所職員給料(17) : 230 万円

営業所建物の減価償却費(18) : 280 万円

その他の販売費(25) : 25 万円

合計 : 1,100 万円

(3) 一般管理費の計算 (()の番号は資料番号)

本社企画部費(8) : 180 万円

重役室費(9) : 85 万円

本社役員給料(14) : 120 万円

本社職員給料(19) : 255 万円

本社建物の減価償却費(24) : 280 万円

その他の一般管理費(26) : 50 万円

合計 : 970 万円

なお、損益計算書に販売費の合計額 (1,100 万円) が示されているので、製造原価以外の費目の合計額から 1,100 万円を差し引くことにより一般管理費を求めることもできる。

◆検定対策問題◆ 3.

本問を解くためには、総勘定元帳の各勘定の不明な金額（?の金額）を算定する必要がある。

(1) 材料勘定

$$\text{当期消費高} : \frac{780,000 \text{ 円}}{\text{借方合計額}} - \frac{90,000 \text{ 円}}{\text{期末有高}} = 690,000 \text{ 円}$$

(2) 賃金勘定

$$\text{当期消費高} : \frac{1,245,000 \text{ 円}}{\text{借方合計額}} - \left(\frac{285,000 \text{ 円}}{\text{期首未払高}} + \frac{15,000 \text{ 円}}{\text{貸率差異}} \right) = 945,000 \text{ 円}$$

(3) 製造間接費勘定

$$\text{予定配賦額} : \frac{862,500 \text{ 円}}{\text{借方合計額}} - \frac{7,500 \text{ 円}}{\text{配賦差異}} = 855,000 \text{ 円}$$

(4) 仕掛品勘定

$$\text{直接材料費} : \frac{690,000 \text{ 円}}{\text{当期消費高}} - \frac{270,000 \text{ 円}}{\text{間接材料費}} = 420,000 \text{ 円}$$

$$\text{直接労務費} : \frac{945,000 \text{ 円}}{\text{当期消費高}} - \frac{225,000 \text{ 円}}{\text{間接労務費}} = 720,000 \text{ 円}$$

$$\text{製造間接費} : 855,000 \text{ 円 (予定配賦額)}$$

$$\text{当期完成高} : \frac{2,175,000 \text{ 円}}{\text{借方合計額}} - \frac{255,000 \text{ 円}}{\text{期末有高}} = 1,920,000 \text{ 円} \quad \rightarrow \text{損益計算書の当期製品製造原価の金額}$$

(5) 製品勘定

$$\text{当期完成高} : 1,920,000 \text{ 円 (仕掛品勘定より)}$$

$$\text{売上原価} : \frac{2,040,000 \text{ 円}}{\text{借方合計額}} - \frac{90,000 \text{ 円}}{\text{期末有高}} = 1,950,000 \text{ 円}$$

(6) 売上原価勘定

$$\text{製品} : 1,950,000 \text{ 円 (製品勘定より)}$$

$$\text{原価差異} : \frac{15,000 \text{ 円}}{\text{貸率差異}} + \frac{7,500 \text{ 円}}{\text{配賦差異}} = 22,500 \text{ 円} \quad \rightarrow \text{借方差異のため損益計算書では加算}$$

$$\text{損益} : 1,950,000 \text{ 円} + 22,500 \text{ 円} = 1,972,500 \text{ 円}$$

(7) 損益勘定

$$\text{売上原価} : 1,972,500 \text{ 円 (売上原価勘定より)}$$

損益勘定の不明な項目は、売上高から売上原価、販売費、一般管理費を控除して算定される利益、つまり営業利益である。

なお、損益計算書の販売費及び一般管理費の金額は、損益勘定の販売費（262,500円）と一般管理費（292,500円）の合計額である。

Chapter 12 標準原価計算

Section 4 原価差異の計算と分析

—基本問題— 12-1

① 生産データの整理

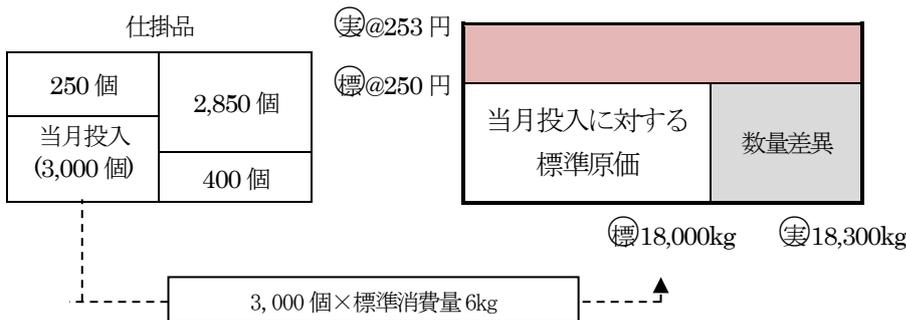
仕掛品		
200 個	(120 個)	1,700 個
1,800 個	(1,820 個)	
		300 個 (240 個)

② 原価の計算

・完成品原価	1,700 個	×	3,750 円	=	6,375,000 円
・月末仕掛品原価					
直接材料費	300 個	×	1,500 円	=	450,000 円
直接労務費	240 個	×	1,350 円	=	324,000 円
製造間接費	240 個	×	900 円	=	216,000 円
					990,000 円
・月初仕掛品原価					
直接材料費	200 個	×	1,500 円	=	300,000 円
直接労務費	120 個	×	1,350 円	=	162,000 円
製造間接費	120 個	×	900 円	=	108,000 円
					570,000 円

—基本問題— 12-2

① 生産データの整理

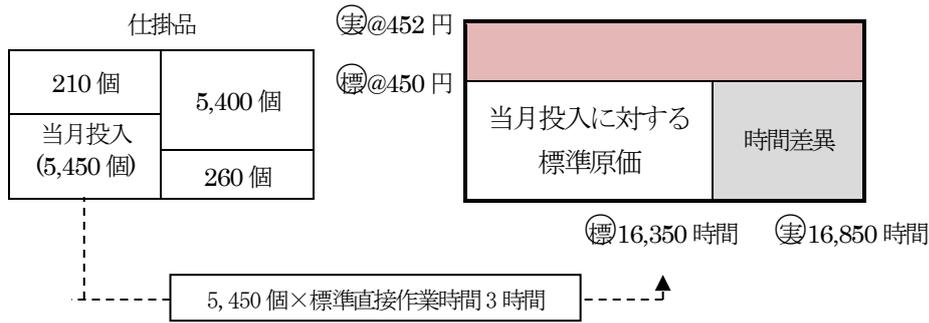


② 差異の計算

	標準直接材料費	実際直接材料費	
直接材料費差異	$(18,000\text{kg} \times 250 \text{ 円})$	$(18,300\text{kg} \times 253 \text{ 円})$	$= -129,900 \text{ 円 (借方差異)}$
材料価格差異	$(250 \text{ 円} - 253 \text{ 円}) \times 18,300\text{kg}$		$= -54,900 \text{ 円 (借方差異)}$
材料数量差異	$(18,000\text{kg} - 18,300\text{kg}) \times 250 \text{ 円}$		$= -75,000 \text{ 円 (借方差異)}$

—基本問題— 12-3

① 生産データの整理



② 差異の計算

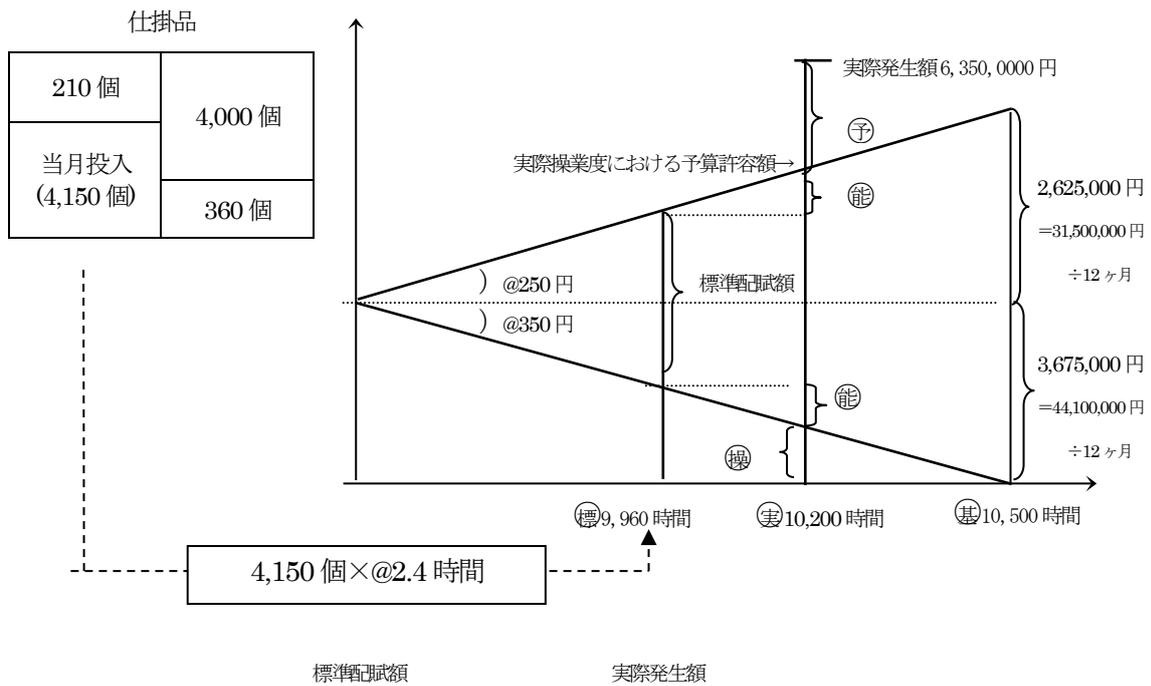
標準直接労務費 実際直接労務費

直接労務費差異 (16,350 時間 × 450 円) - (16,850 時間 × 452 円) = -258,700 円 (借方差異)

賃率差異 (450 円 - 452 円) × 16,850 時間 = -33,700 円 (借方差異)

時間差異 (16,350 時間 - 16,850 時間) × 450 円 = -225,000 円 (借方差異)

—基本問題— 12-4



製造間接費差異 (9,960 時間 × (@250 円 + @350 円)) - 6,350,000 円 = -374,000 円 (借方差異)

【3分法】

予算許容額 実際発生額

予算差異 (10,200 時間 × @250 円 + 3,675,000 円) - 6,350,000 円 = -125,000 円 (借方差異)

実際操業度 基準操業度 固定費率

操業度差異 (10,200 時間 - 10,500 時間) × @350 円 = -105,000 円 (借方差異)

標準操業度 実際操業度 標準原価率

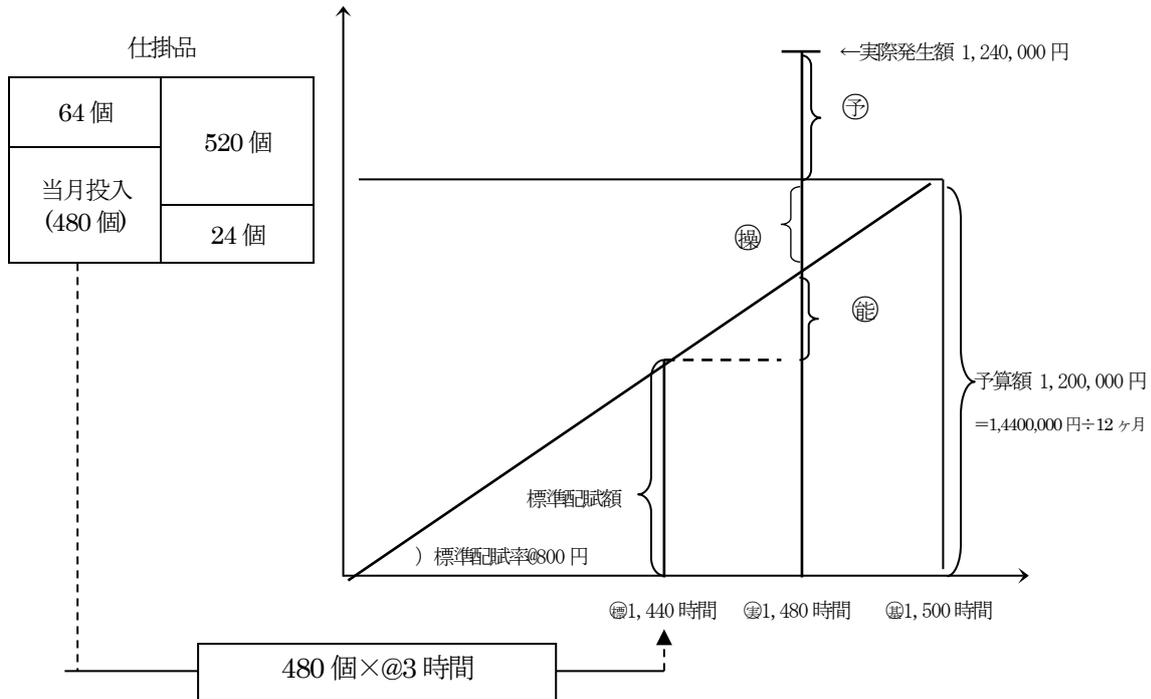
能率差異 (9,960 時間 - 10,200 時間) × @600 円 = -144,000 円 (借方差異)

【4分法】

$$\begin{array}{l} \text{標準操業度} \quad \text{実際操業度} \quad \text{変動費率} \\ \text{変動費能率差異} (9,960 \text{ 時間} - 10,200 \text{ 時間}) \times @250 \text{ 円} = -60,000 \text{ 円 (借方差異)} \\ \text{標準操業度} \quad \text{実際操業度} \quad \text{固定費率} \\ \text{固定費能率差異} (9,960 \text{ 時間} - 10,200 \text{ 時間}) \times @350 \text{ 円} = -84,000 \text{ 円 (借方差異)} \end{array}$$

—基本問題— 12-5

製造間接費予算額 (月間) = 14,400,000 円 ÷ 12 ヶ月 = 1,200,000 円 / 月
 標準配賦率 = 14,400,000 円 ÷ 18,000 時間 = @800 円



$$\begin{array}{l} \text{標準配賦額} \quad \text{実際発生額} \\ \text{製造間接費差異} 1,440 \text{ 時間} \times @800 \text{ 円} - 1,240,000 \text{ 円} = -88,000 \text{ 円 (借方差異)} \\ \text{予算額} \quad \text{実際発生額} \\ \text{予算差異} 1,200,000 \text{ 円} - 1,240,000 \text{ 円} = -40,000 \text{ 円 (借方差異)} \\ \text{実際操業度} \quad \text{基準操業度} \quad \text{標準配賦率} \\ \text{操業度差異} (1,480 \text{ 時間} - 1,500 \text{ 時間}) \times @800 \text{ 円} = -16,000 \text{ 円 (借方差異)} \\ \text{標準操業度} \quad \text{実際操業度} \quad \text{標準配賦率} \\ \text{能率差異} (1,440 \text{ 時間} - 1,480 \text{ 時間}) \times @800 \text{ 円} = -32,000 \text{ 円 (借方差異)} \end{array}$$

(2) 標準製造原価等

完成品の標準製造原価	500 個	×	70,000 円	=	35,000,000 円
月末仕掛品原価					
直接材料費	100 個	×	30,000 円	=	3,000,000 円
直接労務費	50 個	×	24,000 円	=	1,200,000 円
製造間接費	50 個	×	16,000 円	=	800,000 円
					5,000,000 円
当月標準製造原価					40,000,000 円
直接材料費	600 個	×	30,000 円	=	18,000,000 円
直接労務費	550 個	×	24,000 円	=	13,200,000 円
製造間接費	550 個	×	16,000 円	=	8,800,000 円
					40,000,000 円

(3) 直接材料費差異



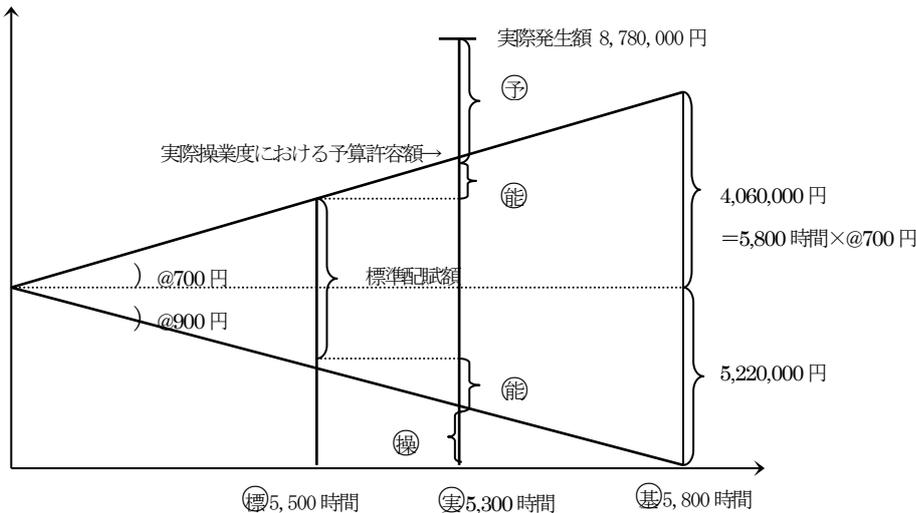
- ① 標準消費数量 25kg×600 個 (※1) =15,000kg
- ② 実際消費数量 <資料>3. (1) 払出高
- ③ 価格差異 (@1,200 円-@1,180 円) ×15,200kg=304,000 円 (貸方差異)
- ④ 数量差異 (15,000kg-15,200kg) ×@1,200 円=-240,000 円 (借方差異)

(4) 直接労務費差異



- ① 標準作業時間 10 時間×550 個 (※2) =5,500 時間
- ② 実際作業時間 <資料>3. (2) 直接作業時間
 実際賃率 <資料>3. (2) 支給高÷作業時間=12,985,000÷5,300 時間=@2,450 円
- ③ 賃率差異 (@2,400 円-@2,450 円) ×5,300 時間=-265,000 円 (借方差異)
- ④ 時間差異 (5,500 時間-5,300 時間) ×@2,400 円=480,000 円 (貸方差異)

(5) 製造間接費差異



- ① 固定費率 標準配賦率-変動費率=@1,600円-@700円=@900円
- ② 基準操業度 固定費月間予算÷固定費率=5,220,000円÷@900円=5,800時間
- ③ 予算差異 (5,300時間×@700円+5,220,000円)-8,780,000円=150,000円 (貸方差異)
- ④ 能率差異 (5,500時間-5,300時間) ×@1,600円=320,000円 (貸方差異)
- ⑤ 操業度差異 (5,300時間-5,800時間) ×@900円=-450,000円 (借方差異)

◆検定対策問題◆ 3.

(1) 生産データの整理

		仕掛品	
40個	(40個)	830個	
*1810個	*2(810個)	20個 (20個)	

(注) 直接材料は製造の進行に伴い順次投入されていくため、進捗度を加味した数量とする。

(2) 標準製造原価等

完成品の標準製造原価	830個 × 20,200円 =	16,766,000円
月末仕掛品原価		
直接材料費	20個 × 9,000円 =	180,000円
直接労務費	20個 × 6,400円 =	128,000円
製造間接費	20個 × 4,800円 =	96,000円
		404,000円

(3) 直接材料費差異

⑤@615円		
④@600円	当月投入に対する 標準原価	数量差異
	④12,150kg	⑤11,800kg

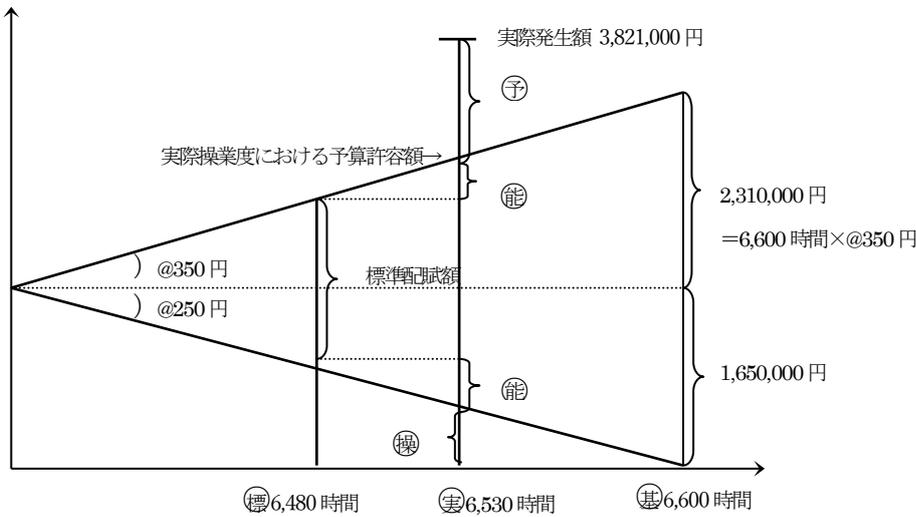
- ① 標準消費数量 15kg×810個 (※1) =12,150kg
- ② 実際消費数量 <資料>3. (1) 消費額÷単価=7,257,000円÷@615円=11,800kg
- ③ 数量差異 (12,150kg-11,800kg) ×@600円=210,000円 (貸方差異)

(4) 直接労務費差異



- ① 標準作業時間 8時間×810個(※2) = 6,480時間
- ② 実際作業時間 <資料>3. (2) 消費額÷単価 = 5,256,650円 ÷ @805円 = 6,530時間
- ③ 賃率差異 (@800円 - @805円) × 6,530時間 = -32,650円 (借方差異)
- ④ 時間差異 (6,480時間 - 6,530時間) × @800円 = -40,000円 (借方差異)

(5) 製造間接費差異



- ① 固定費率 標準配賦率 - 変動費率 = @600円 - @350円 = @250円
- ② 基準操業度 固定費月間予算 ÷ 固定費率 = 1,650,000円 ÷ @250円 = 6,600時間
- ③ 予算差異 (6,530時間 × @350円 + 1,650,000円) - 3,821,000円 = 114,500円 (貸方差異)
- ④ 能率差異 (6,480時間 - 6,530時間) × @600円 = -30,000円 (借方差異)
- ⑤ 操業度差異 (6,530時間 - 6,600時間) × @250円 = -17,500円 (借方差異)

Section5 標準原価計算の記帳と財務諸表

—基本問題— 12-6

(1) 生産データの整理

仕掛品	
250個 (200個)	2,500個
※1 2,600個 ※2 (2,510個)	350個 (210個)

—基本問題— 12-7

(1) 生産データの整理

仕掛品	
250個 (200個)	2,500個
*1 2,600個 *2 (2,510個)	350個 (210個)

(2) 原価要素の勘定

シングル・プランで記入するため、仕掛品への振替額を標準原価で記入し、それ以外は実際原価で記入する。その結果、貸借差額が原価差異となる。

		材 料		(単位：円)	
実際原価	}	前月繰越	63,000	仕掛品 (*1 1,560,000)	標準原価
		当月購入	1,550,000	次月繰越	118,400
貸借差額	}	(原価差異)	(65,400)		
			(16,78,400)		(1,678,400)
※1 2,600個×@600円					

		賃 金		(単位：円)	
実際原価	}	実際支給額	8,302,200	仕掛品 (*2 28,032,000)	標準原価
				(原価差異)	(270,200)
			8,302,200		8,302,200
※2 2,510個×@3,200円					

		製造間接費		(単位：円)	
実際原価	}	実際発生額	5,970,000	仕掛品 (*3 5,622,400)	標準原価
				(原価差異)	(347,600)
			5,970,000		5,970,000
※3 2,510個×@2,240円					

(3) 仕掛品勘定

シングル・プランで記入するため、すべて標準原価で記入する

		仕 掛 品		(単位：円)	
標準原価	}	前月繰越 (1,238,000)	製 品 (15,100,000)		標準原価
		材 料 (1,560,000)	次月繰越 (1,352,400)		
		賃 金 (8,032,000)			
		製造間接費 (5,622,400)			
		(16,452,400)		(16,452,400)	

完成品の標準製造原価	2,500個	×	6,040円	=	15,100,000円
月末仕掛品原価					
直接材料費	350個	×	600円	=	210,000円
直接労務費	210個	×	3,200円	=	672,000円
製造間接費	210個	×	2,240円	=	470,400円
					1,352,400円
月初仕掛品原価					
直接材料費	250個	×	600円	=	150,000円
直接労務費	200個	×	3,200円	=	640,000円
製造間接費	200個	×	2,240円	=	448,000円
					1,238,000円

(4) 原価差異

原価要素の勘定で計算された原価差異が振り替えられてくる。

(5) 製品勘定

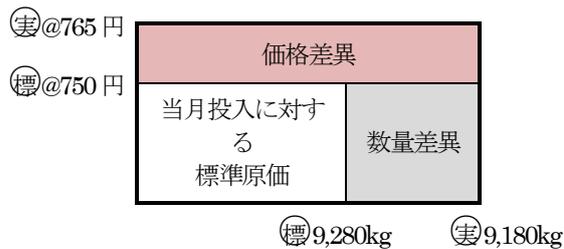
すべて標準原価で記入する。

—基本問題— 12-8

(1) 生産データの整理

仕掛品				製品	
130個	(104個)	1,200個		160個	1,160個
※1,160個	※2(1,150個)	90個 (54個)		1,200個	200個

(2) 直接材料費差異



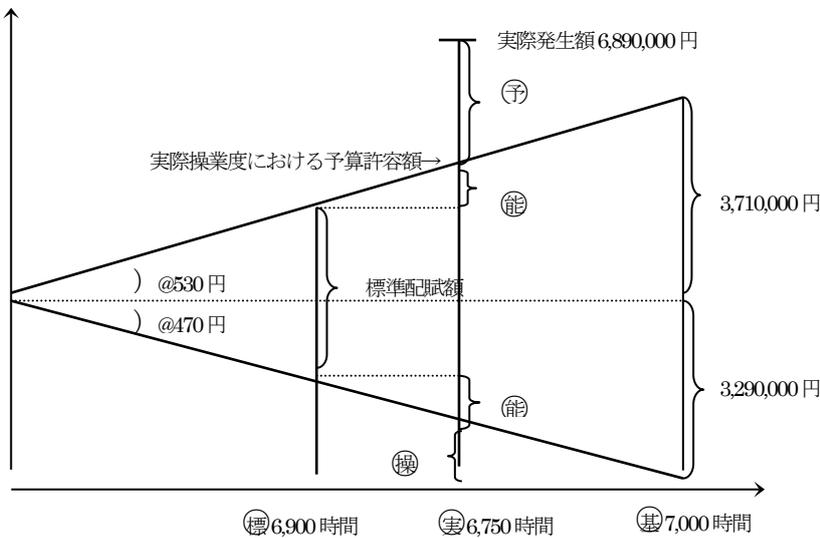
- ① 標準消費数量 8kg×1,160個 (※1) =9,280kg
- ② 実際消費数量 <資料>3. (1) より
- ③ 価格差異 (@750円-@765円) ×9,180kg=-137,700円(借方差異)
- ④ 数量差異 (9,280kg-9,180kg) ×@750円=75,000円 (貸方差異)

(3) 直接労務費差異



- ① 標準作業時間 6時間×1,150個(※2) = 6,900時間
- ② 実際作業時間 <資料>3. (2) より
- ③ 賃率差異 (@800円 - @820円) × 6,750時間 = -135,000円 (借方差異)
- ④ 時間差異 (6,900時間 - 6,750時間) × @800円 = 120,000円 (貸方差異)

(4) 製造間接費差異



- ① 基準操業度 <資料>4. より 7,000時間
- ② 変動費率 変動費予算 ÷ 基準操業度 = 3,710,000円 ÷ 7,000時間 = @530円
固定費率 固定費予算 ÷ 基準操業度 = 3,290,000円 ÷ 7,000時間 = @470円
- ③ 予算差異 (6,750時間 × @530円 + 3,290,000円) - 6,890,000円 = -22,500円 (借方差異)
- ④ 能率差異 (6,900時間 - 6,750時間) × @1,000円 = 150,000円 (貸方差異)
- ⑤ 操業度差異 (6,750時間 - 7,000時間) × @470円 = -117,500円 (借方差異)

(5) 損益計算書項目の計算

① 売上高	1,160個	×	@25,000円	=	29,000,000円
② 月初製品棚卸高	160個	×	@16,800円	=	2,688,000円
③ 当月製品製造原価	1,200個	×	@16,800円	=	20,160,000円
④ 月末製品棚卸高	200個	×	@16,800円	=	3,360,000円

◆検定対策問題◆ 4.

(1) 生産データの整理

		仕掛品	
180個	(90個)	1,530個	
1,600個	(1,640個)	250個 (200個)	

(2) 仕掛品勘定

完成品・月初仕掛品・月末仕掛品原価は標準原価による。

完成品の標準製造原価 $1,530 \text{ 個} \times 5,230 \text{ 円} = 8,001,900 \text{ 円}$

月末仕掛品原価

直接材料費 $250 \text{ 個} \times 1,750 \text{ 円} = 437,500 \text{ 円}$

直接労務費 $200 \text{ 個} \times 1,680 \text{ 円} = 336,000 \text{ 円}$

製造間接費 $200 \text{ 個} \times 1,800 \text{ 円} = 360,000 \text{ 円}$

1,133,500 円

月初仕掛品原価

直接材料費 $180 \text{ 個} \times 1,750 \text{ 円} = 315,000 \text{ 円}$

直接労務費 $90 \text{ 個} \times 1,680 \text{ 円} = 151,200 \text{ 円}$

製造間接費 $90 \text{ 個} \times 1,800 \text{ 円} = 162,000 \text{ 円}$

628,200 円

パーシャルプランによって記入するため、仕掛品勘定借方の実際原価（直接材料費、直接労務費、製造間接費）は実際発生額を記入する。

(3) 原価差異の計算

原価要素ごとに、標準原価と実際原価を比較する。

標準直接材料費 実際直接材料費

直接材料費差異 $(1,600 \text{ 個} \times @1,750 \text{ 円}) - 2,756,160 \text{ 円} = 43,840 \text{ 円}$ (貸方差異)

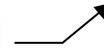
標準直接労務費 実際直接労務費

直接労務費差異 $(1,640 \text{ 個} \times @1,680 \text{ 円}) - 2,805,000 \text{ 円} = -49,800 \text{ 円}$ (借方差異)

標準製造間接費 実際製造間接費

直接労務費差異 $(1,640 \text{ 個} \times @1,800 \text{ 円}) - 3,015,000 \text{ 円} = -63,000 \text{ 円}$ (借方差異)

借方差異であれば、その原価
差異の勘定の借方に転記され



◆検定対策問題◆ 5.

(1) 生産データの整理

		仕掛品	
220個	(110個)	2,000個	
2,130個	(2,030個)	350個 (140個)	

(2) 仕掛品勘定

シングル・プランで記入するため、仕掛品勘定はすべて標準原価による。

完成品の標準製造原価	2,000 個	×	7,640 円	=	15,280,000 円
月末仕掛品原価					
直接材料費	350 個	×	2,280 円	=	798,000 円
直接労務費	140 個	×	2,560 円	=	358,400 円
製造間接費	140 個	×	2,800 円	=	392,000 円
					1,548,400 円
月初仕掛品原価					
直接材料費	220 個	×	2,280 円	=	501,600 円
直接労務費	110 個	×	2,560 円	=	281,600 円
製造間接費	110 個	×	2,800 円	=	308,000 円
					1,091,200 円
当月標準製造原価					
直接材料費	2,130 個	×	2,280 円	=	4,856,400 円
直接労務費	2,030 個	×	2,560 円	=	5,196,800 円
製造間接費	2,030 個	×	2,800 円	=	5,684,000 円
					15,737,200 円

(3) 原価差異の計算

原価要素ごとに、標準原価と実際原価を比較する。

標準直接材料費	実際直接材料費	
直接材料費差異 (2,130 個 × @2,280 円)	4,947,250 円	= -90,850 円 (借方差異)
標準直接労務費	実際直接労務費	
直接労務費差異 (2,030 個 × @2,560 円)	5,168,100 円	= 28,700 円 (貸方差異)
標準製造間接費	実際製造間接費	
製造間接費差異 (2,030 個 × @2,800 円)	5,615,000 円	= 69,000 円 (貸方差異)

借方差異であれば、その原価差異の勘定の借方に転記される

シングル・プランでは各原価要素の借方に実際原価、貸方に標準原価が記入され、そこで原価差異が計算される。したがって、各原価要素の勘定から原価差異勘定へ振り替えられる。

◆検定対策問題◆ 6.

(1) 生産データの整理

仕掛品			
280 個	(140 個)		
		2,600 個	
2,720 個	(2,700 個)		
		400 個 (240 個)	

(2) 仕掛品勘定

完成品・月初仕掛品・月末仕掛品原価は標準原価による。

完成品の標準製造原価	2,600 個	×	5,700 円	=	14,820,000 円
月末仕掛品原価					
直接材料費	400 個	×	1,920 円	=	768,000 円
直接労務費	240 個	×	1,820 円	=	436,800 円
製造間接費	240 個	×	1,960 円	=	470,400 円
					1,675,200 円
月初仕掛品原価					
直接材料費	280 個	×	1,920 円	=	537,600 円
直接労務費	140 個	×	1,820 円	=	254,800 円
製造間接費	140 個	×	1,960 円	=	274,400 円
					1,066,800 円

パーシャル・プランで記入するため、仕掛品勘定借方の実際原価（直接材料費、直接労務費、製造間接費）は実際発生額を記入する。その結果、仕掛品勘定の貸借差額が原価差異となる。

(3) 損益計算書項目の計算

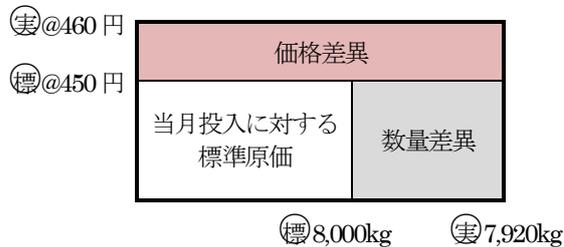
① 売上高	2,640 個	×	@9,200 円	=	24,288,000 円
② 月初製品棚卸高	320 個	×	@5,700 円	=	1,824,000 円
③ 当月製品製造原価	2,600 個	×	@5,700 円	=	14,820,000 円
④ 月末製品棚卸高	280 個	×	@5,700 円	=	1,596,000 円

◆検定対策問題◆ 7.

(1) 生産データの整理

仕掛品			製品	
200 個	(120 個)	1,900 個	250 個	1,950 個
※1 2,000 個	※2 (1,930 個)	300 個 (150 個)	1,900 個	200 個

(2) 直接材料費差異



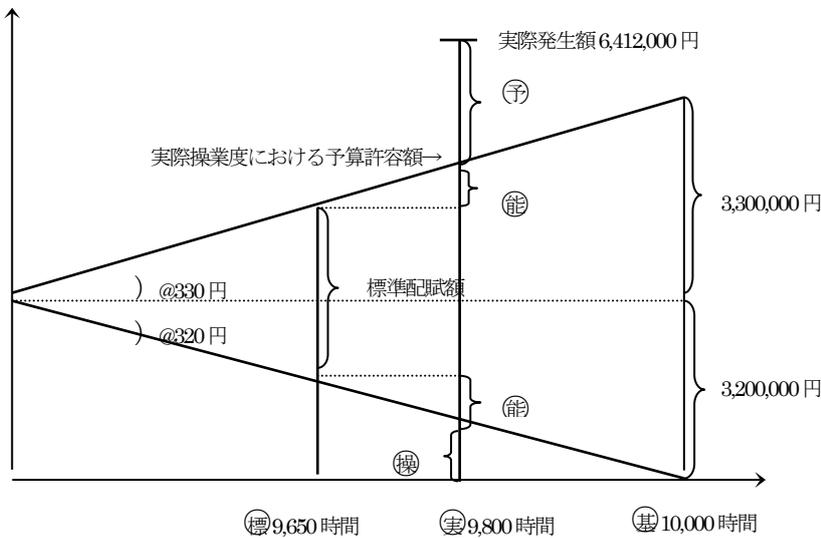
- ① 標準消費数量 4kg×2,000 個 (※1) = 8,000kg
- ② 実際消費数量 <資料>3. (1) より
- ③ 価格差異 (@450 円 - @460 円) × 7,920kg = -79,200 円 (借方差異)
- ④ 数量差異 (8,000kg - 7,920kg) × @450 円 = 36,000 円 (貸方差異)

(3) 直接労務費差異



- ① 標準作業時間 5時間×1,930個(※2) = 9,650時間
- ② 実際作業時間 <資料>3. (2) より
- ③ 賃率差異 (@780円 - @765円) × 9,800時間 = 147,000円 (貸方差異)
- ④ 時間差異 (9,650時間 - 9,800時間) × @780円 = -117,000円 (借方差異)

(4) 製造間接費差異



- ① 基準操業度 <資料>4. より 10,000時間
- ② 変動費率 変動費予算 ÷ 基準操業度 = 3,300,000円 ÷ 10,000時間 = @330円
 固定費率 固定費予算 ÷ 基準操業度 = 3,200,000円 ÷ 10,000時間 = @320円
- ③ 予算差異 (9,800時間 × @330円 + 3,200,000円) - 6,412,000円 = 22,000円 (貸方差異)
- ④ 能率差異 (9,650時間 - 9,800時間) × @650円 = -97,500円 (借方差異)
- ⑤ 操業度差異 (9,800時間 - 10,000時間) × @320円 = -64,000円 (借方差異)

(5) 損益計算書項目の計算

① 売上高	1,950個	×	@15,000円	=	29,250,000円
② 月初製品棚卸高	250個	×	@8,950円	=	2,237,500円
③ 当月製品製造原価	1,900個	×	@8,950円	=	17,005,000円
④ 月末製品棚卸高	200個	×	@8,950円	=	1,790,000円

Chapter 13 直接原価計算・CVP分析

Section2 直接原価計算

—基本問題— 13—1

(1) 全部原価計算による損益計算書

$$\text{当期製品製造原価} : 610,000 \text{ 円 (変動製造原価)} + 290,000 \text{ 円 (固定製造原価)} = 900,000 \text{ 円}$$

(2) 直接原価計算による損益計算書

$$\text{当期製品製造原価} : 610,000 \text{ 円 (変動製造原価)}$$

なお、全部原価計算と直接原価計算の営業利益の差額 (40,000 円) は、期首と期末の在庫高に含まれる固定製造原価の差額分である。

$$\text{期首在庫高に含まれる固定製造原価} : 180,000 \text{ 円} - 110,000 \text{ 円} = 70,000 \text{ 円}$$

$$\text{期末在庫量に含まれる固定製造原価} : 100,000 \text{ 円} - 70,000 \text{ 円} = 30,000 \text{ 円}$$

全部原価計算の営業利益－直接原価計算の利益

$$= \text{期末在庫高に含まれる固定製造原価} - \text{期首在庫高に含まれる固定製造原価}$$

$$= 30,000 \text{ 円} - 70,000 \text{ 円}$$

$$= -40,000 \text{ 円}$$

—基本問題— 13—2

(1) 全部原価計算による損益計算書

① 売上高の計算 (販売数量は各期とも 500 個であるため、売上高は各期同額である。)

$$500 \text{ 個} \times @1,800 \text{ 円} = 900,000 \text{ 円}$$

② 売上原価の計算

$$\text{第1期} : \frac{500 \text{ 個} \times (@500 \text{ 円} + @380 \text{ 円} + @260 \text{ 円})}{\text{変動製造原価合計額}} + \frac{150,000 \text{ 円}}{\text{固定製造原価}} = 720,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 600 \text{ 個} \times (@500 \text{ 円} + @380 \text{ 円} + @260 \text{ 円}) \times + 150,000 \text{ 円} = 834,000 \text{ 円}$$

$$\frac{834,000 \text{ 円}}{600 \text{ 個}} \times 500 \text{ 個} = 695,000 \text{ 円} \rightarrow \text{売上原価}$$

$$\frac{834,000 \text{ 円}}{600 \text{ 個}} \times 100 \text{ 個} = 139,000 \text{ 円} \rightarrow \text{期末在庫分}$$

$$\text{第3期} : 400 \text{ 個} \times (@500 \text{ 円} + @380 \text{ 円} + @260 \text{ 円}) + 150,000 \text{ 円} = 606,000 \text{ 円}$$

$$\frac{606,000 \text{ 円}}{\text{製造原価合計額}} + \frac{139,000 \text{ 円}}{\text{前期在庫分}} = 745,000 \text{ 円}$$

製品 (第1期)		製品 (第2期)		製品 (第3期)	
期首在庫 (0 個) 0 円	当期販売 (500 個)	期首在庫 (0 個) 0 円	当期販売 (500 個)	期首在庫 (100 個) 139,000 円	当期販売 (500 個)
当期完成 (500 個)	売上原価 720,000 円	当期完成 (600 個)	売上原価 695,000 円	当期完成 (400 個)	売上原価 745,000 円
720,000 円	期末在庫 (0 個) 0 円	834,000 円	期末在庫 (100 個) 139,000 円	606,000 円	期末在庫 (0 個) 0 円

③ 販売費及び一般管理費の計算 (売上高同様、各期とも同額である。)

$$\frac{500 \text{ 個} \times @60 \text{ 円} + 120,000 \text{ 円}}{\text{販売費} \quad \text{固定一般管理費}} = 150,000 \text{ 円}$$

(2) 直接原価計算による損益計算書

- ① 売上高の計算 (販売数量は各期とも 500 個であるため、売上高は各期同額である。)

$$500 \text{ 個} \times @1,800 \text{ 円} = 900,000 \text{ 円}$$

- ② 変動売上原価の計算 (販売数量が同じため、各期同額である。)

$$500 \text{ 個} \times (@500 \text{ 円} + @380 \text{ 円} + @260 \text{ 円}) = 570,000 \text{ 円}$$

製品 (第1期)		製品 (第2期)		製品 (第3期)	
期首在庫 (0個) 0円	当期販売 (500個)	期首在庫 (0個) 0円	当期販売 (500個)	期首在庫 (100個) 114,000円	当期販売 (500個)
当期完成 (500個)	売上原価 570,000円	当期完成 (600個)	売上原価 570,000円	当期完成 (400個)	売上原価 570,000円
570,000円	期末在庫 (0個) 0円	684,000円	期末在庫 (100個) 114,000円	456,000円	期末在庫 (0個) 0円

- ③ 変動販売費の計算 (各期同額である。)

$$500 \text{ 個} \times @60 \text{ 円} = 30,000 \text{ 円}$$

- ④ 固定費の計算 (各期同額である。)

$$\frac{150,000 \text{ 円}}{\text{固定製造原価}} + \frac{120,000 \text{ 円}}{\text{固定一般管理費}} = 270,000 \text{ 円}$$

—基本問題— 13-3

(1) 全部原価計算による損益計算書

- ① 売上高 : 5,000 個 × @1,500 円 = 7,500,000 円

- ② 売上原価の計算 (生産した 6,000 個の製造原価うち販売した 5,000 個分の原価)

$$\text{売上原価} : \frac{1,900,000 \text{ 円} + 4,340,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 個}} \times 5,000 \text{ 個} = 5,200,000 \text{ 円}$$

$$\text{月末在庫分} : \frac{1,900,000 \text{ 円} + 4,340,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 個}} \times 1,000 \text{ 個} = 1,040,000 \text{ 円}$$

製 品	
当月完成 (6,000 個) 1,900,000 円 4,340,000 円 <u>6,240,000 円</u>	当月販売 (5,000 個) 5,200,000 円 月末在庫 (1,000 個) 1,040,000 円

→ 売上原価

- ③ 販売費および一般管理の計算 (変動販売費は販売数量分を計算)

$$\text{販売費および一般管理費} : 5,000 \text{ 個} \times @150 \text{ 円} + 820,000 \text{ 円} = 1,570,000 \text{ 円}$$

- ④ 営業利益の計算

$$\text{営業利益} : 7,500,000 \text{ 円} - (5,200,000 \text{ 円} + 1,570,000 \text{ 円}) = 730,000 \text{ 円}$$

(2) 直接原価計算による損益計算書

① 売上高：全部原価計算と同じ

② 変動売上原価の計算（生産した6,000個の変動製造原価うち販売した5,000個分の原価）

$$\text{売上原価} : \frac{1,900,000 \text{ 円} + 1,940,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 個}} \times 5,000 \text{ 個} = 3,200,000 \text{ 円}$$

$$\text{月末在庫分} : \frac{1,900,000 \text{ 円} + 1,940,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 個}} \times 1,000 \text{ 個} = 640,000 \text{ 円}$$

製 品		
当月完成 (6,000 個)	当月販売 (5,000 個)	→ <u>売上原価</u>
1,900,000 円	3,200,000 円	
1,940,000 円		
<u>3,840,000 円</u>	月末在庫 (1,000 個)	
	640,000 円	

③ 変動販売費の計算（変動販売費は販売数量分を計算）

$$\text{変動販売費} : 5,000 \text{ 個} \times 150 \text{ 円} = 750,000 \text{ 円}$$

④ 固定費の計算：

$$\text{固定製造原価} : 2,400,000 \text{ 円}$$

$$\text{固定販売費および一般管理費} : 820,000 \text{ 円}$$

⑤ 営業利益の計算：

$$\begin{aligned} \text{営業利益} &: 7,500,000 \text{ 円} - (3,200,000 \text{ 円} + 750,000 \text{ 円} + 2,400,000 \text{ 円} + 820,000 \text{ 円}) \\ &= 330,000 \text{ 円} \end{aligned}$$

なお、全部原価計算と直接原価計算の営業利益の差額 400,000 円（=730,000 円-330,000 円）は、全部原価計算において月末在庫分に含まれる固定製造原価の金額と一致する。

$$\text{固定製造原価の月末在庫分} : \frac{2,400,000 \text{ 円}}{6,000 \text{ 個}} \times 1,000 \text{ 個} = 400,000 \text{ 円}$$

◆検定対策問題◆ 1.

(1) 全部原価計算による損益計算書

①売上高の計算：

$$\text{第1期} : 3,400 \text{ 個} \times @2,000 \text{ 円} = 6,800,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 3,000 \text{ 個} \times @2,000 \text{ 円} = 6,000,000 \text{ 円}$$

$$\text{第3期} : 4,000 \text{ 個} \times @2,000 \text{ 円} = 8,000,000 \text{ 円}$$

②売上原価の計算：

$$\text{第1期} : 3,400 \text{ 個} \times (\underset{\text{単位当たり変動製造原価}}{@700 \text{ 円}} + \underset{\text{製造間接費予定配賦率}}{@600 \text{ 円}}) = 4,420,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 3,000 \text{ 個} \times (@700 \text{ 円} + @600 \text{ 円}) = 3,900,000 \text{ 円}$$

$$\text{第3期} : 4,000 \text{ 個} \times (@700 \text{ 円} + @600 \text{ 円}) = 5,200,000 \text{ 円}$$

③原価差異（製造間接費配賦差異）の計算

$$\text{第1期} : \frac{4,000 \text{ 個} \times @600 \text{ 円}}{\text{予定配賦額}} - 2,400,000 \text{ 円} = 0 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 4,800 \text{ 個} \times @600 \text{ 円} - 2,400,000 \text{ 円} = 480,000 \text{ 円 (貸方差異)}$$

$$\text{第3期} : 3,000 \text{ 個} \times @600 \text{ 円} - 2,400,000 \text{ 円} = -600,000 \text{ 円 (借方差異)}$$

※予定配賦額の計算においては、販売数量ではなく生産数量に予定配賦率（@600 円）を掛ける点に気をつけること。

④販売費および一般管理費

$$\text{第1期} : \underbrace{3,400 \text{ 個} \times @100 \text{ 円}}_{\text{変動販売費}} + \underbrace{610,000 \text{ 円}}_{\text{固定販売費}} + \underbrace{720,000 \text{ 円}}_{\text{固定一般管理費}} = 1,670,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 3,000 \text{ 個} \times @100 \text{ 円} + 610,000 \text{ 円} + 720,000 \text{ 円} = 1,630,000 \text{ 円}$$

$$\text{第3期} : 4,000 \text{ 個} \times @100 \text{ 円} + 610,000 \text{ 円} + 720,000 \text{ 円} = 1,730,000 \text{ 円}$$

(2) 直接原価計算による損益計算書

①売上高の計算：全部原価計算の場合と同額である。

②変動売上原価の計算：

$$\text{第1期} : 3,400 \text{ 個} \times \underbrace{@700 \text{ 円}}_{\text{単位当たり変動製造原価}} = 2,380,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 3,000 \text{ 個} \times @700 \text{ 円} = 2,100,000 \text{ 円}$$

$$\text{第3期} : 4,000 \text{ 個} \times @700 \text{ 円} = 2,800,000 \text{ 円}$$

③変動販売費の計算：

$$\text{第1期} : 3,400 \text{ 個} \times @100 \text{ 円} = 340,000 \text{ 円}$$

$$\text{第2期} : 3,000 \text{ 個} \times @100 \text{ 円} = 300,000 \text{ 円}$$

$$\text{第3期} : 4,000 \text{ 個} \times @100 \text{ 円} = 400,000 \text{ 円}$$

④固定費の計算

$$\text{毎期同額} : \underbrace{2,400,000 \text{ 円}}_{\text{固定製造原価}} + \underbrace{610,000 \text{ 円}}_{\text{固定販売費}} + \underbrace{720,000 \text{ 円}}_{\text{固定一般管理費}} = 3,730,000 \text{ 円}$$

◆検定対策問題◆ 2.

(1) 売上高の計算：

$$\text{売上高} : 2,850 \text{ 個} \times @10 \text{ 万円} = 28,500 \text{ 万円}$$

(2) 変動売上原価の計算

①月初製品有高：890 万円 + 1,260 万円 + 680 万円 = 2,830 万円

②当月製品変動製造原価の計算：

製造間接費が予定配賦されているため、変動製造間接費予定配賦額を計算する必要がある。

$$\text{変動製造間接費予定配賦率} : \frac{54,000 \text{ 万円}}{36,000 \text{ 個}} = @1.5 \text{ 万円}$$

$$\text{変動製造間接費予定配賦額} : \frac{2,700 \text{ 個}}{\text{当月投入量}} \times @1.5 \text{ 万円} = 4,050 \text{ 万円}$$

$$\text{当月製品変動製造原価} : \underbrace{5,400 \text{ 万円}}_{\text{直接材料費}} + \underbrace{7,830 \text{ 万円}}_{\text{直接労務費}} + 4,050 \text{ 万円} = 17,280 \text{ 万円}$$

③月末製品有高の計算：

庫出単価の計算が先入先出法であるため、月末製品有高は当月製品製造原価の単価で計算する。

$$\text{月末製品有高} : \frac{17,280 \text{ 万円}}{2,700 \text{ 個}} \times 300 \text{ 個 (月末在庫数量)} = 1,920 \text{ 万円}$$

④原価差異（変動製造間接費配賦差異）の計算：

$$\text{原価差異} : \underbrace{4,050 \text{ 万円}}_{\text{予定配賦額}} - \underbrace{4,185 \text{ 万円}}_{\text{実際発生額}} = -135 \text{ 万円 (借方差異)}$$

借方差異（予定額より実際額が大きい）のため、変動売上原価に加算する。

(3) 変動販売費の計算：

$$\text{変動販売費} : 1,710 \text{ 万円}$$

(4) 固定費の計算

①固定製造間接費：3,600 万円

②固定販売費及び一般管理費：1,235 万円 + 2,430 万円 = 3,665 万円

Section3 CVP分析

—基本問題— 13-4

売上高－(変動費＋固定費)＝利益 という基本的な計算式をベースに、販売数量をxとおき、方程式を立てる。

問1 $1,000x - (600x + 1,500,000 \text{ 円}) = 0 \text{ 円}$

$$400x = 1,500,000 \text{ 円}$$

$$x = 3,750 \text{ 個 (損益分岐点の販売数量)}$$

$$3,750 \text{ 個} \times @1,000 \text{ 円} = 3,750,000 \text{ 円 (損益分岐点の売上高)}$$

問2 $1,000x - (600x + 1,500,000 \text{ 円}) = 700,000 \text{ 円 (目標営業利益)}$

$$400x = 2,200,000 \text{ 円}$$

$$x = 5,500 \text{ 個 (営業利益 300,000 円を達成するための販売数量)}$$

$$5,500 \text{ 個} \times @1,000 \text{ 円} = 5,500,000 \text{ 円 (営業利益 300,000 円を達成するための売上高)}$$

問3 $1,000x - (600x + 1,500,000 \text{ 円}) = 1,000x \times 0.2$

$$400x - 200x = 1,500,000 \text{ 円}$$

$$x = 7,500 \text{ 個 (営業利益率 20%を達成するための販売数量)}$$

$$7,500 \text{ 個} \times @500 \text{ 円} = 7,500,000 \text{ 円 (営業利益率 20%を達成するための売上高)}$$

問4 安全余裕率：
$$\frac{5,000,000 \text{ 円} - 3,750,000 \text{ 円}}{5,000,000 \text{ 円}} \times 100 = 25\%$$

次のような計算でも解くことができる。

$$\text{損益分岐点の売上高} = \frac{\text{固定費}}{\text{貢献利益率}}$$

$$\text{損益分岐点の販売数量} = \frac{\text{固定費}}{\text{単位当たり貢献利益}}$$

$$\text{本問の貢献利益率} = \frac{@1,000 \text{ 円} - @600 \text{ 円}}{500 \text{ 円}} = 0.4$$

問1 損益分岐点の売上高：
$$\frac{1,500,000 \text{ 円}}{0.4} = 3,750,000 \text{ 円}$$

$$\text{損益分岐点の販売数量} = \frac{1,500,000 \text{ 円}}{400 \text{ 円}} = 3,750 \text{ 個}$$

問2 営業利益 300,000 円を達成するための売上高：
$$\frac{1,500,000 \text{ 円} + 700,000 \text{ 円}}{0.4} = 5,500,000 \text{ 円}$$

$$\text{営業利益 300,000 円を達成するための販売数量} = \frac{5,500,000 \text{ 円}}{@1,000 \text{ 円}} = 5,500 \text{ 個}$$

問3 営業利益率 20%を達成するための売上高：
$$\frac{1,500,000 \text{ 円}}{0.4 - 0.2} = 7,500,000 \text{ 円}$$

$$\text{営業利益率 20%を達成するための販売数量} = \frac{7,500,000 \text{ 円}}{@1,000 \text{ 円}} = 7,500 \text{ 個}$$

—基本問題— 13-5

問1 単位当たり変動費：@120円（製造原価）+@30円/個（販売費）=@150円

販売数量を x とおき、方程式を立てる。

$$200x - (150x + 1,000,000 \text{ 円}) = 0 \text{ 円}$$

$$500x = 1,000,000 \text{ 円}$$

$$x = 20,000 \text{ 個（損益分岐点の販売数量）}$$

$$20,000 \text{ 個} \times @200 \text{ 円/個} = 4,000,000 \text{ 円（損益分岐点の売上高）}$$

別解法

$$\text{貢献利益率} : \frac{@200 \text{ 円} - @150 \text{ 円}}{@200 \text{ 円}} = 0.25$$

$$\text{損益分岐点の売上高} : \frac{1,000,000 \text{ 円}}{0.25} = 4,000,000 \text{ 円}$$

$$\text{損益分岐点の販売数量} : \frac{1,000,000 \text{ 円}}{@50 \text{ 円}} = 20,000 \text{ 個}$$

問2 新たな販売価格：200円 × (1+0.1) = 220円

$$30,000 \text{ 個} \times @220 \text{ 円} - (30,000 \text{ 個} \times 150 \text{ 円/個} + 1,000,000 \text{ 円}) = 1,100,000 \text{ 円}$$

価格の上昇分だけ利益額も増加することになるので、次のようにも計算できる。

$$30,000 \text{ 個} \times 20 \text{ 円（販売価格上昇分）} = 600,000 \text{ 円}$$

$$500,000 \text{ 円（予定営業利益）} + 600,000 \text{ 円} = 1,100,000 \text{ 円}$$

問3 新たな固定費：1,000,000円 × (1-0.05) = 950,000円

$$30,000 \text{ 個} \times @200 \text{ 円} - (30,000 \text{ 個} \times 150 \text{ 円} + 950,000 \text{ 円}) = 550,000 \text{ 円}$$

固定費の削減分だけ利益額が増加することになるので、次のようにも計算できる。

$$500,000 \text{ 円（予定営業利益）} + 50,000 \text{ 円（固定費の削減分）} = 550,000 \text{ 円}$$

問4 新たな単位当たり変動製造原価：120円 × (1-0.25) = 90円

新たな単位当たり変動費合計額：@90円 + @30円 = 120円

$$200x - (120x + 1,000,000 \text{ 円}) = 0 \text{ 円}$$

$$80x = 1,000,000 \text{ 円}$$

$$x = 12,500 \text{ 個}$$

$$12,500 \text{ 個} \times @200 \text{ 円} = 2,500,000 \text{ 円}$$

別解法

$$\text{貢献利益率} : \frac{@200 \text{ 円} - @120 \text{ 円}}{@200 \text{ 円}} = 0.4$$

$$\text{損益分岐点の売上高} : \frac{1,000,000 \text{ 円}}{0.4} = 2,500,000 \text{ 円}$$

$$\text{損益分岐点の販売数量} : \frac{1,000,000 \text{ 円}}{@80 \text{ 円}} = 12,500 \text{ 個}$$

—基本問題— 13-6

正常操業圏が2,200時間から2,700時間であるため、2月のデータは使用せず、1月と5月のデータを使用して固定分解を行う。

最高操業度（5月） 2,600時間 2,720,000円

最低操業度（1月） 2,250時間 2,475,000円

$$\text{単位当たりの変動費} : \frac{2,720,000 \text{円} - 2,475,000 \text{円}}{2,600 \text{時間} - 2,250 \text{時間}} = @700 \text{円}$$

$$\text{固定費（月額）} : 2,720,000 \text{円} - 2,600 \text{時間} \times @700 \text{円} = 900,000 \text{円}$$

あるいは

$$2,475,000 \text{円} - 2,250 \text{時間} \times @700 \text{円} = 900,000 \text{円}$$

予想直接作業時間2,500時間の場合の予想原価発生額は、次のように計算できる。

$$2,500 \text{時間} \times @700 \text{円} + 900,000 \text{円} = 2,650,000 \text{円}$$

◆検定対策問題◆ 3.

問1 単位当たり変動費合計額：@300円 + @60円 = @360円

$$\text{固定費合計額} : 264,000 \text{円} + 216,000 \text{円} = 480,000 \text{円}$$

$$600x - (360x + 480,000 \text{円}) = 0 \text{円}$$

$$240x = 480,000 \text{円}$$

$$x = 2,000 \text{個}$$

問2 問1で損益分岐点の販売数量が計算されているため、損益分岐点の売上高はそれに販売価格を掛ければ求められる。

$$2,000 \text{個} \times @600 \text{円/個} = 1,200,000 \text{円}$$

問3 目標利益額を360,000円として方程式を立てる。

$$600x - (360x + 480,000 \text{円}) = 360,000 \text{円（目標利益額）}$$

$$240x = 840,000 \text{円}$$

$$x = 3,500 \text{個}$$

問4 新たな販売価格と当期の営業利益(240,000円)を目標利益として方程式を立てる。

$$\text{新たな販売価格} : 600 \text{円} \times (1 - 0.08) = 552 \text{円}$$

$$552x - (360x + 480,000 \text{円}) = 240,000 \text{円（当期の営業利益）}$$

$$192x = 720,000 \text{円}$$

$$X = 3,750 \text{個}$$

問4 新たな販売価格(552円)で3,500個販売した時の営業利益を算定し、当期の営業利益(240,000円)との差額を求め、その差額分だけ固定費を削減すればよいことになる。

$$3,500 \text{個} \times @552 \text{円} - (3,500 \text{個} \times @360 \text{円} + 480,000 \text{円}) = 192,000 \text{円}$$

$$240,000 \text{円（当期の営業利益）} - 192,000 \text{円（3,500個販売時の営業利益）} = 48,000 \text{円}$$

◆検定対策問題◆ 4.

問1 各項目の金額は、次のように計算する。

$$\text{変動売上原価} : 75,000 \text{個} \times (@40 \text{円} + @30 \text{円} + @50 \text{円}) = 9,000,000 \text{円}$$

$$\text{変動販売費} : 75,000 \text{個} \times @20 \text{円} = 1,500,000 \text{円}$$

固定製造原価：

固定製造原価は、全部原価計算の売上原価から変動売上原価を差し引くことにより求める。

$$\text{固定製造原価} : 13,000,000 \text{円} - 9,000,000 \text{円} = 4,000,000 \text{円}$$

固定販売費及び一般管理費：

固定販売費及び一般管理費は、全部原価計算の販売費及び一般管理費から変動販売費を差し引くことにより求める。

$$\text{固定販売費及び一般管理費} : 4,700,000 \text{ 円} - 1,500,000 \text{ 円} = 3,200,000 \text{ 円}$$

問2 販売数量を x とおき、方程式を立てる。

なお、単位当たり変動費の合計額と固定費の合計額は、次のとおりである。

$$\text{単位当たり変動費合計額} : @40 \text{ 円} + @30 \text{ 円} + @50 \text{ 円} + @20 \text{ 円} = 140 \text{ 円}$$

$$\text{固定費合計額} : 4,000,000 \text{ 円} + 3,200,000 \text{ 円} = 7,200,000 \text{ 円}$$

$$300x - (140x + 7,200,000 \text{ 円}) = 0 \text{ 円}$$

$$160x = 7,200,000 \text{ 円}$$

$$x = 45,000 \text{ 個}$$

$$45,000 \text{ 個} \times @300 \text{ 円} = 13,500,000 \text{ 円}$$

問3 目標利益を 9,600,000 円 (=4,800,000 円×2) としして方程式を立てる。

$$300x - (140x + 7,200,000 \text{ 円}) = 9,600,000 \text{ 円}$$

$$160x = 16,800,000 \text{ 円}$$

$$x = 105,000 \text{ 個}$$

$$105,000 \text{ 個} \times @300 \text{ 円} = 31,500,000 \text{ 円}$$

◆検定対策問題◆ 5.

問1 正常操業圏が 32,000 単位から 54,000 単位であるため、3月のデータは使用せず、2月と6月のデータにより最大の売上高と最小の売上高とする。

$$\text{最大の売上高} : 52,000 \text{ 単位} \times 200 \text{ 円/単位} = 10,400,000 \text{ 円}$$

$$\text{最小の売上高} : 33,000 \text{ 単位} \times 200 \text{ 円/単位} = 6,600,000 \text{ 円}$$

問2

$$\text{単位当たりの変動費} : \frac{8,640,000 \text{ 円} - 6,360,000 \text{ 円}}{52,000 \text{ 単位} - 33,000 \text{ 単位}} = 120 \text{ 円/単位}$$

$$\text{固定費 (月間)} : 8,640,000 \text{ 円} - 52,000 \text{ 単位} \times 120 \text{ 円/単位} = 2,400,000 \text{ 円}$$

あるいは

$$6,360,000 \text{ 円} - 33,000 \text{ 単位} \times 120 \text{ 円/単位} = 2,400,000 \text{ 円}$$

問3 販売数量を x とおき、方程式を立てる。

$$200x - (120x + 2,400,000 \text{ 円}) = 0 \text{ 円}$$

$$80x = 2,400,000 \text{ 円}$$

$$x = 30,000 \text{ 単位}$$

$$30,000 \text{ 単位} \times 200 \text{ 円/単位} = 6,000,000 \text{ 円}$$

問4 目標営業利益を 1,800,000 円 (総資本営業利益率が 3%となる金額 : 60,000,000 円×3%=1,800,000 円) としして、方程式を立てる。

$$200x - (120x + 2,400,000 \text{ 円}) = 1,800,000 \text{ 円}$$

$$80x = 4,200,000 \text{ 円}$$

$$x = 52,500 \text{ 単位}$$

$$52,500 \text{ 単位} \times 200 \text{ 円/単位} = 10,500,000 \text{ 円}$$

Chapter14 工場会計の独立

Section2 工場会計を独立させた場合の記帳

—基本問題— 14-1

- ① 工場会計が独立していない場合、すべての取引は本社で記帳するため、工場での記帳は行わなければならない。
- ② 本問では製品勘定が本社に設定されているため、(3)の工場の仕訳は必要なしであるが、工場に製品倉庫があり、そこから販売先に直送するようなケースで、工場に製品勘定が設定されている場合には、次のような仕訳になる

(本社)	(借)	売掛金	450,000		(貸)	売	上	450,000
		売上原価	340,000			工	場	340,000
(工場)	(借)	本 社	340,000		(貸)	製	品	340,000

—基本問題— 14-2

- ① (2)、(4)、(6) は工場のみに関係する取引であるため、本社では記帳しない。
- ② 製品勘定が本社に設定されているため、製品の販売に関する取引はすべて本社で記帳され、工場では記帳しない。
製品勘定が工場に設定されている場合で、工場の製品倉庫から販売先に直送するケースでは、(7) と (8) の仕訳は、次のようになる。

(本社)	(7)	仕訳なし							
	(8)	(借)	売掛金	1,800,000		(貸)	売	上	1,800,000
			売上原価	1,500,000			工	場	1,500,000
(工場)	(7)	(借)	製 品	1,500,000		(貸)	仕掛品	1,500,000	
	(8)	(借)	本 社	1,500,000		(貸)	製 品	1,500,000	

◆検定対策問題◆ 1.

- (1) 材料の購入に関する支払いは本社で行っているため、本社、工場の両方で記帳する取引である。
材料購入原価：2,000 kg×1,800 円/kg+190,000 円=3,790,000 円
(購入単価：3,790,000 円÷2,000 kg=1,895 円/kg)
- (2) 工場のみで記帳する取引である。
仕掛品 (直接材料費) の金額：1,600 kg×1,895 円/kg=3,032,000 円
製造間接費 (間接材料費) の金額：300 kg×1,895 円/kg=568,500 円
- (3) 工場のみで記帳する取引である。
仕掛品 (直接労務費) の金額：3,400 時間×1,400 円/時=4,760,000 円
製造間接費 (間接労務費) の金額：
間接賃金・手待賃金：(760 時間+40 時間) ×1,400 円/時=1,120,000 円
間接工賃金： 2,120,000 円-710,000 円+690,000 円 =2,100,000 円
合 計 3,220,000 円
- (4) 工場のみで記帳する取引である。
減価償却累計額勘定は本社に設定されることもあるが、本問では工場に設定されているため、工場のみで記帳する取引になる。
- (5) 工場のみで記帳する取引である。
製造間接費予定配賦率： $\frac{36,125,000 \text{ 円}}{42,500 \text{ 時間}} = 850 \text{ 円/時}$
製造間接費予定配賦額：3,400 時間×850 円/時=2,890,000 円